



THE NATIONAL
ART CENTER, TOKYO
国立新美術館

NACT REPORT
APRIL 2009-MARCH 2010
平成21年度 活動報告

平成21年度
国立新美術館 活動報告

NACT REPORT
April 2009 - March 2010
The National Art Center, Tokyo

※ 本 PDF 版では、刊行された『平成 21 年度 国立新美術館活動報告』の記載内容を一部変更し、「サポート・スタッフ名簿」は掲載していません。

目次 Contents

1	平成21年度主要記事	Record of Events April 2009 – March 2010	5
2	展覧会	Exhibitions	7
2-1	平成21年度展覧会一覧	Exhibitions List April 2009 – March 2010	8
2-2	平成20年度までの展覧会一覧	Past Exhibitions List to March 2009	10
2-3	展覧会記録	Exhibition Details	13
3	美術団体等への展覧会会場提供	Provision of Exhibition Venues to Artist Associations	33
4	教育普及	Education and Public Programs	41
4-1	講演会等	Lectures, etc.	42
4-2	ワークショップ	Workshops	47
4-3	インターン、ボランティア	Internships and Volunteering	49
4-4	その他の教育普及事業	Other Education and Public Programs	49
5	情報資料収集・提供	Collection and Provision of the Library and Information Services	51
5-1	美術関連資料の収集と公開	Collection and Provision of the Library Materials	52
5-2	JACプロジェクト	JAC Project	54
5-3	展覧会情報の収集と提供	Collection and Provision of the Information Services	54
6	広報・出版	Publicity and Publications	55
6-1	印刷物	Publications	56
6-2	ホームページ	Website	63
6-3	広報活動	Publicity Activities	63
7	調査・研究	Research	67
8	その他の事業	Other Programs and Events	71
9	記録	Records	73
9-1	入場者数	Number of Visitors	74
9-2	予算	Revenue and Expenditure	74
9-3	企業協賛	Corporate Support	74
9-4	来館者サービス	Visitor Services	74
9-5	国際交流	International Exchanges	75
9-6	展覧会出品リスト	List of Works	80
9-7	名簿	The NACT Council and Staff List	116

1 | 平成21年度主要記事

Record of Events April 2009 – March 2010

主な事業

平成21(2009)年

5月27日 『野村仁 変化する相一時・場・身体』開催(～7月27日)

6月24日 『ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ』開催(～9月7日)

8月19日 『光 松本陽子／野口里佳』開催(～10月19日)

8月20日 国立新美術館評議員会(平成21年度第1回)開催

9月25日 『THE ハプスブルク』開催(～12月14日)

12月12日 『未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2009 文化庁芸術家在外研修の成果』開催(～1月24日)

平成22(2010)年

1月20日 『ルノワール—伝統と革新』開催(～4月5日)

2月3日 『平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭』開催(～2月14日)

3月3日 『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』開催(～5月5日)

協力等

平成21(2009)年

9月3日 「みなとほほえみ週間」への協力(主催:港区)

10月10日 「'09みなと区民まつり」(～10月11日)協賛
(主催:みなと区民まつり実行委員会)

平成22(2010)年

2月1日 「みなとミュージアムズ2010」(～3月15日)への協力
(主催:港区)

トピックス

平成21(2009)年

5月13日 高円宮妃殿下『第105回 太平洋展』及び『第31回 日本新工芸展』御観覧

9月13日 延べ展覧会入場者数700万人を達成

9月24日 高円宮妃殿下『THE ハプスブルク』開会式御臨席

10月1日 オーストリア共和国ハインツ・フィッシャー大統領及び秋篠宮同妃両殿下『THE ハプスブルク』御観覧

11月12日 天皇陛下御在位20年慶祝行事等の実施

平成22(2010)年

1月27日 中川文部科学副大臣御視察

2月5日 中川文部科学副大臣『平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭』御観覧

2月12日 延べ展覧会入場者数800万人を達成

3月27日 六本木アートナイト2010開催(～3月28日)



11月12日 天皇陛下御在位20年慶祝行事

2

展覧会

Exhibitions

2-1 平成21年度展覧会一覧

Exhibitions List April 2009 – March 2010

2-2 平成20年度までの展覧会一覧

Past Exhibitions List to March 2009

2-3 展覧会記録

Exhibition Details

2-1 平成21年度展覧会一覧 Exhibitions List April 2009 - March 2010

アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち
Artist File 2009—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成21(2009)年3月4日(水)～5月6日(水)
日数：56日(うち21年度；32日)
入場者数：37,426人(うち21年度；18,933人)(1日平均668人)
入場：有料
種別：自主企画展



ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち
L'enfant dans les collections du musée du Louvre

会期：平成21(2009)年3月25日(水)～6月1日(月)
日数：60日(うち21年度；54日)
入場者数：221,892人(うち21年度；201,251人)(1日平均3,698人)
入場：有料
種別：共催展



野村仁 変化する相—時・場・身体
NOMURA HITOSHI: PERCEPTIONS—CHANGES IN TIME AND FIELD

会期：平成21(2009)年5月27日(水)～7月27日(月)
日数：53日
入場者数：14,037人(1日平均260人)
入場：有料
種別：自主企画展



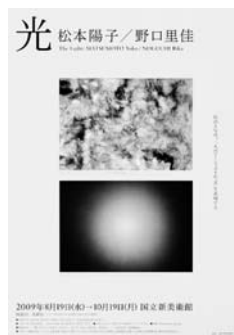
ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ
René Lalique: A Retrospective

会期：平成21(2009)年6月24日(水)～9月7日(月)
日数：66日
入場者数：120,990人(1日平均1,833人)
入場：有料
種別：共催展



光 松本陽子／野口里佳
The Light: MATSUMOTO Yoko / NOGUCHI Rika

会期：平成21(2009)年8月19日(水)～10月19日(月)
日数：54日
入場者数：20,188人(1日平均374人)
入場：有料
種別：自主企画展



THE ハプスブルク

Treasures of Habsburg Monarchy
140th Jubilee of the Friendship Treaty between Austria – Hungary and Japan

会期：平成21(2009)年9月25日(金)～12月14日(月)
日数：70日
入場者数：390,219人(1日平均5,575人)
入場：有料
種別：共催展



未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2009 文化庁芸術家在外研修の成果
“DOMANI: The Art of Tomorrow 2009” Exhibition,
The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program
for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成21(2009)年12月12日(土)～平成22(2010)年1月24日(日)
日数：26日
入場者数：14,037人(1日平均540人)
入場：有料
種別：共催展



ルノワール—伝統と革新

Renoir: Tradition and Innovation

会期：平成22(2010)年1月21日(水)～4月5日(月)
日数：66日(うち21年度：61日)
入場者数：295,770人(3月31日まで)(1日平均4,849人)
入場：有料
種別：共催展



平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭

2009 [13th] Japan Media Arts Festival

会期：平成22(2010)年2月3日(水)～2月14日(日)
日数：11日
入場者数：58,242人(1日平均5,295人)
入場：無料
種別：共催展



アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち

Artist File 2010—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成22(2010)年3月3日(水)～5月5日(水)
日数：56日(うち21年度：25日)
入場者数：16,100人(3月31日まで)(1日平均644人)
入場：有料
種別：自主企画展



2-2 平成20年度までの展覧会一覧 Past Exhibitions List to March 2009

国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—
Living in the Material World—‘Things’ in Art of the 20th Century and Beyond

会期：平成19(2007)年1月21日(日)～3月19日(月)

黒川紀章展—機械の時代から生命の時代へ
KISHO KUROKAWA: From the Age of the Machine to the Age of Life

会期：平成19(2007)年1月21日(日)～3月19日(月)

文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力
The Power of Expression, JAPAN

会期：平成19(2007)年1月21日(日)～2月4日(日)

エトランジェ
異邦人たちのパリ1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展
Paris du monde entier : Artistes étrangers à Paris 1900-2005. Exposition organisée par le Centre Pompidou

会期：平成19(2007)年2月7日(水)～5月7日(月)

大回顧展 モネ 印象派の巨匠、その遺産
Claude Monet: L'art de Monet et sa postérité

会期：平成19(2007)年4月7日(土)～7月2日(月)

スキン+ボーンズ—1980年代以降の建築とファッション
Skin + Bones: Parallel Practices in Fashion and Architecture

会期：平成19(2007)年6月6日(水)～8月13日(月)

日展100年
The 100th Anniversary of NITTEN

会期：平成19(2007)年7月25日(水)～9月3日(月)

安齊重男の パーソナル フォト アーカイブス “私・写・録” 1970-2006
ANZAI: Personal Photo Archives 1970-2006

会期：平成19(2007)年9月5日(水)～10月22日(月)

アムステルダム国立美術館所蔵 フェルメール「牛乳を注ぐ女」とオランダ風俗画展
Milkmaid by Vermeer and Dutch Genre Painting—Masterworks from the Rijksmuseum Amsterdam

会期：平成19(2007)年9月26日(水)～12月17日(月)

文化庁芸術家在外研修制度40周年記念 『旅』展—異文化との出会い、そして対話—
The 40th Anniversary of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs: Journey—Encounters and Dialogues with Foreign Cultures

会期：平成19(2007)年12月15日(土)～平成20(2008)年1月28日(月)

没後50年 横山大観—新たなる伝説へ
YOKOYAMA TAIKAN Fifty Years On—A legend in the making

会期：平成20(2008)年1月23日(水)～3月3日(月)

平成19年度[第11回]文化庁メディア芸術祭
2007 [11th] Japan Media Arts Festival

会期：平成20(2008)年2月6日(水)～2月17日(日)

アーティスト・ファイル2008—現代の作家たち
Artist File 2008—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成20(2008)年3月5日(水)～5月6日(火)

モディリアーニ展
Modigliani et le Primitivisme

会期：平成20(2008)年3月26日(水)～6月9日(月)

エミリー・ウングワレー展—アボリジニが生んだ天才画家
Utopia: the Genius of Emily Kame Kngwarreye

会期：平成20(2008)年5月28日(水)～7月28日(月)

ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密
European Still-Life Painting from the Kunsthistorisches Museum Wien

会期：平成20(2008)年7月2日(水)～9月15日(月)

アヴァンギャルド・チャイナ—〈中国当代美術〉二十年—
AVANT-GARDE CHINA: Twenty Years of Chinese Contemporary Art

会期：平成20(2008)年8月20日(水)～10月20日(月)

巨匠ピカソ 愛と創造の軌跡
Picasso : Sa vie et sa création

会期：平成20(2008)年10月4日(土)～12月14日(日)

未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2008 文化庁芸術家在外研修の成果
“DOMANI: The Art of Tomorrow 2008” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program
for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成20(2008)年12月13日(土)～平成21(2009)年1月26日(月)

加山又造展
KAYAMA Matazo Retrospective

会期：平成21(2009)年1月21日(水)～3月2日(月)

平成20年度[第12回]文化庁メディア芸術祭
2008 [12th] Japan Media Arts Festival

会期：平成21(2009)年2月4日(水)～2月15日(日)

2-3 展覧会記録 Exhibition Details

アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち Artist File 2009—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成21(2009)年3月4日(水)～5月6日(水)
日数：56日(うち21年度：32日)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
入場者数：37,426人(うち21年度：18,933人)(1日平均668人)
入場：有料
主催：国立新美術館
協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社、株式会社イトーキ
展示協力：エプソン販売株式会社
助成：モンドリアン財団

講演会等：

●アーティスト・トーク(対談)
日時：4月4日(土)14時～15時45分
講演：津上みゆき(出品作家)、佐野みどり(学習院大学教授)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：80人

●アーティスト・トーク
日時：4月10日(金)18時～19時20分
講演：石川直樹(出品作家)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：129人

●アーティスト・トーク
日時：4月18日(土)14時～16時
講演：金田実生、齋藤芽生(出品作家)
会場：国立新美術館 研修室A, B
参加者数：230人

●アーティスト・ワークショップ「石から生み出すいろいろなカタチ」
日時：4月5日(日)13時30分～17時30分
講師：村井進吾(出品作家)
会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他
対象：小学校4年生以上大人まで
参加者数：18人

※本展の平成20年度開催記録および出品リストは、
『平成20年度 国立新美術館活動報告』に記載した。



4月4日 アーティスト・トーク



4月5日 ワークショップ

ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち
L'enfant dans les collections du musée du Louvre

「美術のなかの子ども」をテーマとして、ルーヴル美術館全8部門のうち、新設のイスラム美術部門を除く7部門(古代エジプト美術、古代オリエント美術、古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術、美術工芸品、絵画、彫刻、素描・版画)から選りすぐられた197点の作品を紹介した。部門ごとに章を分けるのではなく、「子ども」にまつわる7つのテーマを設定し、それぞれにふさわしい作品を各部門から選出した。明確なテーマ性のもとに、古代エジプト美術から19世紀のヨーロッパ近代絵画まで、時代・地域・ジャンルを横断する作品を組み合わせることで展示することによって、各テーマをめぐる視覚表現の多様性／普遍性を提示することができた。また同時に、ルーヴル美術館のコレクションの特色や豊かさを十全に伝える機会ともなった。

Organized around the theme of children in art, this exhibition introduced 197 carefully selected works of art from seven of the eight curatorial departments of the Musée du Louvre: Egyptian Antiquities; Near Eastern Antiquities; Greek, Etruscan, and Roman Antiquities; Decorative Arts; Paintings; Sculptures; and Prints and Drawings. (The museum's new Islamic Art department was not represented.) Rather than presenting the artworks according to department, we drew up seven themes relating to different aspects of childhood and selected appropriate works from each curatorial department. This juxtaposition of art from different periods, regions, and genres—from ancient Egyptian relics to nineteenth-century European paintings—revealed both the diversity and universality of visual expression in each area. At the same time, the exhibition provided an excellent introduction to the distinctive richness of the Louvre collections.

会期：平成21(2009)年3月25日(水)～6月1日(月)
日数：60日(うち21年度；54日)
会場：国立新美術館 企画展示室1E
入場者数：221,892人(うち21年度；201,251人)(1日平均3,698人)
入場：有料
主催：国立新美術館、ルーヴル美術館、朝日新聞社、テレビ朝日
後援：フランス大使館
協賛：ソシエテ ジェネラル グループ、大日本印刷
協力：ニッセイ同和損保保険、日本航空、日本通運
総合コミッショナー：ギユメット・アンドルー＝ラノエ(ルーヴル美術館 古代エジプト美術部長)
日本側監修：大野芳材(青山学院女子短期大学芸術学科教授)
巡回展：国立国際美術館
平成21(2009)年6月23日(火)～9月23日(水)



講演会等：
●講演会「子どもへのまなざし—フランス美術のなかの子ども」
日時：4月5日(日)14時～15時30分
講演：大野芳材(青山学院女子短期大学芸術学科教授)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：75人

関連事業：
●映画「クラス・ルーヴル」上映会
日時：4月25日(土)、5月9日(土)各日13時～15時～の2回上映(上映時間52分)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：4月25日 1回目：129人、2回目：133人
5月9日 1回目：130人、2回目：145人



カタログ：『ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち』
A4変型、280ページ、図版カラー272点・白黒77点、
20,000部

出品目録：仕上りA4判、二つ折、4ページ、100,000部(初版部数)
フランス語版：A4両面、200部

ポスター：B0判、24部
B1判、170部
B1判(6種)、各30部
B2判、500部
B3判まど上・中吊り、3,270部
B3変型(インターサイズ)、3,000部

チラシ：A4判、300,000部、先行配布；A4判、200,000部

関連記事：

サライ／平成21(2009)年4月2日／菅谷淳夫

週刊新潮／4月16日／福田和也

迷宮美術館(NHK)／4月30日

芸術新潮／4月号

毎日新聞(夕刊)／5月19日／永田晶子

BRIO／5月号／池上英洋

他 多数

※出品リスト：pp.80-83



4月5日 講演会

野村仁 変化する相一時・場・身体

NOMURA HITOSHI: PERCEPTIONS—CHANGES IN TIME AND FIELD

野村仁は、1945年、兵庫県に生まれ、関西を拠点に活動を展開してきた現代美術家である。野村は、1960年代末から写真を使った美術表現に取り組み、巨大なダンボールの立体やドライアイスの塊がゆっくりと形を変え、その様相を変化させていくさまを写真で記録することにより、「重力」や「時間」を眼に見えるよう作品化し注目を集めた。そうした物質の変化を観察するなかで、「存在とは何か」や「世界とは何か」に関心を抱いた野村は、関心の対象を宇宙やDNAへと広げ、人間の知覚を離れて地上や天空を見直せば万物を統合する大きな力に触れられることを、写真だけでなく、映像や音などさまざまなメディアを使って表現してきた。その意味で野村は、マルチメディア・アーティストの先駆者であるともいえる。本展は、科学と芸術の境界線上で40年近く独自の活動を展開してきた現代美術家、野村仁の40年近くにおよぶ活動を振り返る、東京では初の大規模な回顧展である。

NOMURA Hitoshi is a Kansai-based contemporary artist born in Hyogo Prefecture in 1945. Nomura began using photographs as a means of artistic expression in the late 1960s, rising to prominence with work that recorded the shifting shape and appearance of giant cardboard structures or large lumps of dry ice in ways that made concepts like Gravity and Time visible to the eye. Nomura's study of these physical changes inspired an interest in questions about the nature of existence and the world, and he broadened his artistic focus to encompass subjects such as space and DNA. Nomura realized that viewing the earth and heavens from a fresh perspective removed from the human senses made contact possible with the vast forces uniting everything in the universe. He has gone on to explore these ideas using photography and other media, including video and sound. In this sense, Nomura was a pioneering multimedia artist. This exhibition, the first major retrospective of Nomura's work to be held in Tokyo, looked back on nearly forty years of creative work combining science and art from this remarkable contemporary artist.

会期：平成21(2009)年5月27日(水)～7月27日(月)

日数：53日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：14,037人(1日平均260人)

入場：有料

主催：国立新美術館

協力：大宝産業株式会社、TIMEDOMEIN

講演会等：

●アーティスト・トーク「自然は時間と共に真の姿を現わすか」

日時：6月6日(土)14時～15時

講演：野村仁(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：126人

●担当研究員による解説会

日時：6月20日(土)14時～15時

解説：長屋光枝(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室

参加者数：28人

●講演会「時間の知覚」

日時：7月12日(日)14時～15時

講演：中原佑介(美術評論家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：60人

●担当研究員による解説会

日時：7月18日(土)14時～14時30分

解説：平井章一(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室

参加者数：25人



●国立新美術館×日本科学未来館 アート×サイエンス クロストークvol.1

『野村仁 変化する相一時・場・身体』×『‘おいしく、食べる’の科学展』

主催：日本科学未来館、国立新美術館

日時：7月10日(金)18時～19時

講演：森田由子(日本科学未来館科学コミュニケーター)、平井章一(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室A, B

参加者数：33人

●アート×サイエンス クロストークvol.2

『『野村仁 変化する相一時・場・身体』によせて～皆既日食と、野村仁の月と太陽～』

日時：7月17日(金)18時30分～19時

講演：縣秀彦(国立天文台天文情報センター)

会場：国立新美術館 1階アトリウム

参加者数：100人



6月6日 アーティスト・トーク

関連事業：

●イベント「七夕直前、美術館で願いごと。」

日時：7月3日(金)10時～19時、7月4日(土)、5日(日)10時～17時

会場：国立新美術館 3階屋上庭園

参加者数：3日295人、4日478人、5日573人

カタログ：『野村仁 変化する相一時・場・身体』

A4変型、184ページ、カラー177点・白黒45点、

初版800部

※再版 216ページ、カラー207点(展示風景の写真を追加)・

白黒45点、2,000部

出品目録：A4変型(仕上り280×200mm)、巻三つ折、6ページ、25,000部

ポスター：B1判、650部

B3判、2,000部

B3変型(インターサイズ)、850部

チラシ：A4判、80,000部

関連記事：

THE DAILY YOMIURI／平成21(2009)年6月19日／クリストファー・マーク

産経新聞／7月1日／渋谷和彦

読売新聞／7月2日／前田恭二

読売新聞／7月7日／平井章一(学芸課主任研究員)

東京新聞／7月10日／児島やよい

毎日新聞／7月14日／岸桂子

サンケイエクスプレス／7月14日／渋谷和彦

日経サイエンス／7月号

芸術新潮／7月号

いけ花龍生／8月号

他 多数

※出品リスト：pp.84-87

ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ
René Lalique: A Retrospective

19世紀末から20世紀半ばにかけて活躍したフランスの装飾芸術家ルネ・ラリック(1860-1945)の回顧展。ラリックのコレクションで知られるグルベンキアン美術館やオルセー美術館をはじめとする国内外のコレクションから集めた、多数の代表作と本邦初公開作品を含む約400点の作品をとおして、ごく初期の作品からアール・ヌーヴォー時代のジュエリー作品、20世紀以降のガラス工芸、さらに量産されたガラス製品まで、ラリックの幅広い創作の軌跡を展覧した。本展に出品されたオルセー美術館所蔵のスケッチ帳はラリックの遺品の一つで、創作の舞台裏を伝える貴重な資料であり、世界初公開であった。また、妻アリスや長年親交のあった大コレクターのカルスト・グルベンキアンにまつわるエピソードなど、これまであまり知られていなかったラリックのプライベートな側面も紹介し、加えて同時代の衣装の展示や映像による資料展示をとおして、ラリックの芸術を時代背景と併せて検証した。

This exhibition looked back on the life and work of the French decorative artist René Lalique (1860-1945), active from the late nineteenth to the mid-twentieth century. Featuring around 400 pieces from collections in Japan and overseas, including the well-known collections of the Museu Calouste Gulbenkian and the Musée d'Orsay, the exhibition traced the course of Lalique's wide-ranging creative work, from his earliest pieces to art nouveau jewelry and twentieth-century glass, featuring many of the artist's masterpieces as well as numerous works being shown in Japan for the first time. Sketchbooks from the collection of the Musée d'Orsay were exhibited for the first time anywhere—an important memento of the artist and a valuable insight into his creative process. The exhibition also introduced visitors to the little-known private side of the artist, relating incidents from Lalique's married life with Alice and his decades-long friendship with Calouste Gulbenkian, a major collector of his work. An exhibition of period clothing and digital slideshows helped visitors to understand Lalique's work against the background of his time.

会期：平成21(2009)年6月24日(水)～9月7日(月)

日数：66日

会場：国立新美術館 企画展示室1E

入場者数：120,990人(1日平均1,833人)

入場：有料

主催：国立新美術館、東京新聞

後援：フランス大使館、ポルトガル大使館、港区教育委員会、六本木商店街振興組合

協賛：大日本印刷、R.L. ワッフルケーキ

特別協力：ラリック社

協力：北澤美術館、伊豆ガラスと工芸美術館、大村美術館(角館)、神戸ファッション美術館、湘南江の島香水瓶美術館、トヨタ博物館、鍋島報効会、成田美術館、エールフランス航空

監修：池田まゆみ(美術工芸史家)

巡回展：MOA美術館

平成21(2009)年9月15日(火)～11月23日(月)



講演会等：

●記念講演会「ラリック、その愛と人生—新資料を中心に」

日時：7月5日(日)14時～15時30分

講演：池田まゆみ(美術工芸史家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：180人

●記念講演会「制作の舞台裏」

日時：8月2日(日)14時～15時30分

講演：池田まゆみ(美術工芸史家)

聞き手：西野華子(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：100人



関連事業：

●記念ロビーコンサート

日時：7月24日(金)18時～18時30分
演奏：ダニエル・コフリン(ギタリスト)
会場：国立新美術館 1階アトリウム
参加者数：150人

●記念ロビーコンサート

日時：8月21日(金)18時～18時30分
演奏：ダニエル・コフリン(ギタリスト)
会場：国立新美術館 1階アトリウム
参加者数：200人

カタログ：『ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ』
B5変型(表紙2種類)、250ページ、図版カラー409点・白
黒22点、15,000部(巡回先を含む)

出品目録：仕上りA4判、巻三つ折、6ページ、150,000部
英語版；3,000部

ポスター：B1判、500部
B2判、2,000部
B3判、30,000部
B3変形(インターサイズ)、2,550部

チラシ：A4判(2種)、黒色版 150,000部、白色版 350,000部

関連記事：

美術の窓／平成21(2009)年2月20日
東京新聞／6月1日／西野華子(学芸課主任研究員)
東京新聞／6月23日／池田まゆみ
日曜美術館アートシーン(NHK教育)／7月5日
J-WAVE LOHAS SUNDAY／7月19日
新美術新聞／7月21日
他 多数

※出品リスト：pp.88-94



7月24日 記念ロビーコンサート

「光」というテーマのもとに、手がけるメディアや表現手法、そして世代も異なる二人の女性作家を組み合わせた二人展である。二人の作家は、これまで同一の展覧会のなかで展示されたことはないが、光がその作品の重要なテーマの一つとなっているという共通点に着目し、本展を企画した。展示は、それぞれの独立した個展として構成したふたつの展覧会を、どちらからでも見られるように、そして最終的には両方を連続して見るようになるように、配置した。

1960年頃より抽象絵画の制作を開始した松本陽子(1936年生)は、1960年代末に滞在したアメリカ合衆国でアクリリック(アクリル絵具)に出会い、新しい絵画の可能性を認識する。これは1980年代から1990年代にかけて実を結び、ピンクを主調とした独自の抽象絵画のスタイルを完成させた。近年では、緑の油彩画連作により、新しい境地を開いている。今回の展示では、1980年代以降、最新作まで、20年あまりの作品の中から絵画を中心に代表作を約50点選んで構成した。

1990年代初めより写真による制作活動を開始した野口里佳(1971年生)は、《フジヤマ》(1997-)などの完成度の高い連作により、早くから注目を集めた。卓抜なテーマの選択と特有の距離感をたたえた画面は、写真というメディア自体の本質に迫るものとして、国際的にも高い評価を受けており、活躍を続けている。野口里佳の展示は、近作を中心にここ10年あまりの写真作品の中から、光を強く感じさせる連作を選んで100点程度により構成した。

今回の展覧会は、活動領域も世代も異なる二人の作家による、緩やかなテーマを介した二人展で、このような形式の展覧会は過去あまり行われたことがないように思われる。二人の作家の展示を通じて、芸術作品における光の意味や効果の共通点と相違点を感じ取ってもらい、ひいては表現の多様性と共通感覚のようなものを認識してもらおうというのが、企画意図である。近年の芸術表現においては、社会性や政治性がクローズアップされることが多いが、感覚や情感に訴え心を豊かにすることも、芸術の重要な機能である。展覧会は、良質な鑑賞体験を実現することを重視し、芸術固有の存在意義をアピールしようと試みた。

国立新美術館の広い展示室を活用することで、それぞれの作家の展示は、普通の美術館で開催される個展に等しい規模のものを実現することができた。それゆえ観客は、それぞれの作家の個展としても、また「光」をテーマとした表現を対比するテーマ展としても、展覧会を楽しむことができ、多様な鑑賞体験が可能となったように思われる。

Organized around the theme of light, this show brought together two women artists working in different media, using different modes of expression, and belonging to different generations. The artists' work had not been shown in the same space before, but their shared use of light as an important theme in their work prompted us to bring them together for the first time in this exhibition. The exhibition was made up of two solo shows that could be viewed independently in either order and ultimately taken together as a sequence.

MATSUMOTO Yoko (b. 1936) began her work as an abstract painter in the early 1960s. She discovered acrylic paint and became aware of new possibilities in painting at the end of the decade while living in the United States. She went on to make effective use of this medium, perfecting an original style of abstract painting based on a pink color scheme in the 1980s and 1990s. In recent years, she has moved into new territory with a series of oil paintings in green. This exhibition presented a selection of approximately 50 representative pieces, mostly paintings, from more than 20 years of Matsumoto's work, from the 1980s to the present day.

NOGUCHI Rika (b. 1971) began to work with photography in the early 1990s, and quickly gained attention for several highly accomplished series of pictures, including *A Prime* (begun in 1997). With her startling choice of subjects and the unique sense of distance in her pictures, she has explored the essence of photography as an artistic medium, and continues to win increasing international acclaim. The Noguchi exhibition drew on more than a decade of the artist's photography, concentrating on recent work in a selection of around 100 pieces that conveyed a particularly strong sense of light.

This exhibition took the new, unusual approach of bringing together the work of two artists from different generations who work in different fields, united loosely under a common theme. The hope was that juxtaposing the artists' work in this way would give visitors a sense of the similarities and differences between the meaning and effect of light in diverse works of art, while helping them to understand both the diversity and universality of artistic expression. Much artistic work in recent years has focused on social and political issues, but enriching people's inner lives by appealing to the emotions and senses is also an important function of art. Providing visitors with an enjoyable artistic experience was a priority of the exhibition, which aimed to promote the unique sense of meaning that art can bring to people's lives.

NACT's extensive exhibition spaces made it possible to stage exhibitions for each artist that were on the same scale as an individual show would have been in a regular museum. This allowed visitors to enjoy the artworks in a diversity of ways, either by viewing the two shows independently or by enjoying them together as part of a thematically organized exhibition juxtaposing different approaches to the theme of light.

会期：平成21(2009)年8月19日(水)～10月19日(月)

日数：54日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：20,188人(1日平均374人)

入場：有料

主催：国立新美術館

講演会等：

●アーティスト・トーク

日時：8月22日(土)14時～16時

講演：野口里佳(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：200人



●アーティスト・トーク

日時：8月30日(日)14時～16時

講演：松本陽子(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：80人

関連事業：

●アーティスト・ワークショップ「チャレンジ！抽象画～向き合う心、あふれ出る色～」

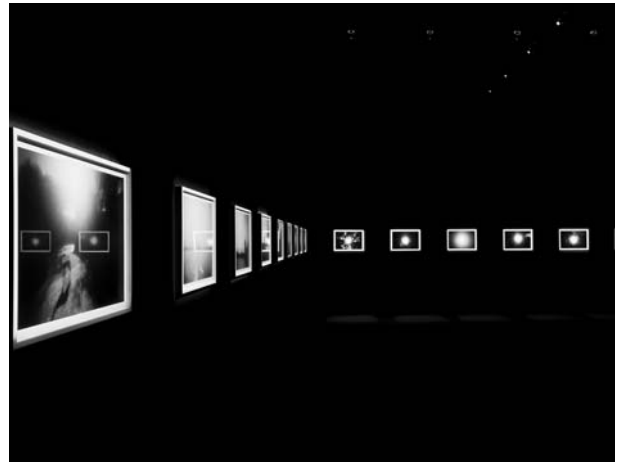
日時：9月12日(土)13時～16時

講師：松本陽子(出品作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：一般

参加者数：21人



●関連シンポジウム「光、色そして形」

主催：日本色彩学会、国立新美術館

日時：10月9日(金)17時～19時10分

・対談「私の光景—ピンクと緑を巡って」

松本陽子(出品作家)、南雄介(学芸課長)

・講演「光、色そして形か、光、形そして色か：色と形の心理学」

鈴木恒男(慶應義塾大学、日本色彩学会)

・講演「マチスは色彩で笑う」

小町谷朝生(文星芸術大学、日本色彩学会)

・講演「絵画表面と色彩—近代絵画の特性」

中島恵(慶應義塾大学)

・パネルディスカッション

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：100人



8月22日 アーティスト・トーク

カタログ：・『光 松本陽子／野口里佳』

A4変型、2分冊、ケース入り、3,000部

(下記2種類の作家カタログをケースに収めたもの)

・『光 松本陽子』

A4変型、124ページ、図版カラー59点、4,000部

(うち3,000部は上記カタログ『光 松本陽子／野口里佳』として使用)

・『光 野口里佳』

A4変型、122ページ、図版カラー157点、5,000部

(うち3,000部は上記カタログ『光 松本陽子／野口里佳』として使用)

出品目録：A4変型(仕上り274×205mm)、経本折、6ページ、25,000部

ポスター：B1判、650部

B3判、2,000部

B3変型(インターサイズ)判、850部

チラシ：A4判、80,000枚



9月12日 ワークショップ

関連記事：

日本経済新聞／平成21(2009)年9月9日／小川敦生

毎日新聞(夕刊)／9月10日／三田晴夫

日曜美術館(NHK教育)／9月13日

art lover(フジテレビ)／9月18日、25日

朝日新聞(夕刊)／10月1日／大西若人

美術手帖／10月号／光田ゆり

アサヒカメラ／10月号／日高優

ファットフォト／11-12月号

フォトグラフィカ／2009年冬(Vol.17)／野口里佳(インタビュー)

他 多数

※出品リスト：pp.95-96

THE ハプスブルク

Treasures of the Habsburg Monarchy 140th Jubilee of the Friendship Treaty between Austria – Hungary and Japan

本展覧会では、名門王家としてヨーロッパに君臨したハプスブルク家のコレクションを中心に、16世紀から18世紀のヨーロッパ絵画と工芸の名品を展示した。ハプスブルク家は、芸術を愛した一族としても有名である。現在、ウィーン美術史美術館に引き継がれているそのコレクションは、16世紀から17世紀にかけて、質、量ともに一気に拡大した。この旧ハプスブルク家に由来する絵画作品に、ブダペスト国立西洋美術館所蔵の優品の数々を加えることにより、イタリア、ドイツ、オランダ・フランドル、スペインという各地域の代表的な絵画、75点を紹介した。また、ウィーンからは、ヨーロッパ貴族の華やかな宮廷文化を髣髴とさせる38点の豪華な工芸品の数々と、明治天皇からフランツ・ヨーゼフ1世に贈られた特別出展作品3点も来日した。明治天皇の贈呈品は、ウィーンに渡った後、日本で初めて公開される貴重な作品である。本展覧会では、名品の紹介にとどまらず、ハプスブルク家最大のコレクターであるルドルフ2世、1400点もの絵画作品を集めた大公レオポルト・ヴィルヘルム、膨大な武器コレクションを築き上げた大公フェルディナント2世など、作品を収集した王たちの存在にも光をあてた。コレクションの形成という、歴史的な視点も明らかにした意義は大きいと考える。

This exhibition focused on European paintings and applied arts from the sixteenth to the eighteenth centuries, centering on the collection of the art-loving Habsburg family, one of Europe's most powerful royal dynasties. The family collection, now in the possession of the Kunsthistorisches Museum in Vienna, increased dramatically in quality and size during the sixteenth and seventeenth centuries. In addition to paintings from the Habsburg collection, the exhibition featured many outstanding works from the collection of the Museum of Fine Arts in Budapest, presenting 75 of the finest examples of Italian, German, Netherlandish, and Spanish painting of the period. In addition, 38 luxurious applied artworks were lent from Vienna, vividly evoking the opulence of life at court. Of particular note were two albums of paintings and two *makie* lacquered Shelves presented by Emperor Meiji of Japan to Franz Josef I. These were on public display in Japan for the first time. As well as introducing the masterpieces themselves, the exhibition also shed light on the aristocrats who built the collection, among them Rudolf II, the greatest of the Habsburg collectors, Archduke Leopold Wilhelm, who amassed more than 1400 paintings, and Archduke Ferdinand II, owner of a magnificent collection of weaponry. The exhibition provided valuable insight into the concept of an art collection from a historical perspective.

会期：平成21(2009)年9月25日(金)～12月14日(月)

日数：70日

会場：国立新美術館 企画展示室1E

入場者数：390,219人(1日平均5,575人)

入場：有料

主催：国立新美術館、読売新聞東京本社、TBS

企画協力：ウィーン美術史美術館、ブダペスト国立西洋美術館

後援：外務省、オーストリア大使館、ハンガリー大使館、TBSラジオ、OTTAVA

協賛：KDDI、京セラ、花王、大日本印刷、清水建設、岩谷産業、大阪芸術大学、関西電力、きんでん、ダイワボウ情報システム、パナソニック、非破壊検査、丸一鋼管

協力：日本航空、オーストリア航空

巡回展：京都国立博物館

平成21(2009)年1月6日(水)～3月14日(日)



講演会等：

●記念講演会「デューラー、ティツィアーノ、ブリューゲル、ルーベンス、ベラスケス—ハプスブルク家とその画家たち」

日時：9月26日(土)14時～15時30分

講演：カール・シュッツ(ウィーン美術史美術館絵画館館長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：254人

●記念講演会「怖い絵—華麗なるハプスブルク家の人々」

日時：10月24日(土)14時～15時30分

講演：中野京子(早稲田大学講師)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：300人



●記念講演会「ハプスブルク家栄光の軌跡：ルドルフ2世から美術史美術館へ」

日時：11月14日(土)14時～15時30分

講演：千足伸行(成城大学教授)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：280人

カタログ：『THE ハプスブルク』

A4変型、268ページ、図版カラー238点・白黒106点、
46,000部(巡回会場分も含む)

出品目録：仕上りA4判、二つ折、4ページ、300,000部

ポスター：B0判(2種)、各200部

B1判(2種)、各20部

B2判(2種)、各2,800部

B3判、10,300部

B3判(中吊り)、3,000部

B3変型(インターサイズ)、1,200部

チラシ：A4判、720,000部

仕上りA4判、巻三つ折、200,000部

関連記事：

サライ／平成21(2009)年10月10日

読売新聞(夕刊)／10月20日／長屋光枝(学芸課主任研究員)

クロワッサン／10月25日／久家道子

新日曜美術館アートシーン(NHK教育)／11月22日

朝日新聞(夕刊)／11月25日／小川雪

他 多数

※出品リスト：pp.97-99



9月26日 講演会

未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2009 文化庁芸術家在外研修の成果

“DOMANI: The Art of Tomorrow 2009” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

文化庁では、将来の我が国芸術界を支える芸術家を支援するため、若手芸術家を海外に派遣し、その専門とする分野について研修の機会を提供する、「芸術家在外研修(新進芸術家海外研修制度)」を昭和42年度から実施している。

同制度における成果発表の場として平成9年度から実施してきた「DOMANI・明日展」であるが、今回はこれまで同展において紹介されていなかった作家と、近年に派遣された研修生を中心として、特定のジャンルからではなく美術の幅広い分野から、久保田繁雄(繊維造形)／吉仲正直(絵画)／栗本夏樹(漆造形)／伊庭靖子(絵画)／安田佐智種(写真)／吉田暁子(現代美術)／磯崎真理子(彫刻)／呉亜沙(洋画)／三田村光土里(ビデオ&インスタレーション)／浅見貴子(絵画)／高野浩子(彫刻)／藤原彩人(彫刻)の12名の作家を紹介した。

Since 1967, the Japanese Agency for Cultural Affairs has run an overseas study program for artists. The program sends young artists overseas to study with specialists in their field, and provides support to the individuals who will build the foundations of the Japanese art world in the future.

The “Domani: The Art of Tomorrow” Exhibition has been held annually since 1997 in order to publicize the work of artists supported by the program. This year, we introduced twelve artists, focusing on artists who had not previously featured in the exhibition and recently sponsored artists from a wide range of genres: KUBOTA Shigeo (weaving), YOSHINAKA Masanao (painting), Natsuki KURIMOTO (lacquer ware), IBA Yasuko (painting), YASUDA Sachigusa (photography), YOSHIDA Gyoko (contemporary art), ISOZAKI Mariko (sculpture), GO Asa (Western-style painting), MITAMURA Midori (video installation), AZAMI Takako (painting), KONO Hiroko (sculpture), and FUJIWARA Ayato (sculpture).

会期：平成21(2009)年12月12日(土)～平成22(2010)年1月24日(日)

日数：26日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：14,037人(1日平均540人)

入場：有料

主催：文化庁、国立新美術館

共催：読売新聞社

制作：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

講演会等：

●ギャラリー・トーク

日時：12月19日(土)14時～

出演：磯崎真理子、呉亜沙、浅見貴子、高野浩子

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：約100人

●ギャラリー・トーク

日時：1月10日(日)14時～

出演：久保田繁雄、栗本夏樹、伊庭靖子、吉田暁子

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：100人



●ギャラリー・トーク

日時：1月17日(日)14時～

出演：吉仲正直、三田村光土里、藤原彩人

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：100人

カタログ：『未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2009 文化庁芸術家在外研修の成果』

A4変型、100ページ、図版カラー86点、2,000部

出品目録：仕上りA4判、二つ折、4ページ、15,000部

ポスター：B1判、200部

B2判、1,000部

B3判、1,000部

B3変型(インターサイズ)、1,200部

チラシ：A4判横サイズ、200,000部

関連記事：

美術の窓／平成21(2009)年11月20日

月刊美術／12月1日

読売新聞／12月12日

ぴあ／平成22(2010)年1月4日

毎日新聞／1月6日

新美術新聞／1月21日

東洋経済日報／1月22日

他 多数

※出品リスト：pp.100-102



1月17日 ギャラリートーク

ルノワール—伝統と革新 Renoir: Tradition and Innovation

印象派を代表する画家として日本でも人気の高いピエール＝オーギュスト・ルノワール(1841-1919)の画業を、ボストン美術館やワシントン・ナショナル・ギャラリー、ポーラ美術館等、国内外の主要コレクションから集めた本邦初公開作品をふくむ77点の作品をとおして展覧した。絵画の伝統を踏まえながらも常に新たな表現を模索し続け、近代絵画史に多大な足跡を残したルノワールの芸術を、伝統と革新という視点から捉えるとともに、画家の代名詞ともいべき女性像や裸婦像のほか、風景画や静物画、装飾画にも取り組んだルノワールの豊かで幅広い芸術を紹介した。展覧会は4章(第1章：ルノワールへの旅、第2章：身体表現、第3章：花と装飾画、第4章：ファッションとロココの伝統)で構成され、絵画のほか、彫刻や自筆書簡も展示した。さらに、新たな試みとして、ポーラ美術館の協力のもとで行われた最新の光学調査をとおして画家ルノワールの絵画技法を解明し、調査結果を映像とパネルによって紹介した。

This exhibition displayed the work of Pierre-Auguste Renoir (1841-1919), perhaps the best-loved of the Impressionist painters in Japan. Featuring 77 works drawn from collections in Japan and overseas, such as the Museum of Fine Arts, Boston, the National Gallery of Art, Washington, and the Pola Museum of Art, the exhibition included several pieces that were being shown in this country for the first time. As an artist who remained respectful of the tradition while searching constantly for new modes of expression, Renoir had an enormous impact on the development of modern painting. This exhibition introduced his work via the themes of Tradition and Innovation, introducing visitors not only to the female portraits and nudes that have become synonymous with the artist, but also to landscapes, still lifes, and decorative paintings, showcasing the richness and variety of Renoir's work. The exhibition was divided into four chapters (The Journey to Renoir, Expressions of the Body, Flowers and Decorative Paintings, and Fashion and the Rococo Tradition), and featured sculpture and handwritten correspondence as well as paintings. In addition, the results of the latest optical study of Renoir's technique, which was conducted in collaboration with the Pola Museum of Art, were introduced.

会期：平成22(2010)年1月21日(水)～4月5日(月)
日数：66日(うち21年度；61日)
会場：国立新美術館 企画展示室1E
入場者数：295,770人(3月31日まで)(1日平均4,849人)
入場：有料
主催：国立新美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網
後援：外務省
協賛：清水建設、アフラック、大阪芸術大学、きんでん、大和ハウス工業、丸一鋼管、損保ジャパン、日本写真印刷
特別協力：財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館
協力：東京文化財研究所、日本航空、マミヤ・デジタル・イメージング
監修：荒屋鋪透(財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸部長)
巡回展：国立国際美術館
平成22(2010)年4月17日(土)～6月27日(日)



講演会等：

●記念講演会

日時：1月24日(日)14時～15時30分

・「ルノワールへの旅—パリ、南仏、エッソワ」

講演：荒屋鋪透(財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸部長)

・光学調査報告「伝統と革新のはざまに—光学調査で探るルノワールの絵画技法」

講演：内呂博之(財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸員)

聞き手：西野華子(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：205人

●記念講演会「ルノワールの裸婦像」

日時：2月21日(日)14時～15時30分

講演：島田紀夫(ブリヂストン美術館長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：172人



●記念講演会「晴れた日はルノワールに逢いに行こう」

日時：3月7日(日)14時～15時30分

講演：結城昌子(アートディレクター、エッセイスト)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：244人

カタログ：『ルノワール—伝統と革新』

A4変型、309ページ、図版カラー135点・白黒161点、
27,000部(大阪展分は除く)

出品目録：仕上りA4判、二つ折、4ページ、350,000部

ポスター：B1判(3種)、400部

B2判(3種)、6,000部

B3判、40,000部

チラシ：A4判、800,000部

関連記事：

サライ／平成21(2009)年11月10日

読売新聞／平成22(2010)年1月14日／市原尚士

The Daily Yomiuri／2月5日／Stephen Taylor

読売新聞(夕刊)／2月9日／西野華子(学芸課主任研究員)

日曜美術館(NHK教育)／2月21日

SPUR／4月号／杏

他 多数

※出品リスト：pp.103-104



1月24日 記念講演会

平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭
2009 [13th] Japan Media Arts Festival

文化庁メディア芸術祭は、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、これを鑑賞する機会を提供することにより、メディア芸術の創造とその発展を図り、もって我が国文化の向上と振興に資する。こうした趣旨に基づき、受賞作品展において受賞作品および審査委員会推薦作品の展示を行うとともに、アートとエンターテインメントの融合および表現とテクノロジーの進化から「未来をつなぐ」意識を実体験することができる展示環境を構築し、国内外の優秀なメディア芸術作品の展示・紹介を行うための関連事業を開催した。

The Japan Media Arts Festival aims to encourage the development of the media arts and to promote a flourishing cultural scene in Japan by awarding prizes for outstanding works in the media arts and putting these works on public display. As well as exhibiting award-winning and commended pieces, the exhibition aims to provide an environment in which the fusion of art and entertainment and the evolution of new modes of expression and technology provide visitors with a sense of connection to the future. We also organize related events designed to display and introduce outstanding works in the media arts from Japan and overseas.

会期：平成22(2010)年2月3日(水)～2月14日(日)

日数：11日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：58,242人(1日平均5,295人)

入場：無料

主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会[文化庁、国立新美術館、CG-ARTS協会]

講演会等：(会場：国立新美術館 講堂)

●受賞者シンポジウム

・アート部門受賞者シンポジウム

日時：2月5日(金)18時～19時30分

司会：佐藤卓(アート部門主査/グラフィックデザイナー)、四方幸子(アート部門審査委員/メディアアート・キュレーター)

出演：デイヴィッド・ポーウェン(大賞『growth modeling device』アメリカ)、ローレンス・マルスタッフ(優秀賞『Nemo Observatorium』ノルウェー)、和田永(優秀賞『Braun Tube Jazz Band』)

参加者数：63人

・アニメーション部門受賞者シンポジウム

日時：2月7日(日)16時～17時30分

司会：鈴木伸一(アニメーション部門主査/アニメーション監督)

出演：細田守(大賞『サマーウォーズ』)、橋正紀(優秀賞『東京マグニチュード8.0』)

参加者数：255人

・エンターテインメント部門受賞者シンポジウム

日時：2月13日(土)13時～14時30分

司会：河津秋敏(エンターテインメント部門主査/ゲームデザイナー)、榎山寛(エンターテインメント部門審査委員/コンテンツ・プロデューサー)

出演：ナカムラマギコ(大賞『日々の音色』)、中村将良(大賞『日々の音色』)、松山洋(優秀賞『NARUTO—ナルト— ナルティメットストーム』)、田中秀幸(優秀賞『電気グルーヴ/Fake It!』)

参加者数：141人

・マンガ部門受賞者シンポジウム

日時：2月11日(木)13時～14時30分

司会：しりあがり寿(マンガ部門主査/マンガ家)、細萱敦(マンガ部門審査委員/東京工芸大学准教授)

出演：幸村誠(大賞『ヴィンランド・サガ』)

参加者数：252人



・功労賞 受賞者シンポジウム

日時：2月5日(金)15時～16時15分

司会：河津秋敏(エンターテインメント部門主査/ゲームデザイナー)

出演：宮本茂(功労賞/ゲームクリエイター)

参加者数：177人

・特別功労賞 受賞者シンポジウム

日時：2月11日(木)16時～17時30分

司会：氷川竜介(アニメ評論家)

出演：りんたろう(アニメーション監督)

参加者数：150人

●テーマシンポジウム

・「マンガとアートが出会うとき」

日時：2月3日(水)16時～17時30分

司会：しりあがり寿(マンガ部門主査/マンガ家)

出演：金澤韻(川崎市市民ミュージアム学芸員)、森川嘉一郎(明治大学准教授)

参加者数：79人

・「新しい文化を生み出すために」

日時：2月4日(木)16時～17時30分

出演：青木保(前文化庁長官/青山学院大学特任教授)、坂根巖夫(IAMAS(情報科学芸術大学院大学、国際情報科学芸術アカデミー)名誉学長)、アマダ・マクドナルド・クロウリー(Eyebam エグゼクティブ・ディレクター/アメリカ)、アレッシオ・カヴァッラーロ(Australian Centre for the Moving Image シニアキュレーター/オーストラリア)

参加者数：72人

・「∞の可能性を未来へ—メディアとアートと子どもたち—」

日時：2月8日(月)16時～17時30分

司会：原島博(東京大学名誉教授)

出演：岸啓介(造形・CG作家／第3回メディア芸術祭大賞受賞)、クワ
クボリョウタ(メディア・アーティスト／第7回メディア芸術祭
大賞受賞)、堤康彦(NPO法人芸術家と子どもたち代表)

参加者数：97人

・「メディア芸術とミュージアム」

日時：2月12日(金)18時～19時30分

司会：榎山寛(エンターテインメント部門審査委員／コンテンツ・プロ
デューサー)

出演：阿部一直(山口情報芸術センターアーティストックディレクター)、
内田まほろ(日本科学未来館キュレーター)、清水建人(せんだい
メディアテーク学芸員)、畠中実(NTTインターコミュニケーション
センター[ICC]主任学芸員)、松本透(東京国立近代美術館副館長)

参加者数：114人

・「メディアとは？芸術とは？」

日時：2月14日(日)13時30分～15時

司会：岡崎乾二郎(アート部門審査委員／近畿大学国際人文科学研究
所教授)

出演：水越伸(東京大学大学院情報学環教授)、森達也(映画監督／ドキュ
メンタリー作家)

参加者数：253人

関連事業：

●Media Art in the World作品上映会

会場：国立新美術館 講堂

・「Annecy International Animated Film Festival(アヌシー国際アニメ
ーション映画祭／フランス)」

日時：2月5日(金)10時15分～11時35分 参加者数：59人

2月13日(土)16時25分～17時45分 参加者数：195人

・「Ars Electronica(アルスエレクトロニカ／オーストリア)」

日時：2月8日(水)13時25分～14時10分 参加者数：77人

2月12日(金)10時15分～11時 参加者数：40人

・「Ottawa International Animation Festival(オタワ国際アニメーション
フェスティバル／カナダ)」

日時：2月4日(木)13時5分～14時30分 参加者数：70人

2月8日(月)10時15分～11時40分 参加者数：49人

・「SICAF(シカフ／韓国)」

日時：2月4日(木)11時45分～12時50分 参加者数：37人

2月8日(月)12時～13時5分 参加者数：46人

・「SIGGRAPH Asia Electronic Theater(シーグラフ・アジア・エレク
トロニックシアター)」

日時：2月5日(金)11時50分～13時50分 参加者数：71人

・「SIGGRAPH Computer Animation Festival(シーグラフ・コンピュ
ータアニメーションフェスティバル／アメリカ)」

日時：2月14日(日)10時15分～12時10分 参加者数：152人

●作品上映

上映日：2月4日(木)、7日(日)、11日(木)、12日(金)、13日(土)、
14日(日) 全10回

会場：国立新美術館 3階講堂

参加者数：1,511人



●学生MVコラボレーション発表会

日程：1月15日(金)オリエンテーション、2月8日(月)～10日(水)撮影・
編集(2泊3日)、2月11日(木)、発表会

講師：寺井弘典(映像クリエイター)、木津裕史(映像ディレクター)

楽曲提供：Omodaka

参加：日本人学生 13名

参加校：女子美術大学、多摩美術大学、東京工芸大学、東京造形大学、
武蔵野美術大学

発表会参加者数：334人

会期中、下記の特別展示を行った。

●第15回学生CGコンテスト 受賞作品展

主催：CG-ARTS協会

協力：キャノンマーケティングジャパン株式会社、日本シーゲイト株
式会社、日本AMD株式会社

●Media Art in the World展示

合計100のメディア芸術関連フェスティバルおよび10の国際巡回フェス
ティバル・学会について、パネル、PC、4kモニターでの映像による
展示。

●先端技術ショーケース'10—未来のアート表現のために—

主催：文部科学省／国立新美術館／独立行政法人科学技術振興機構

協力：日本バーチャリアリティ学会、アート&エンターテインメント
研究委員会

カタログ：『第13回文化庁メディア芸術祭受賞作品集』

A4変型、144ページ、図版カラー343点・白黒50点

ポスター：B1判

チラシ：仕上りA4判、二つ折

関連記事：

週刊フジテレビ批評(フジテレビ)／平成22(2010)年2月6日

他 多数

※出品リスト：pp.105-109

アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち
Artist File 2010—The NACT Annual Show of Contemporary Art

「アーティスト・ファイル」展は、国立新美術館が、国内外で今もっとも注目すべき活動を展開している作家たちを選抜し、紹介するアニュアル(毎年開催)形式の展覧会である。2008年、2009年に続き3回目となる今回は、国内から福田尚代(インスタレーション)、石田尚志(映像・絵画)、桑久保徹(絵画)、南野馨(立体)、O JUN(絵画)、斎藤ちさと(写真・映像)の6名、海外(オランダ)からアーノウト・ミック(映像)1名の計7名の作家を取り上げた。「アーティスト・ファイル」展には、毎回、特別なテーマはなく、また表現メディアや年齢にもあえて制限を設けていない。今回も、30歳代から50歳代まで幅広い世代の、さまざまな表現、さまざまなテーマが会場に展開した。この多様性や複雑さから、時代のリアリティーといふべきものを浮かび上がらせることが「アーティスト・ファイル」展の目的である。また、今回も前回同様、出品作家を講師としたアーティスト・トークやワークショップを開催するとともに、3月27日(土)には、地域活性化のイベント「六本木アートナイト2010」の一環として、普段現代美術の作品に接する機会のない人々に無料で鑑賞の場を提供するなど、現代美術の普及にも力を入れた。

The Artist File is an annual exhibition introducing a selection of some of the most notable Japanese and international artists active today. This year's event, the third in the series, presented a total of seven artists—six from Japan and one from overseas. The artists represented were: FUKUDA Naoyo (installation art), ISHIDA Takashi (video and painting), KUWAKUBO Toru (painting), MINAMINO Kaoru (ceramic), O JUN (painting), SAITO Chisato (photography and video), and Aernout Mik (Netherlands, video). Each year, the Artist File takes place without a set theme, and with no limitations placed on the media used or on the age of the artists involved. This year was no exception, featuring work in different media, exploring a wide variety of subjects, by artists who ranged in age from their thirties to their fifties. An aim of the Artist File exhibition is to use this diversity and complexity to reveal the reality of the times we live in. As in the previous year, we organized Artist Talks and a Workshop in which artists acted as instructors. As part of our efforts to build a wider audience for contemporary art, entrance fees were waived on March 27 as part of the Roppongi Art Night 2010, providing an opportunity for people who do not normally come into contact with contemporary art to view the exhibition at no charge.

会期：平成22(2010)年3月3日(水)～5月5日(水)
日数：56日(うち平成21年度；25日)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
入場者数：16,100人(3月31日まで)(1日平均644人)
入場：有料
主催：国立新美術館



講演会等：

●アーティスト・トーク

日時：3月5日(金)18時～19時
講演：アーノウト・ミック(出品作家)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
参加者数：34人

●アーティスト・トーク

日時：3月21日(日)14時～15時
講演：桑久保徹(出品作家)
会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム
参加者数：55人

●アーティスト・トーク

日時：3月27日(土)19時～20時30分
講演：南野馨、O JUN(出品作家)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
参加者数：150人(南野馨)、200人(O JUN)



関連事業：

●アーティスト・ワークショップ「傘をつかってアニメーションを作ろう」

日時：3月20日(土)13時30分～16時30分

講師：斎藤ちさと(出品作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：一般(中学生以上)

参加者数：15人

●六本木アートナイト2010

日時：3月27日(土)

・22時まで開館延長

・出品作家(南野馨)による屋外展示の実施

カタログ：『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』

A4変型、8分冊、箱付き、作家ファイル各32ページ×7冊・
イントロダクション4ページ(計228ページ)、図版カラー
204点・白黒51点、4,500部

記録集(『展覧会ドキュメント』)：A4変型、40ページ、図版カラー21点・
白黒15点、2,000部

出品目録：A4変型(仕上り280×210mm)、巻三つ折、6ページ、35,000部

ポスター：B1判、750部

B3判、3,500部

B3変型(インターサイズ)、700部

チラシ：A4判、100,000部

関連記事：

International Herald Tribune, The Asahi Shimbun/平成22(2010)年3
月5日

東京新聞(夕刊)/3月12日/児島やよい

産経新聞/3月17日/渋谷和彦

朝日新聞(夕刊)/3月31日/西田健作

アマレーナ/4月号/児島やよい

他 多数

※出品リスト：pp.110-114



3月20日 アーティスト・ワークショップ



3月21日 アーティスト・トーク

3

美術団体等への展覧会会場提供

Provision of Exhibition Venues to
Artist Associations

3 美術団体等への展覧会会場提供

Provision of Exhibition Venues to Artist Associations

全国的な活動を行っている美術団体等が実施する公募展等への展覧会会場の提供を行った。平成21(2009)年度は、69団体に展覧会会場を提供し、公募展等の入場者数は合計1,246,840人であった。

また、前年度の実績を踏まえ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、施設・備品の管理運営の改善に取り組んだ。

NACT provided exhibition space to artist associations from around the country for public exhibitions and other events. In fiscal 2009, 69 such exhibitions were held at NACT, attracting a total of 1,246,840 visitors.

Building on our experiences the previous fiscal year, we worked to improve the management of the equipments and facilities provided.

平成21年度会場使用団体一覧

団体名：社団法人 創元会

展覧会名：第68回創元展

会期/日数：4月1日(水)～4月13日(月)/12日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D

入場者数：21,996人



団体名：現代日本書家協会

展覧会名：第25回全国公募書道展

会期/日数：4月15日(水)～4月27日(月)/12日

展示室：3A

入場者数：3,711人



団体名：社団法人 示現会

展覧会名：第62回示現会展

会期/日数：4月1日(水)～4月13日(月)/12日

展示室：2A, 2B, 2C, 2D

入場者数：25,100人



団体名：国画会

展覧会名：第83回国展

会期/日数：4月29日(水)～5月11日(月)/12日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B, 野外展示場A, B, C, D

入場者数：64,861人



団体名：水彩連盟

展覧会名：第68回水彩連盟展

会期/日数：4月1日(水)～4月13日(月)/12日

展示室：3A, 3B

入場者数：15,983人



団体名：社団法人 太平洋美術会

展覧会名：第105回記念太平洋展

会期/日数：5月13日(水)～5月25日(月)/12日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D

入場者数：20,382人



団体名：社団法人 光風会

展覧会名：第95回記念光風会展

会期/日数：4月15日(水)～4月27日(月)/12日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D

入場者数：20,804人



団体名：三軌会

展覧会名：第61回三軌展

会期/日数：5月13日(水)～5月25日(月)/12日

展示室：2A, 2B, 2C, 2D

入場者数：15,909人



団体名：社団法人 春陽会

展覧会名：第86回春陽展

会期/日数：4月15日(水)～4月27日(月)/12日

展示室：2A, 2B, 2C, 2D, 3B

入場者数：25,665人



団体名：社団法人 日本新工芸家連盟

展覧会名：第31回日本新工芸展

会期/日数：5月13日(水)～5月24日(日)/11日

展示室：3A, 3B

入場者数：6,663人



団体名：現代美術家協会
展覧会名：第65回現展
会期/日数：5月27日(水)～6月8日(月)/12日
展示室：1A, 1B, 1C
入場者数：10,678人



団体名：たぶろう美術協会
展覧会名：第44回たぶろう展
会期/日数：6月10日(水)～6月22日(月)/12日
展示室：3B
入場者数：9,211人



団体名：第一美術協会
展覧会名：第80回第一美術展
会期/日数：5月27日(水)～6月8日(月)/12日
展示室：1D, 2C, 2D
入場者数：16,908人



団体名：アート未来
展覧会名：2009・14th国際公募アート未来展
会期/日数：6月24日(水)～7月6日(月)/12日
展示室：1A, 野外展示場A
入場者数：16,019人



団体名：日洋会
展覧会名：第23回日洋展
会期/日数：5月27日(水)～6月8日(月)/12日
展示室：2A, 2B, 3A, 3B
入場者数：20,574人



団体名：秋耕会
展覧会名：第34回秋耕展
会期/日数：6月24日(水)～7月6日(月)/12日
展示室：1B
入場者数：7,011人



団体名：財団法人 全国書美術振興会
展覧会名：第37回「日本の書展」東京展
会期/日数：6月11日(木)～6月21日(日)/10日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D
入場者数：11,240人



団体名：蒼騎会
展覧会名：第49回蒼騎展
会期/日数：6月24日(水)～7月6日(月)/12日
展示室：1C, 1D
入場者数：11,364人



団体名：日本自由画壇
展覧会名：第35回日本自由画壇展
会期/日数：6月10日(水)～6月22日(月)/12日
展示室：2A, 2B
入場者数：23,766人



団体名：財団法人 日本余暇文化振興会
楽習フォーラム アートクレイ倶楽部
展覧会名：第10回銀粘土でつくるシルバーアクセサリーコンテスト 作品展
会期/日数：6月24日(水)～7月6日(月)/12日
展示室：2A
入場者数：4,969人



団体名：書象会
展覧会名：第48回書象展
会期/日数：6月11日(木)～6月21日(日)/10日
展示室：2C, 2D
入場者数：8,215人



団体名：有限責任中間法人 国際墨画会
展覧会名：第9回国際公募国際墨画会展
会期/日数：6月24日(水)～7月6日(月)/12日
展示室：2B
入場者数：9,007人



団体名：日本水墨院
展覧会名：公募第24回日本水墨院展
会期/日数：6月10日(水)～6月21日(日)/11日
展示室：3A
入場者数：13,043人



団体名：日本教育書道藝術院
展覧会名：第29回日本教育書道藝術院同人書作展
会期/日数：6月24日(水)～7月5日(日)/11日
展示室：2C, 2D
入場者数：4,141人



団体名：社団法人 日本彫刻会
展覧会名：第39回日彫展
会期/日数：6月24日(水)～7月6日(月)/12日
展示室：3A
入場者数：8,558人



団体名：社団法人 二科会
展覧会名：第94回二科展
会期/日数：9月2日(水)～9月14日(月)/12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B, 野外展示場A, B, C, D
入場者数：97,936人



団体名：財団法人 陶芸文化振興財団
展覧会名：全国公募2009陶芸財団展
会期/日数：6月24日(水)～7月5日(日)/11日
展示室：3B
入場者数：6,977人



団体名：新制作協会
展覧会名：第73回新制作展
会期/日数：9月16日(水)～9月28日(月)/12日
展示室：1A, 1B, 2A, 2B, 3A, 3B, 野外展示場A, B
入場者数：38,246人



団体名：財団法人 毎日書道会
展覧会名：第61回毎日書道展
会期/日数：7月8日(水)～8月2日(日)/23日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B
入場者数：65,175人



団体名：行動美術協会
展覧会名：第64回行動展
会期/日数：9月16日(水)～9月28日(月)/12日
展示室：1C, 1D, 2C, 2D, 野外展示場C, D
入場者数：18,073人



団体名：財団法人 日本通信美術学園
展覧会名：日美展(第14回総合水墨画展・第10回日美絵画展)
会期/日数：8月6日(木)～8月15日(土)/9日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D
入場者数：18,149人



団体名：自由美術協会
展覧会名：第73回自由美術展
会期/日数：9月30日(水)～10月12日(月)/12日
展示室：1A, 1B, 2A, 2B, 野外展示場A, B
入場者数：13,508人



団体名：貞香会
展覧会名：第44回貞香書展
会期/日数：8月5日(水)～8月17日(月)/12日
展示室：3A
入場者数：6,139人



団体名：一陽会
展覧会名：第55回一陽展
会期/日数：9月30日(水)～10月12日(月)/12日
展示室：1C, 1D, 2C, 2D, 野外展示場C, D
入場者数：14,211人



団体名：全国水墨画協会
展覧会名：第16回全国水墨画展
会期/日数：8月5日(水)～8月17日(月)/12日
展示室：3B
入場者数：6,659人



団体名：一期会
展覧会名：第44回一期展
会期/日数：9月30日(水)～10月12日(月)/12日
展示室：3A, 3B
入場者数：14,321人



団体名：読売書法会
展覧会名：第26回読売書法展 東京展
会期/日数：8月21日(金)～8月30日(日)/9日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B
入場者数：23,974人



団体名：独立美術協会
展覧会名：第77回独立展
会期/日数：10月14日(水)～10月26日(月)/12日
展示室：1A, 1B, 2A, 2B, 3A
入場者数：23,403人



団体名：社団法人 二紀会
展覧会名：第63回二紀展
会期/日数：10月14日(水)～10月26日(月)/12日
展示室：1C, 1D, 2C, 2D, 3B,
野外展示場C, D
入場者数：32,433人



団体名：土日会
展覧会名：第34回土日会展
会期/日数：12月9日(水)～12月21日(月)/12日
展示室：3A
入場者数：5,540人



団体名：社団法人 日展
展覧会名：第41回日展
会期/日数：10月30日(金)～12月6日(日)/33日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E,
3A, 3B
入場者数：175,072人



団体名：日本表象美術協会
展覧会名：第36回日象展
会期/日数：12月9日(水)～12月21日(月)/12日
展示室：3B
入場者数：3,698人



団体名：AJAC
展覧会名：Go ahead! AJAC 第3回AJAC野外展
会期/日数：10月29日(木)～11月8日(日)/10日
展示室：野外展示場A, B
入場者数：2,368人



団体名：財団法人 独立書人団
展覧会名：第58回独立書展
会期/日数：1月6日(水)～1月18日(月)/12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A,
3B
入場者数：18,865人



団体名：雪舟国際美術協会
展覧会名：第16回雪舟国際美術協会展
会期/日数：12月9日(水)～12月20日(日)/11日
展示室：1A, 1B
入場者数：9,983人



団体名：特定非営利活動法人 平泉会
展覧会名：第22回平泉展 ～楽しい手作り～
会期/日数：1月20日(水)～2月1日(月)/12日
展示室：1A
入場者数：10,898人



団体名：白峰社
展覧会名：第27回白峰社書展
会期/日数：12月9日(水)～12月21日(月)/12日
展示室：1C, 1D
入場者数：8,619人



団体名：国際書画連盟
展覧会名：第32回国際書画展
会期/日数：1月20日(水)～2月1日(月)/12日
展示室：1B, 1C, 1D
入場者数：8,906人



団体名：特定非営利活動法人 国際架橋書会
展覧会名：第22回国際架橋書展
会期/日数：12月9日(水)～12月21日(月)/12日
展示室：2A
入場者数：5,606人



団体名：亜細亜太平洋水墨画会
展覧会名：アジア創造美術展
会期/日数：1月20日(水)～2月1日(月)/12日
展示室：2A
入場者数：3,042人



団体名：有限会社 全日本書芸文化院
展覧会名：第38回全書芸展
会期/日数：12月9日(水)～12月21日(月)/12日
展示室：2B, 2C, 2D
入場者数：6,756人



団体名：産経国際書会
展覧会名：第26回産経国際書展(新春展)
会期/日数：1月20日(水)～2月1日(月)/12日
展示室：2B, 2C, 2D
入場者数：4,991人



団体名：Heart Art Communication
 展覧会名：Heart Art in TOKYO 2010 第13回エイズチャリティー美術展
 会期/日数：1月21日(木)～2月1日(月)/11日
 展示室：3A, 3B
 入場者数：2,939人



団体名：社団法人 日本中国水墨交流協会
 展覧会名：第27回日本中国水墨画合同展
 会期/日数：2月3日(水)～2月15日(月)/12日
 展示室：3B
 入場者数：8,643人



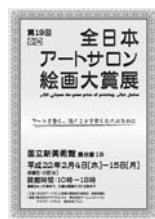
団体名：立軌会
 展覧会名：第62回立軌展
 会期/日数：2月3日(水)～2月15日(月)/12日
 展示室：1A
 入場者数：10,742人



団体名：東京五美術大学連合卒業・修了制作展
 展覧会名：平成21年度第33回東京五美術大学連合卒業・修了制作展
 会期/日数：2月18日(木)～2月28日(日)/10日
 展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 野外展示場A, B, C
 入場者数：50,687人



団体名：全日本アートサロン絵画大賞展実行委員会
 展覧会名：第19回全日本アートサロン絵画大賞展
 会期/日数：2月4日(木)～2月15日(月)/11日
 展示室：1B
 入場者数：3,475人



団体名：学校法人専門学校 東洋美術学校
 展覧会名：第61回東洋美術学校卒業制作展
 会期/日数：2月17日(水)～2月28日(日)/11日
 展示室：3A
 入場者数：5,204人



団体名：新槐樹社
 展覧会名：第54回新槐樹社展
 会期/日数：2月3日(水)～2月15日(月)/12日
 展示室：1C, 1D
 入場者数：7,739人



団体名：現日会
 展覧会名：第50回現日選抜書展
 会期/日数：2月17日(水)～3月1日(月)/12日
 展示室：3B
 入場者数：3,236人



団体名：あきつ会
 展覧会名：第35回あきつ会書道展
 会期/日数：2月3日(水)～2月15日(月)/12日
 展示室：2A
 入場者数：4,102人



団体名：汎美術協会
 展覧会名：2010汎美展
 会期/日数：3月3日(水)～3月15日(月)/12日
 展示室：1A
 入場者数：7,355人



団体名：日本書作院
 展覧会名：第50回日本書作院展
 会期/日数：2月4日(木)～2月15日(月)/11日
 展示室：2B, 2C, 2D
 入場者数：17,508人



団体名：社団法人 創玄書道会
 展覧会名：第46回創玄展
 会期/日数：3月4日(木)～3月14日(日)/10日
 展示室：1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D
 入場者数：18,905人



団体名：美術団体 等迦会
 展覧会名：第42回等迦展
 会期/日数：2月3日(水)～2月15日(月)/12日
 展示室：3A
 入場者数：2,767人



団体名：全国水墨画美術協会
 展覧会名：第35回全日本水墨画秀作展
 会期/日数：3月3日(水)～3月14日(日)/11日
 展示室：3A, 3B
 入場者数：7,835人



団体名：白日会
展覧会名：第86回白日会展
会期／日数：3月17日(水)～3月29日(月)／12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D
入場者数：15,269人



団体名：日本美術会
展覧会名：第63回日本アンデパンダン展
会期／日数：3月17日(水)～3月29日(月)／12日
展示室：2A, 2B, 2C, 2D
入場者数：15,420人



団体名：社団法人 日本南画院
展覧会名：第50回記念日本南画院展
会期／日数：3月17日(水)～3月29日(月)／12日
展示室：3A, 3B
入場者数：25,688人



入場者数合計 1,246,840人

参考：平成22年度第1会期(平成22年3月31日入場者数)

団体名：社団法人 創元会
展覧会名：第69回創元展
会期／日数：3月31日(水)～4月12日(月)／12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D
入場者数：2,857人

団体名：社団法人 示現会
展覧会名：第63回示現会展
会期／日数：3月31日(水)～4月12日(月)／12日
展示室：2A, 2B, 2C, 2D
入場者数：2,013人

団体名：水彩連盟
展覧会名：第69回水彩連盟展
会期／日数：3月31日(水)～4月12日(月)／12日
展示室：3A, 3B
入場者数：1,222人

公募展開催に関わる取り組み

- 平成21年度使用団体実績
使用団体：69団体

- 平成23年度使用団体の決定
決定時期：5月
決定団体：69団体

- 平成24年度国立新美術館展示室(公募展用)の使用募集
募集期間：2月19日～3月11日

- 使用団体等への支援
「展示室等利用の手引き」「公募展備品カタログ」の改定を行った。また、ホームページに、開催中の公募団体等の展覧会のポスター画像を掲載し、使用団体等の展覧会開催支援を行った。
「国立新美術館ニュース」に使用団体等からの寄稿を掲載し、団体の活動を紹介した。

- 展覧会観覧者への情報提供
公募展開催案内チラシを作成・配布するとともに、ホームページに公募展情報を掲載した。
公募展開催案内：年5回発行、A4判(297×210mm)、全70,000部

- 企画展との相互割引の導入
自主企画展及び共催展において、開催中の公募展の観覧券持参者に対する割引観覧を行った。また、開催中の自主企画展及び共催展の観覧券持参者に対する、公募展の割引又は無料観覧の協力を依頼するとともに、相互割引について館内での周知を図った。

教育普及事業に対する公募団体等との連携

- 『第83回国展』
「第3回国展トークイン—作家の目 作者の心—」
主催：国画会、国立新美術館
日時：5月6日(水)
会場：国立新美術館 第83回国展会場
参加者数：263人

- 『第39回日彫展』
「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」
主催：社団法人日本彫刻会、国立新美術館
日時：6月26日(金)、7月3日(金)、7月6日(月)
会場：国立新美術館 第39回日彫展会場
参加者数：95人(全3回)

- 『第41回日展』
主催：社団法人日展、国立新美術館
・講演会
開催日：10月31日(土)、11月1日(日)、3日(火)、7日(土)、12日(木)、21日(土)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：1,141人(全6回)
・映像による作品解説
開催日：10月31日(土)、11月1日(日)、3日(火)、7日(土)、12日(木)、21日(土)、23日(月)、28日(土)、29日(日)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：1,900人(全11回)
・親子鑑賞教室
開催日：11月8日(日)、15日(日)、22日(日)
会場：国立新美術館 講堂、研修室
参加者数：117組315人(全6回)
・らくらく鑑賞会
開催日：11月2日(月)、9日(月)、16日(月)、30日(月)
会場：国立新美術館 第41回日展会場、研修室
参加者数：49人(全5回)



5月6日



7月6日



11月8日

4

教育普及

Education and Public Programs

4-1 講演会等

Lectures, etc.

4-2 ワークショップ

Workshops

4-3 インターン、ボランティア

Internships and Volunteering

4-4 その他の教育普及事業

Other Education and Public Programs

4 | 教育普及 Education and Public Programs

来館者の作品鑑賞の充実とサポートを目的に、展覧会に合わせた講演会やアーティスト・トーク等を開催したほか、無料の鑑賞ガイドブックを作成・配布した。また、美術に触れ、美術に親しむ機会を提供するために、子どもから大人まで幅広い層を対象としたワークショップやシンポジウム等のイベントを実施した。さらに、インターンや学生ボランティアの受け入れを継続的に行い、美術館活動への理解の促進や人材育成を図った。

To help people get the most out of their visit, NACT put on lectures, artist talks, and other programs to coincide with exhibitions, and distributed a series of free guidebooks. We also ran events and workshops to encourage appreciation of art among the wider public, including a number of education programs for children. NACT continued to accept interns and student volunteers as part of its efforts to increase understanding of its activities and develop human resources.

4-1 講演会等 Lectures, etc.

展覧会関連企画

『アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち』

●アーティスト・トーク(対談)

日時：4月4日(土)14時～15時45分

講演：津上みゆき(出品作家)、佐野みどり(学習院大学教授)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：80人

●アーティスト・トーク

日時：4月10日(金)18時～19時20分

講演：石川直樹(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：129人

●アーティスト・トーク

日時：4月18日(土)14時～16時

講演：金田実生、齋藤芽生(出品作家)

会場：国立新美術館 研修室A, B

参加者数：230人

『ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち』

●講演会「子どもへのまなざし—フランス美術のなかの子ども」

日時：4月5日(日)14時～15時30分

講演：大野芳材(青山学院女子短期大学芸術学科教授)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：75人

『野村仁 変化する相一時・場・身体』

●アーティスト・トーク「自然は時間と共に真の姿を現わすか」

日時：6月6日(土)14時～15時

講演：野村仁(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：126人

●担当研究員による解説会

日時：6月20日(土)14時～15時

解説：長屋光枝(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室

参加者数：28人



4月10日



6月20日

●国立新美術館×日本科学未来館 アート×サイエンス クロストークvol.1

『野村仁 変化する相一時・場・身体』×『‘おいしく、食べる’の科学展』

主催：日本科学未来館、国立新美術館

日時：7月10日(金)18時～19時

講演：森田由子(日本科学未来館科学コミュニケーター)、平井章一(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室A, B

参加者数：33人

●講演会「時間の知覚」

日時：7月12日(日)14時～15時

講演：中原佑介(美術評論家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：60人

●アート×サイエンス クロストークvol.2

『野村仁 変化する相一時・場・身体』によせて～皆既日食と、野村仁の月と太陽～

日時：7月17日(金)18時30分～19時

講演：縣秀彦(国立天文台天文情報センター)

会場：国立新美術館 1階アトリウム

参加者数：100人

●担当研究員による解説会

日時：7月18日(土)14時～14時30分

解説：平井章一(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室

参加者数：25人

『ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ』

●記念講演会「ラリック、その愛と人生—新資料を中心に」

日時：7月5日(日)14時～15時30分

講演：池田まゆみ(美術工芸史家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：180人

●記念講演会「制作の舞台裏」

日時：8月2日(日)14時～15時30分

講演：池田まゆみ(美術工芸史家)

聞き手：西野華子(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：100人

『光 松本陽子／野口里佳』

●アーティスト・トーク

日時：8月22日(土)14時～16時

講演：野口里佳(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：200人

●アーティスト・トーク

日時：8月30日(日)14時～16時

講演：松本陽子(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：80人



8月30日

『THE ハプスブルク』

●記念講演会「デューラー、ティツィアーノ、ブリュッゲル、ルーベンス、ペラスケスーハプスブルク家とその画家たち」
日時：9月26日(土)14時～15時30分
講演：カール・シュッツ(ウィーン美術史美術館絵画館館長)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：254人

●記念講演会「怖い絵—華麗なるハプスブルク家の人々」
日時：10月24日(土)14時～15時30分
講演：中野京子(早稲田大学講師)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：300人

●記念講演会「ハプスブルク家栄光の軌跡：ルドルフ2世から美術史美術館へ」
日時：11月14日(土)14時～15時30分
講演：千足伸行(成城大学教授)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：280人

『ルノワール—伝統と革新』

●記念講演会
日時：1月24日(日)14時～15時30分
・「ルノワールへの旅—パリ、南仏、エッソワ」
講演：荒屋鋪透(財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸部長)
・光学調査報告「伝統と革新のはざまに—光学調査で探るルノワールの絵画技法」
講演：内呂博之(財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸員)
聞き手：西野華子(学芸課主任研究員)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：205人

●記念講演会「ルノワールの裸婦像」
日時：2月21日(日)14時～15時30分
講演：島田紀夫(ブリヂストン美術館長)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：172人

●記念講演会「晴れた日はルノワールに逢いに行こう」
日時：3月7日(日)14時～15時30分
講演：結城昌子(アートディレクター、エッセイスト)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：244人

『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』

●アーティスト・トーク
日時：3月5日(金)18時～19時
講演：アーノウト・ミック(出品作家)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
参加者数：34人

●アーティスト・トーク
日時：3月21日(日)14時～15時
講演：桑久保徹(出品作家)
会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム
参加者数：55人

●アーティスト・トーク
日時：3月27日(土)19時～20時30分
講演：南野馨、O JUN(出品作家)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
参加者数：150人(南野馨)、200人(O JUN)

共催企画等

●『第83回国展』関連イベント

「第3回国展トークイン—作家の目 作者の心—」

主催：国画会、国立新美術館

日時：5月6日(水)

会場：国立新美術館 第83回国展会場

参加者数：263人

●『第39回日彫展』関連イベント

「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」

主催：社団法人日本彫刻会、国立新美術館

日時：6月26日(金)、7月3日(金)、7月6日(月)

会場：国立新美術館 第39回日彫展会場

参加者数：95人(全3回)

●シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児、アーティストに出会う」

主催：国立新美術館、東北芸術工科大学、世界銀行 東京開発ラーニングセンター

特別協賛：京都造形芸術大学

日時：7月11日(土)13時30分～17時

・ウガンダでのワークショップの報告会「芸術はアフリカの子どもたちを救うことができるのか？」

宮島達男(現代美術家／東北芸術工科大学副学長)、石田俊輔(世界銀行 東京開発ラーニングセンター)他

・シンポジウム「アート&デザインの可能性」

小山薫堂(放送作家／東北芸術工科大学教授、(株)オレンジ・アンド・パートナーズ代表取締役社長、N35inc代表)、マエキタミヤコ(クリエイティブエージェンシー「サステナ」代表)、大森功一(世界銀行東京事務所広報担当)、宮島達男(現代美術家／東北芸術工科大学副学長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：221人

※講堂前にて、ウガンダワークショップで制作された作品と、プログラム紹介パネルの展示を行った。



7月11日

●ICAF(Inter College Animation Festival)2009

主催：インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル実行委員会、国立新美術館

共催：京都国際マンガミュージアム、日本アニメーション学会(JSAS)、日本アニメーション協会(JAA)

日時：9月11日(金)～9月14日(月)

会場：国立新美術館 講堂、研修室C

参加者数：1,509人(4日間合計)

・映像作品上映

日時：9月11日(金)～9月14日(月)

参加校：阿佐ヶ谷美術専門学校、IAMAS(岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー／情報科学芸術大学院大学)、大阪芸術大学、京都精華大学、神戸芸術工科大学、女子美術大学、成安造形大学、創形美術学校、多摩美術大学、東京芸術大学、東京工芸大学、東京造形大学、東京デザイナー学院、日本大学、武蔵野美術大学、早稲田大学川口芸術学校

・シンポジウム「G9+1・火星の彼方から」

日時：9月12日(土)13時～15時

会場：国立新美術館 講堂

出演：鈴木伸一、福島治、吉良敬三、大井文雄、一色あづる、西村緋祿司、古川タク、ひこねのりお、和田敏克

●連続セミナー「建築・都市・アートの視点から考える環境 2009」

主催：日本設計、国立新美術館

会場：国立新美術館 講堂

・第1回「歴史とエコロジーからのまちづくり—イタリア都市と東京」

日時：9月18日(金)17時30分～19時30分

講演：陣内秀信(法政大学デザイン工学部教授)

参加者数：116人

・第2回「21世紀は江戸に学べ」

日時：10月7日(水)15時30分～17時30分

講演：池田武邦(建築家)

参加者数：260人

・第3回「グリーンキャピタリズムの将来」

日時：10月16日(金)17時30分～19時30分

講演：細田衛士(慶應義塾大学経済学部教授／前経済学部長、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長)

参加者数：81人

・第4回「アートから見る人間と自然環境の関係」

日時：10月30日(金)17時30分～19時30分

講演：清水敏男(美術評論家、学習院女子大学教授、TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE取締役)

参加者数：120人

●『光 松本陽子／野口里佳』展関連シンポジウム「光、色そして形」

主催：日本色彩学会、国立新美術館

日時：10月9日(金)17時～19時10分

・対談「私的光景—ピンクと緑を巡って」

松本陽子(出品作家)、南雄介(学芸課長)

・講演「光、色そして形か、光、形そして色か：色と形の心理学」

鈴木恒男(慶應義塾大学、日本色彩学会)

・講演「マチスは色彩で笑う」

小町谷朝生(文星芸術大学、日本色彩学会)

・講演「絵画表面と色彩—近代絵画の特性」

中島恵(慶應義塾大学)

・パネルディスカッション

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：100人



10月9日

●『第41回日展』関連イベント

主催：社団法人日展、国立新美術館

・講演会

開催日：10月31日(土)、11月1日(日)、3日(火)、7日(土)、12日(木)、21日(土)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：1,141人(全6回)

・映像による作品解説

開催日：10月31日(土)、11月1日(日)、3日(火)、7日(土)、12日(木)、21日(土)、23日(月)、28日(土)、29日(日)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：1,900人(全11回)

・親子鑑賞教室

開催日：11月8日(日)、15日(日)、22日(日)

会場：国立新美術館 講堂、研修室

参加者数：117組315人(全6回)

・らくらく鑑賞会

開催日：11月2日(月)、9日(月)、16日(月)、30日(月)

会場：国立新美術館 第41回日展会場、研修室

参加者数：49人(全5回)

●「天皇陛下御在位20年記念講演会」

主催：社団法人日展、国立新美術館

日時：11月12日(木)13時30分～14時30分

講演：真室佳武(東京都美術館長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：300人

●ATRo 3周年記念トークセッション

「六本木アート・トライアングル:ネクスト 国立新美術館、サントリー美術館、森美術館——六本木は東京のアートの拠点になったのか？」

主催：国立新美術館、サントリー美術館、森美術館

日時：1月17日(日)14時～17時

・プレゼンテーション「首都東京におけるATRoのミッション」

講演：後藤繁雄(編集者/クリエイティブディレクター/京都造形芸術大学教授)

・パネルディスカッション「ATRo:ネクスト 次なる活動の可能性は？」

パネリスト：南雄介(学芸課長)、石田佳也(サントリー美術館学芸部長)、片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)、山下裕二(美術史家/明治学院大学教授)

モデレーター：後藤繁雄(編集者/クリエイティブディレクター/京都造形芸術大学教授)

司会：イーデン・コーキル(ジャパントイムズ学芸部記者)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：128人

●講演会「シリーズ 美術雑誌と戦後美術—創り手たちの証言 第1回

激動と転換の60年代末 宮澤壯佳氏(元『美術手帖』編集長)」

日時：2月13日(土)14時～15時30分

講演：宮澤壯佳(元『美術手帖』編集長)

聞き手：平井章一(情報資料室室長/学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 研修室A, B

参加者数：50人

●国立新美術館・政策研究大学院大学共催特別セミナー(第二回)

「フランスの文化政策の動向—ミュージアム評価を中心に」

主催：政策研究大学院大学、国立新美術館

日時：3月15日(月)14時～16時30分

講演：クサビエ・グレフ(ソルボンヌ大学教授)

会場：国立新美術館 研修室

参加者数：25人

●TOKYO ANIMA! —BOOT UP

主催：TOKYO ANIMA! 実行委員会、国立新美術館

日時：3月27日(土)、28日(日)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：1,820人(2日間合計)

・映像作品上映

日時：3月27日(土)、28日(日)

出品作家：加藤久仁生、稲葉卓也、坂井治、一瀬皓口、大河原亮+小川雄太郎+奥田昌輝、大山慶、岡本将徳、加藤隆、近藤聡乃、坂本サク、坂元友介、上甲トモヨシ、土田ひろゆき、中田彩郁、西野宮桂太、野上寿綿実、橋本新、藤田純平、細川晋、ホッチカズヒロ、洞口祐輔、水江未来、村井智、森川耕平、山田園子、山中幸生、和田淳

・シンポジウム「こういう『アニメーション』もあるんです。—動く絵画のこれまでとこれからと。」

日時：3月27日(土)17時～18時

出演：加藤久仁生(作家)、大山慶(作家)、水江未来(作家)、藤田純平(作家)、阿部芳久(CG-ARTS協会)、岡田秀則(東京国立近代美術館フィルムセンター)、室屋泰三(学芸課主任研究員)



2月13日

4-2 ワークショップ Workshops

●『アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち』

アーティスト・ワークショップ「石から生み出すいろいろなカタチ」

日時：4月5日(日)13時30分～17時30分

講師：村井進吾(出品作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：小学校4年生以上大人まで

参加者数：18人

※ワークショップ記録写真スライドショーを、館内3階のディスプレイで上映した。

●夏休みアーティスト・ワークショップ「やってみよう、美術体操～名画、名作を体感！～」

日時：8月22日(土)13時30分～16時30分

講師：高橋唐子(美術作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：小学生

参加者数：13人

※ワークショップ記録写真スライドショーを、館内3階のディスプレイで上映した。



8月22日

●『光 松本陽子／野口里佳』

アーティスト・ワークショップ「チャレンジ！抽象画～向き合う心、あふれ出る色～」

日時：9月12日(土)13時～16時

講師：松本陽子(出品作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：一般

参加者数：21人

※ワークショップ記録写真スライドショーを、館内3階のディスプレイで上映した。

●アーティスト・ワークショップ「とらえよう、レンズの向こう側～デジカメで撮る抽象写真～」

日時：12月19日(土)13時30分～16時30分

講師：浜田涼(美術作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：一般(小学校4年生以上)

参加者数：19人

※ワークショップ記録写真スライドショーを、館内3階のディスプレイで上映した。



1月10日

●アーティスト・ワークショップ「パラモデルといっしょにブラレールであそぼう」

日時：1月10日(日)13時30分～16時

講師：paramodel(林泰彦＋中野裕介)(現代美術家)

協力：株式会社タカラトミー、MORI YU GALLERY

会場：国立新美術館 講堂他

対象：子どもから大人まで

参加者数：34人

※ワークショップ記録写真スライドショーを、館内3階のディスプレイで上映した。

●アーティスト・ワークショップ「人形作家とつくる、オリジナルキャラクター」

日時：2月27日(土)13時30分～17時30分

講師：イシイリョウコ(人形作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：一般(小学生以下の場合は保護者同伴)

参加者数：22人



2月27日

●『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』

アーティスト・ワークショップ「傘をつかってアニメーションを作ろう」

日時：3月20日(土)13時30分～16時30分

講師：斎藤ちさと(出品作家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：一般(中学生以上)

参加者数：15人

4-3 インターン、ボランティア

Internships and Volunteering

インターン

美術館事業に関心のある若手研究者や大学院生に、実践的な研究や活動の場を提供し、人材育成を図るためのインターンシップを引き続き行った。平成21年度は展覧会事業、教育普及事業、資料収集提供事業の3部門で7人を受け入れた。

熊本晃順／小桧山祐幹／斎藤菜生子／紫村裕美／東海林洋／土井玲子／門馬英美

サポート・スタッフ

美術館の活動に関心を持つ学生にボランティアによる活動支援を呼びかけ、実務体験の機会を提供するサポート・スタッフ制度を引き続き実施し、ボランティアの受け入れを行った。

平成21年度サポート・スタッフ 52人

4-4 その他の教育普及事業

Other Education and Public Programs

●国立新美術館ガイドブック『アートのとびらVol. 4』

作品鑑賞の充実を図るため、『野村仁 変化する相一時・場・身体』の開催に合わせて、中学生以上を対象とした鑑賞ガイドブック『アートのとびら』を作成し、展覧会来場者に無料配布した。

平成21(2009)年5月27日発行、A5判、16ページ、図版カラー8点、15,000部

編集：学芸課教育普及室

執筆：長屋光枝、吉澤菜摘

デザイン：近藤一弥



●『ちいさなアーティスト・ファイル2010』

作品鑑賞の充実とサポートを目的に、『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』の開催に合わせて、中学生以上を対象とした鑑賞用ツールを作成し、展覧会来場者に無料配布した。

平成22(2010)年3月3日発行、仕上りA5判、四つ折、図版カラー7点、27,000部

編集：学芸課教育普及室

執筆：吉澤菜摘、鳥居茜

デザイン：亀井伸二(W.O.DESIGN)



●『国立新美術館 大きな文字の利用案内』

来館者に対する、より広範なバリアフリー化とサービスの向上を目指して、読みやすい大きな文字で印刷した利用案内を作成した。

平成22(2010)年3月18日発行、仕上り297×105mm、経本折、50,000部
企画・編集：学芸課教育普及室



- 「夏休みたてもたんけん2009～新美術館のひみつをさがそう!～」
 小学校3～6年生の児童を対象に、美術館のバックヤードを紹介するツアーを実施した。
 日時：8月6日(木)、14日(金)、21日(金) 14時30分～16時30分
 対象：小学校3年生～6年生
 参加者数：38人(全3回)



8月14日

- 鑑賞ガイダンス
 学生、生徒、児童を対象に、作品鑑賞前に展覧会のレクチャーを行った。
 参加：9団体251人

- 施設ガイダンス
 学生、生徒、児童を対象に、国立新美術館の建築や施設などを紹介する施設ガイダンスを行った。
 参加：12団体207人

- 港区の小中学校の先生を対象とした展覧会ガイダンス
 港区教育委員会および学校機関との連携プログラムとして、小中学校の教員を対象とした展覧会ガイダンスを実施した。
 日時：5月29日(金)15時30分～16時30分(小学校教員対象)、17時～18時(中学校教員対象)
 参加：17校19人

- 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修
 全国の小中学校等の教員と美術館の学芸員等を対象に、美術館を活用した鑑賞教育の充実と、学校と美術館との連携を図ることを目的とした指導者研修を行った。
 主催：独立行政法人国立美術館
 日時：8月3日(月)～5日(水)
 会場：東京国立近代美術館(3日)、国立新美術館(4日、5日)
 参加者数：129人

- 平成21年度独立行政法人国立美術館キュレーター研修
 受入：1人(10月20日～26日)

- SFTギャラリーへの企画協力
 より多くの人々がアートやデザインに触れる機会を設けるとともに、アーティストやデザイナーを支援し、発表の場を提供することを目的に、館内地下1階にあるSFTギャラリーへの展示企画の協力をを行った。



5

情報資料収集・提供

Collection and Provision of the Library
and Information Services

5-1 美術関連資料の収集と公開

Collection and Provision of the
Library and Materials

5-2 JACプロジェクト

JAC Project

5-3 展覧会情報の収集と提供

Collection and Provision of the
Information Services

5 情報資料収集・提供

Collection and Provision of the Library and Information Services

4月にホームページをより使いやすく親しみやすいものへとリニューアルした。このホームページを通じて国立新美術館に関する基本情報を国内外に発信するとともに、全国の美術展の情報を収集し、ホームページ内に設けた検索システム「アート commons」や、館内のポスター掲示板、チラシ配付場所で提供した。

美術に関する資料については、日本の美術展カタログの網羅的収集や、近現代美術・デザイン・建築・写真・メディアアートに関連する図書の収集に努めた。美術展カタログの収集にあたっては、関係機関、全国の美術館・博物館、個人からの寄贈に多くを負った。これらの資料は、本館3階のアートライブラリーと別館1階の特別資料閲覧コーナーで一般の利用に供した。また、当館で刊行した美術展カタログ等の印刷物を、国内約400箇所、国外約100箇所の美術館・博物館、大学図書館等関連機関に送付した。

「JACプロジェクト」（日本の美術展カタログを国外の日本美術研究機関4箇所へ寄贈する事業）については、本年度より、ハイデルベルグ大学東亜美術史研究所図書室からライデン大学東亜図書館にヨーロッパの拠点機関を移すとともに、9月には平井情報資料室長がイギリスのノリッジのセイレンズベリー日本芸術研究所で開かれた日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第16回年次総会に赴き、関係機関に「JACプロジェクト」を紹介するなど、ヨーロッパでの資料の活用促進に努めた。こうした活動に対し、寄贈機関からも「JACII」として、国外での日本美術に関する展覧会カタログの寄贈を受けた。

また、昨年から設置したアートライブラリーでの研究補佐員の推薦図書コーナー「話のたね」に加え、今年度からアートライブラリーで貴重資料の展示や、外部講師による資料をテーマにした講演会も開始し、美術に関する資料の調査・研究活動をさらに進展させた。

For a nicer, friendlier web experience, the NACT website was redesigned in April 2009 to improve the usability as well as graphic look. The website not only provided general information on NACT and its activities, but also listings of exhibitions that NACT gathered from museums across the country through the Art Commons database. The information on current and upcoming exhibitions nationwide has also been circulated to the on-site visitors by putting up posters, distributing flier and leaflets at designated areas in the building.

The acquisitions of Japanese exhibition-related publications remain one of the principal tasks concerning the library collection development. The objective to maintain a comprehensive collection has been largely supported by contributions made by museums, relevant organizations and private individuals. The collection is accessible to the public at the third-floor Art Library and by appointment at the Annex Reading Room. The NACT exhibition catalogs and other printed materials have been distributed to around 400 domestic and 100 overseas research institutions such as museums and academic libraries.

The Japan Art Catalog (JAC) Project involves sending catalogs of exhibitions published in Japan to four depository libraries overseas. This year, the plan to shift the project's European base was put in action: The depository was moved from the University of Heidelberg's Institute of East Asian Art History to the East Asian Library of the Leiden University. Accordingly, in September, HIRAI Shoichi, Head of Information and Library Services visited Norwich, England to make a presentation on the project at the European Association of Japanese Resource Specialists' 16th annual conference, hosted by the Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures. As to the JAC II Project, the JAC depository institutions reciprocated by donating catalogs of Japanese art exhibitions held overseas.

In 2009, the *Hanashi no Tane* (Seeds for Conversation) corner was set up in the Art Library, featuring selected titles on certain subjects by our research associates. Other efforts to promote the use of the library and its collection include: Exhibitions of rare/fragile materials in the third-floor library to increase the visibility of the collection held in the Annex building; the launch of a lecture series on Japanese art magazines by guest speakers.

5-1 美術関連資料の収集と公開

Collection and Provision of the Library Materials

美術関連資料の収集

●収集方針

日本で開催された展覧会のカタログの網羅的、遡及的収集を目指す。また、図書については、都内の既存国立美術館ライブラリー蔵書との重複を極力避け、国立新美術館が特にその紹介に力を入れている近現代美術、デザイン、建築、メディアアートに関するものを重点的に収集する。

●受贈 以下の大口寄贈を受けた(順不同)

鈴木杜幾子氏(展覧会カタログ562冊、図書102冊、雑誌ほか15冊)
 故・秋山庄太郎氏旧蔵資料(展覧会カタログ700冊、図書1,673冊、雑誌ほか147冊)
 故・山岸信郎氏旧蔵資料

●所蔵資料数

図書・カタログ登録冊数

		図書		カタログ		合計冊数	
和書	購入	10,111	(938)	1,086	(515)	11,197	(1,453)
	受贈	11,813	(2,181)	61,438	(8,017)	73,251	(10,198)
	小計	21,924	(3,119)	62,524	(8,532)	84,448	(11,651)
洋書	購入	3,400	(354)	1,883	(258)	5,283	(612)
	受贈	2,517	(623)	5,048	(1,093)	7,565	(1,716)
	小計	5,917	(977)	6,931	(1,351)	12,848	(2,328)
計	27,841	(4,096)	69,455	(9,883)	97,296	(13,979)	

※()内は平成21年度増加冊数

逐次刊行物登録タイトル数

和雑誌	洋雑誌	年報・紀要類
1,216	139	663

※雑誌の中にはマイクロ資料、AV資料、ニュースレターを含む

美術関連資料の公開

1. アートライブラリー(3階)

●利用統計

	開室日数	入室者数	閉架書庫出納冊数	コピー枚数
平成21(2009)年4月	26	3,483	362	2,007
5月	27	4,389	474	2,175
6月	25	2,415	498	1,805
7月	27	3,079	441	2,110
8月	27	3,719	453	1,852
9月	25	3,296	646	2,534
10月	27	3,755	679	1,906
11月	26	3,813	586	2,399
12月	18	2,119	310	1,249
平成22(2010)年1月	23	2,151	478	1,635
2月	24	2,881	499	1,576
3月	26	3,491	502	1,567
合計	301	38,591	5,928	22,815



●利用時間

開室時間：11時～18時

休室日：毎週火曜日(祝日の場合は開室し、翌日休室)、年末年始、特別整理期間

●アートライブラリー内所蔵資料紹介コーナー「話のたね」

- ・「新進作家を紹介するシリーズの展覧会—全国の国公立美術館による」平成21(2009)年4月1日～6月7日(同年3月4日から開始)
- ・「世界に影響を与えるアーティスト」6月9日～8月3日
- ・「ココ・シャネル」8月5日～10月9日
- ・「バウハウス設立90周年」10月10日～平成22(2010)年1月11日
- ・「メディア芸術—日本のマンガやアニメに関する資料」1月13日～3月31日

●資料展示

- ・「〈1940年代の展覧会〉日本美術会関連資料」平成21(2009)年5月22日～9月14日
- ・「〈1950年代の展覧会〉海外現代美術の紹介」9月16日～3月15日
- ・「日本国際美術展(東京ビエンナーレ)」平成22(2010)年3月16日～3月31日

2. 特別資料閲覧コーナー(別館1階)

●利用統計

開室日数：97日

利用者数：38名

●特別資料閲覧の対象となっている資料

1969年以前に国内で刊行された展覧会カタログ：2,991冊
 痛みがひどく取り扱いに注意を要する資料：615冊
 美術・デザイン・建築以外の分野に関する図書：1,607冊
 国内の美術館・博物館・大学等の年報・紀要：639タイトル
 国外の美術館・博物館・大学等の年報・紀要：24タイトル
 美術館・博物館等のニュースレター：613タイトル
 すでに終刊した日本の美術雑誌：263タイトル
 マイクロ資料：図書78冊、雑誌16タイトル

●利用時間

事前予約制

開室日時：毎週木曜日・金曜日、13時～17時

(木・金曜日が祝日、振替休日にあたる場合、及び年末年始は休室)



3. 資料の貸し出し

ANZA「フォトアーカイブより941点」[by ANZA「レンズの中の表現者達」展、および「by ANZA「現代美術と多摩美—明日のアーティスト達へ」展／平成21(2009)年10月23日～11月23日、および11月1日～11月28日／多摩美術大学

5-2 JACプロジェクト

JAC Project

●送付先

フリーア美術館／アーサー・M.サックラー美術館 図書室(スミソニアン研究所)
 コロンビア大学 エイヴリー建築美術図書館
 ライデン大学 東亜図書館
 シドニー大学 フィッシャー図書館

●送付資料数：1,967冊

内訳(冊)	送付先	送付資料数
	フリーア	500
	コロンビア	363
	ライデン	616
	シドニー	488

●「JACIIプロジェクト」による受入れ資料数：33冊

内訳(冊)	送付先	送付資料数
	北米日本研究資料調整委員会(NCC)	28
	フリーア	3
	コロンビア	1
	ライデン	1
	シドニー	0

●関連機関の訪問

平成21(2009)年9月16日に、平井情報資料室長がノリッジ(イギリス)にて開催された日本資料専門家欧州協会(EAJRS)の第16回年次大会に出席し、JACプロジェクトに関するプレゼンテーションを行った。



5-3 展覧会情報の収集と提供

Collection and Provision of the Information Services

アートコモンズ(展覧会情報検索システム)

平成21年度において、1,818件の展覧会情報(791の美術館・美術団体・画廊)を収集した。また、国立美術館本部が進めるアートコモンズ上の展覧会情報と国立4美術館の所蔵作品情報、国立新美術館と東京国立近代美術館の所蔵図書資料情報を横断的に検索する事業(試行版)に協力し、展覧会情報の利用の促進を図った。

展覧会チラシ、ポスターの収集と展覧会情報提供

全国の美術館や博物館、美術団体、画廊などから送付される広報物、展覧会チラシやポスターの一部を、館内複数箇所に設けたポスターやチラシの掲示、配付場所で掲示、配付し、来館者への情報提供を行った。

また、終了した展覧会の情報についても、当該年度分のチラシをアートライブラリーで来館者の求めに応じて閲覧に供した。



6

広報・出版

Publicity and Publications

6-1 印刷物

Publications

6-2 ホームページ

Website

6-3 広報活動

Publicity Activities

6-1 印刷物 Publications

カタログ Catalogue

●『野村仁 変化する相一時・場・身体』展覧会カタログ

平成21(2009)年5月27日発行、A4変型(305×233mm)、184ページ、
カラー177点・白黒45点、初版800部

編集：国立新美術館 平井章一、長屋光枝、松垣暁子

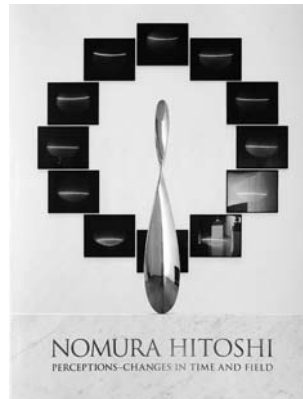
執筆：小林信之、野村仁、岩城見一、森司、金井直、平井章一、長屋
光枝

翻訳：ギャビン・フルー、スタンリー・N.アンダソン、クリストファー・
スティヴンズ

デザイン：豊永政史

発行：国立新美術館

※再版 平成21(2009)年6月27日発行、216ページ、カラー207点(展示
風景の写真を追加)・白黒45点、2,000部

●『ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ』展覧会
カタログ

平成21(2009)年6月24日発行、B5変型(260×192mm)、表紙2種類、
250ページ、図版カラー409点・白黒22点、15,000部(巡回先を含む)

編集：国立新美術館、東京新聞

執筆：ジョアオン・カステル＝ブランコ・ペレイラ(カルスト・グル
ベンキアン美術館長)、フィリップ・ティエボー(オルセー美術
館チーフキュレーター)、池田まゆみ、西野華子、長谷川珠緒、
柏木聖子、米田尚輝(日本学術振興会特別研究員)

翻訳：鵜飼敦子(仏文和訳)、長谷川珠緒(英文和訳)、マーサ・マクリ
ントク(和文英訳)

編集協力：岩田高明

デザイン：梯耕治編集デザイン室

制作：リーヴル

発行：東京新聞



●『光 松本陽子/野口里佳』展覧会カタログ

平成21(2009)年8月19日発行、A4変型(280×224mm)、
ケース入り(282×225×27mm)、3,000部

(下記2種類の展覧会カタログ『光 松本陽子』および『光 野口里佳』を
ケースに収めたもの)

●『光 松本陽子』展覧会カタログ

平成21(2009)年8月19日発行、A4変型(280×244mm)、124ページ、
図版カラー59点、4,000部(うち3,000部は上記展覧会カタログ『光 松本
陽子/野口里佳』に使用)

編集：国立新美術館 南雄介、阿部真弓、山田由佳子

執筆：南雄介、松本陽子

翻訳：スタンリー・N.アンダソン、クリストファー・スティヴンズ

編集協力：印象社

アート・ディレクション&デザイン：中島英樹

デザインアシスタント：飯野剛伸

発行：国立新美術館

●『光 野口里佳』展覧会カタログ

平成21(2009)年8月19日発行、A4変型(280×244mm)、122ページ、
図版カラー157点、5,000部(うち3,000部は上記展覧会カタログ『光 松
本陽子/野口里佳』に使用)

編集：国立新美術館 南雄介、阿部真弓、山田由佳子

執筆：南雄介、野口里佳

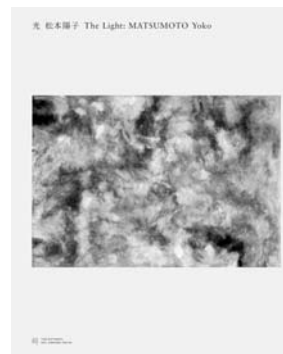
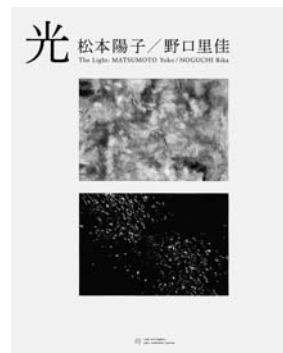
翻訳：スタンリー・N.アンダソン、クリストファー・スティヴンズ、
荒木全朋子、河野晴子

編集協力：印象社

アート・ディレクション&デザイン：中島英樹

デザインアシスタント：飯野剛伸

発行：国立新美術館



●『THE ハプスブルク』展覧会カタログ

平成21(2009)年9月25日発行、A4変型(302×227mm)、268ページ、
 図版カラー238点・白黒106点、46,000部(巡回会場分も含む)

監修：千足伸行

編集：国立新美術館、京都国立博物館、読売新聞東京本社

執筆：サビーネ・ハーグ、カール・シュッツ、クリスティアン・ポフォー
 ル＝スポンタン、バログ・イロナ、千足伸行、小林明子、久保
 智康、山下善也、永島明子

翻訳：佐藤幸宏、千速敏男、長屋光枝、ハイコ・ナロック、野田由美意、
 ギャビン・フルー、松井隆夫、松下ゆうこ

編集補助：小松山祐幹、東海林洋

翻訳協力：望月規史

制作：印象社

発行：読売新聞東京本社



●『ルノワール—伝統と革新』展覧会カタログ

平成22(2010)年1月21日発行、A4変型(290×227mm)、309ページ、
 図版カラー135点・白黒161点、27,000部(大阪展分は除く)

編集：国立国際美術館、国立新美術館、ポーラ美術館、読売新聞大阪
 本社文化事業部

執筆：荒屋鋪透、安來正博、西野華子、加藤絢、岩崎余帆子(財団法人
 ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸課長)、内呂博之(財団法人
 ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸員)

翻訳：スタンリー・N.アンダソン、マーサ・マクリントク、シェリル・
 シルバーマン

翻訳協力：西山哲(株式会社インターパブリカ)

デザイン：高岡健太郎(株式会社エヌ・シー・ピー)

発行：読売新聞大阪本社



●『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ

※本カタログは7冊の作家ファイルとイントロダクションによって構
 成されている

「イントロダクション」

「ファイル018 福田尚代」

「ファイル019 石田尚志」

「ファイル020 桑久保徹」

「ファイル021 アーノウト・ミック」

「ファイル022 南野馨」

「ファイル023 O JUN」

「ファイル024 斎藤ちさと」

平成22(2010)年3月3日発行、8分冊、A4変型(280×210mm)、箱付
 き(295×218×36mm)、4,500部

作家ファイル各32ページ×7冊・イントロダクション4ページ(計228
 ページ)、図版カラー204点・白黒51点

編集：国立新美術館 平井章一、宮島綾子、櫻井聖子、工藤弘二

執筆：福永治、南雄介、平井章一、長屋光枝、宮島綾子、西野華子

翻訳：スタンリー・N.アンダソン、クリストファー・スティヴンズ、ギャ
 ビン・フルー

デザイン：亀井伸二(W.O.DESIGN)

発行：国立新美術館



●『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』記録集

「展覧会ドキュメント」

平成22(2010)年3月31日発行、A4変型(280×210mm)、40ページ、図
 版カラー21点・白黒15点、2,000部

編集：国立新美術館 平井章一、宮島綾子、櫻井聖子、工藤弘二

写真：安齊重男、上野則宏

デザイン：亀井伸二(W.O.DESIGN)

発行：国立新美術館

ポスター、チラシ Poster and Flier

●『野村仁 変化する相一時・場・身体』

ポスター



チラシ



A 4判、80,000部

B 1判、650部

他 B 3判、2,000部

B 3変型(インターサイズ)、
850部

デザイン：豊永政史

●『ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ』

ポスター



チラシ



A 4判(2種)、
黒色版 150,000部、
白色版 350,000部

B 1判、500部

他 B 2判、2,000部

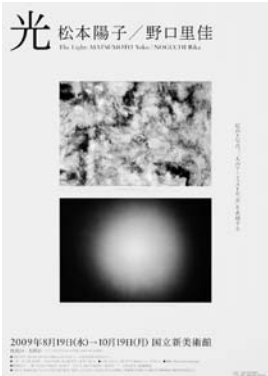
B 3判、30,000部

B 3変型(インターサイズ)、
2,550部

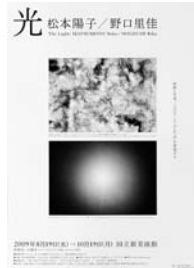
デザイン：近藤一弥

●『光 松本陽子／野口里佳』

ポスター



チラシ



A 4判、80,000部

B 1判、650部

他 B 3判、2,000部

B 3変型(インターサイズ)、
850部

アート・ディレクション
&デザイン：中島英樹
デザインアシスタント：
飯野剛伸

●『THE ハプスブルク』

ポスター



チラシ



A 4判、720,000部

他 仕上りA 4判、巻三つ折、
200,000部

B 1判(2種)、各20部

他 B 0判(2種)、各200部

B 2判(2種)、各2,800部

B 3判、10,300部

B 3判(中吊り)、3,000部

B 3変型(インターサイズ)、

1,200部

クリエイティブディレクター：
渋谷弾((株)渋谷企画)
デザイナー：山本麻子((株)渋谷企画)

●『ルノワール—伝統と革新』

ポスター



B 1 判 (3 種)、400部
 他 B 2 判 (3 種)、6,000部
 B 3 判、40,000部

チラシ



A 4 判、800,000部

デザイン：田辺智子
 (田辺智子デザイン室)

●『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』

ポスター



B 1 判、750部



B 3 判、3,500部

デザイン：亀井伸二 (W.O.DESIGN)



B 3 変型 (インターサイズ)、
 700部

チラシ



A 4 判、100,000部

フロアガイド、スケジュール類 Floor Guide, Exhibition Schedule, etc.

●国立新美術館利用案内

仕上り220×107mm、二つ折、150,000部

表紙デザイン：佐藤可士和



●国立新美術館別館

仕上り220×107mm、二つ折、20,000部(平成19年度版を改版)



●JAPAN ART CATALOG プロジェクト

仕上り210×100mm、巻三つ折、1,000部、英語版：1,000部

(平成20年度版を改版)



●特別資料閲覧コーナー

仕上り210×100mm、巻三つ折、2,000部(初版)、4,000部(改版)



●国立新美術館展覧会スケジュール 2009.4-9

仕上り210×100mm、巻三つ折、100,000部



●国立新美術館展覧会スケジュール 2009.10-2010.3

仕上り210×100mm、巻三つ折、100,000部



●国立新美術館施設概要

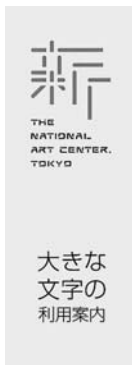
A4判、12ページ、韓国語版：1,000部

表紙デザイン：佐藤可士和



●『国立新美術館 大きな文字の利用案内』

仕上り297×105mm、経本折、50,000部



美術館ニュース Newsletter

●国立新美術館 美術館ニュース No.10

平成21(2009)年4月30日発行、A4判、8ページ、5,000部

表紙デザイン：佐藤可士和

目次：

- ・『アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち』
展覧会関連イベントレポート「対談：津上みゆき(出品作家)×佐野みどり(学習院大学教授)」
本橋弥生(学芸課研究員)
- ・「ルーヴル美術館展—美の宮殿の子どもたち」
「アルバーニ家の子どもたち」
宮島綾子(学芸課主任研究員)
- ・研究員レポート「ヴァシリー・カンディンスキーの『抽象絵画』」
長屋光枝(学芸課主任研究員)
- ・書架のあいだから「海外の美術館図書室レポート：ステデリック美術館図書室」
白鳥真理子(学芸課研究補佐員)
- ・教育普及事業レポート
ワークショップ「作ろう！オリジナル・モビール」
ワークショップ報告スライドショー
アーティスト・ファイル鑑賞ガイド『ちいさなアーティスト・ファイル』
鳥居茜、吉澤菜摘(学芸課研究補佐員)



●国立新美術館 美術館ニュース No.11

平成21(2009)年7月31日発行、A4判、8ページ、5,000部

表紙デザイン：佐藤可士和

目次：

- ・『野村仁 変化する相—時・場・身体』
「国立新美術館×日本科学未来館 アート×サイエンス クロストークvol.1『野村仁 変化する相—時・場・身体』×『おいしく、食べる』の科学展」
平井章一(学芸課主任研究員)
- ・『生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ』
「ルネ・ラリック—ジュエリー制作の舞台裏」
長谷川珠緒(学芸課研究補佐員)
- ・研究員レポート「古都グラーツのクンストハウス」
宮島綾子(学芸課主任研究員)
- ・書架のあいだから「書架あらためデジタルデータの隙間から」
尾形泰三(学芸課情報研究補佐員)
- ・教育普及事業レポート
アーティスト・ワークショップ「ミニチュア・ムシワールド～虫からみた世界をつくろう～」
アーティスト・ワークショップ「石から生み出すいろいろなカタチ」
鳥居茜、吉澤菜摘(学芸課研究補佐員)



●国立新美術館 美術館ニュース No.12

平成21(2009)年10月31日発行、A4判、8ページ、5,000部

表紙デザイン：佐藤可士和

目次：

- ・『光 松本陽子／野口里佳』
「松本陽子 ピンクの反転」
阿部真弓(学芸課研究補佐員)
「《太陽》の次へ—野口里佳の新作について—」
山田由佳子(学芸課研究補佐員)
- ・「THE ハプスブルク—華麗なる王家と美の巨匠たち」
「ブタベスト国立西洋美術館からの名作の数々」
小林明子(学芸課研究補佐員)
- ・研究員レポート「アートと経済波及効果」
西野華子(学芸課主任研究員)
- ・書架のあいだから「資料にみる『世界・今日の美術展』」
橋川英規(学芸課研究補佐員)
- ・教育普及事業レポート
シンポジウム「ウガンダのエイズ孤児、アーティストに会う」
夏休みアーティスト・ワークショップ「やってみよう、美術体操～名画、名作を体感！～」
鳥居茜、吉澤菜摘(学芸課研究補佐員)
- ・公募団体等の活動「次なる100年を目指して—一日展の挑戦—」
社団法人 日展



●国立新美術館 美術館ニュース No.13

平成22(2010)年1月31日発行、A4判、8ページ、5,000部

表紙デザイン：佐藤可士和

目次：

- ・『ルノワール—伝統と革新』
「ルノワールと堀辰雄—文学からみる『フランス印象派』」
荒屋鋪透(ポーラ美術館学芸部長)
- ・「六本木のアートのとびら—国立新美術館教育普及事業の3年間—」
吉澤菜摘(学芸課研究補佐員)
- ・教育普及事業レポート
アーティスト・ワークショップ「チャレンジ! 抽象画〜向き合う心、あふれ出る色〜」
アーティスト・ワークショップ「とらえよう、レンズの向こう側〜デジカメで撮る抽象写真〜」
鳥居茜(学芸課研究補佐員)
- ・書架のあいだから「美術のなかのデザイン」
奥村嘉子(学芸課研究補佐員)
- ・公募団体等の活動「“来場者の皆さんに喜ばれる二紀展”をめざして」
社団法人 二紀会 事務局



活動報告 NACT Report

●平成20年度 国立新美術館 活動報告

平成21(2009)年5月20日発行、A4判、110ページ、800部

表紙デザイン：佐藤可士和



ガイドブックその他 Guide Book, etc.

●国立新美術館ガイドブック『アートのとびらVol. 4』

平成21(2009)年5月27日発行、A5判、16ページ、図版カラー8点、15,000部

編集：学芸課教育普及室

執筆：長屋光枝、吉澤菜摘

デザイン：近藤一弥



●『ちいさなアーティスト・ファイル2010』

平成22(2010)年3月3日発行、仕上りA5判、四つ折、図版カラー7点、27,000部

編集：学芸課教育普及室

執筆：吉澤菜摘、鳥居茜

デザイン：亀井伸二(W.O.DESIGN)



6-2 ホームページ Website

国立新美術館ホームページは利用者にわかりやすく情報を伝えることを目指し、平成21年度において以下のような見直し及び情報発信の強化を行った。

The NACT website aims to communicate information to users in an easy-to understand format. In fiscal 2009, we improved our ability to provide information to users by revising our website, opening the website for mobile phones, and providing e-mail magazines.

- ・ホームページのリニューアル：国立新美術館の多彩な事業をわかりやすく利用者に伝え、交通案内等の基本的な情報の充実により美術館への来館の利便を図るため、2009年4月よりホームページをリニューアルした。ホームページ上の情報を「展覧会」、「教育普及」、「美術の資料と情報」の3つの大項目に分類し、さらに企画展、公募展、講演会等のイベント情報、ワークショップ参加者募集等のお知らせを一覧できるように配置した。また、美術館周辺の地図や最寄り駅までの公共交通機関の情報を充実させたほか、バリアフリー情報を含んだ周辺案内図等を追加した。
- ・携帯版ホームページの公開：携帯電話や携帯情報端末でホームページのほぼ全文を閲覧可能な「携帯電話向けページ」を開設した。携帯電話からの閲覧を促進するため、一部の印刷物に携帯版ホームページのアドレスを符号化した二次元バーコード(QRコード)を掲載した。
- ・メールマガジンの配信：平成21(2009)年12月より月1回、メールマガジンの配信を開始した。約1,100名が受信登録している。



総アクセス数(閲覧されたページ数)：8,188,159件

うち、英語ページ：244,582件

ドイツ語ページ：8,902件

スペイン語ページ：8,312件

フランス語ページ：8,884件

韓国語ページ：12,545件

中国語ページ：13,864件

携帯版ページ(7月公開開始)：100,280件

6-3 広報活動 Publicity Activities

国立新美術館を周知するための活動として、メディア各社へ向けて展覧会やイベントの情報を発信した。また、取材対応、展覧会プレスリリースの配信、記者発表会に加え、今年度は展覧会の広報を目的とした、日本科学未来館(お台場)や国立天文台(三鷹)といった他施設の研究員を招いての講演会を実現し、幅広い層への認知度の向上を図った。

NACT worked to raise its profile by sending publicity on exhibitions and other related events to a wide variety of media outlets. In addition to dealing with requests from the press, distributing press releases, and holding press conferences, in fiscal 2009 we hosted lectures by researchers from institutions such as the National Museum of Emerging Science and Innovation (Miraikan) in the Odaiba district of Tokyo and the National Astronomical Observatory of Japan in Mitaka city, metropolitan Tokyo, to increase awareness of NACT as widely as possible.

平成21年度掲載記事、放映 Media Publicity April 2009 - March 2010

新聞

No. 紙名	発行	発行日	内容
1 日本経済新聞	日本経済新聞社	4月8日	『アーティスト・ファイル2009』展
2 THE DAILY YOMIURI	読売新聞東京本社	6月19日	『野村仁』展
3 産経新聞	産経新聞社	7月1日	『野村仁』展
4 読売新聞	読売新聞東京本社	7月2日	『野村仁』展
5 読売新聞	読売新聞東京本社	7月7日	『野村仁』展
6 毎日新聞	毎日新聞社	7月14日	『野村仁』展
7 日本経済新聞	日本経済新聞社	9月9日	『光』展
8 毎日新聞	毎日新聞社	9月10日	『光』展
9 朝日新聞	朝日新聞社	10月1日	『光』展
10 東京新聞	中日新聞社	3月12日	『アーティスト・ファイル2010』展

他 66件(当館把握件数)

雑誌

No. 誌名	発行	発売号	内容
1 日経サイエンス	日経サイエンス	8月号	『野村仁』展
2 芸術新潮	新潮社	7月号	『野村仁』展
3 Hanako	マガジンハウス	7月9日号	『野村仁』展
4 Cut	ロッキング・オン	9月号	『光』展
5 家庭画報インターナショナル エディション	世界文化社	秋・冬号	『光』展
6 美術手帖	美術出版社	10月号	『光』展
7 アサヒカメラ	朝日新聞出版	10月号	『光』展
8 PHaT PHOTO	シー・エム・エス	11月号	『光』展
9 Photo GRAPHICA	エムディエヌコーポレーション	1月号	『光』展
10 美術の窓	生活の友社	3月号	『アーティスト・ファイル2010』展
11 amarena	扶桑社	4月号	『アーティスト・ファイル2010』展

他 156件(当館把握件数)

テレビ

No. 放映番組名	放送局	放映日	内容
1 artlover	フジテレビ	4月3日、10日	『アーティスト・ファイル2009』展
2 ひるおび	TBSテレビ	4月30日	『アーティスト・ファイル2009』展
3 日曜美術館アートシーン	NHK	9月13日	『光』展
4 artlover	フジテレビ	9月18日、25日	『光』展
5 読売ニュースナビ	日テレG+	10月6日	『THE ハブスブルク』展長屋主任研究員インタビュー
6 はなまるマーケット	TBSテレビ	10月12日	『THE ハブスブルク』展長屋主任研究員インタビュー
7 おもいっきりDON!	日本テレビ	1月19日	『ルノワール』展

他 12件(当館把握件数)

ラジオ

No. 放送番組名	放送局	放送日	内容
1 Café Les R	エフエム世田谷	4月6日	『ルーヴル美術館展』宮島主任研究員インタビュー
2 LOHAS SUNDAY	J-WAVE	4月26日	『アーティスト・ファイル2009』展
3 BOOM TOWN	J-WAVE	10月8日	『THE ハブスブルク』展宮島主任研究員インタビュー

他 4件(当館把握件数)

その他、フリーペーパー、WEB等の掲載 117件(当館把握件数)

六本木アート・トライアングル

六本木に三角形を描くように位置する、国立新美術館、サントリー美術館、森美術館の3館は、芸術・文化の発展と地域の活性化を目指し、「六本木アート・トライアングル」〔略称：ATRo(あとろ)〕として、展覧会観覧料の相互割引「あとろ割」や、「六本木アート・トライアングルMap + Calendar」の配布など、さまざまな連携を図っている。六本木アート・トライアングル3周年となる平成21年度は、六本木アート・トライアングルの更なる認知度の向上を図るため、「アトロ3館展覧会招待券プレゼントキャンペーン」を10月に実施。1月にはアトロ各館のキュレーターと2名のゲストパネリストによる、ATRo3周年記念トーク・セッション「六本木アート・トライアングル：ネクスト」を開催。アトロのこれまでの活動の成果とこれからの可能性について様々な視点から議論がなされた。

●六本木アート・トライアングルMap + Calendar 2009.4-9

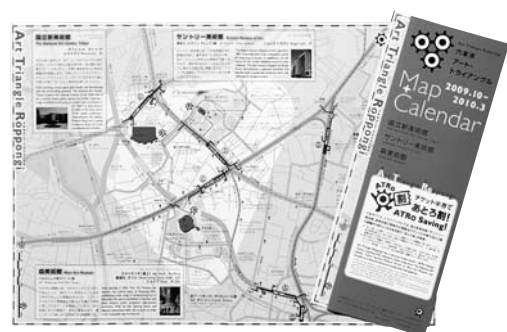
国立新美術館、サントリー美術館、森美術館
平成21(2009)年4月発行、仕上り297×119mm、展開サイズ297×418mm、変型経本折

●六本木アート・トライアングルMap + Calendar 2009.10-2010.3

国立新美術館、サントリー美術館、森美術館
平成21(2009)年10月発行、仕上り297×119mm、展開サイズ297×418mm、変型経本折

●六本木アート・トライアングルMap + Calendar 2010.4-9

国立新美術館、サントリー美術館、森美術館
平成22(2010)年3月発行、仕上り297×119mm、展開サイズ297×418mm、変型経本折



●ATRo 3周年記念トークセッション

「六本木アート・トライアングル：ネクスト 国立新美術館、サントリー美術館、森美術館——六本木は東京のアートの拠点になったのか？」

主催：国立新美術館、サントリー美術館、森美術館

日時：1月17日(日)14時～17時

・プレゼンテーション「首都東京におけるATRoのミッション」

講演：後藤繁雄(編集者／クリエイティブディレクター／京都造形芸術大学教授)

・パネルディスカッション「ATRo：ネクスト 次なる活動の可能性は？」

パネリスト：南雄介(学芸課長)、石田佳也(サントリー美術館学芸部長)、片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)、山下裕二(美術史家／明治学院大学教授)

モデレーター：後藤繁雄(編集者／クリエイティブディレクター／京都造形芸術大学教授)

司会：イーデン・コーキル(ジャパントイムズ学芸部記者)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：128人



1月17日

福永治 FUKUNAGA Osamu

【執筆】・「斎藤ちさと」／『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
 【講演等】・「国立新美術館の活動と戦略」／『平成21年度 市民美術大学(前期)』美術(文化)と社会／5月30日／現代美術センターCCA北九州
 【海外出張】・フランス／5月22日～29日／『オルセー美術館展2010』調印式、2012年度開催予定展の打ち合わせ、ならびに美術館等の調査のため

南雄介 MINAMI Yusuke

【執筆】・「序文『光 松本陽子／野口里佳』展について」／『光 松本陽子』および『光 野口里佳』展覧会カタログ／8月／国立新美術館
 ・「松本陽子 絵画のイメージ」／『光 松本陽子』展覧会カタログ／8月／国立新美術館
 ・「野口里佳 光速を超える写真」／『光 野口里佳』展覧会カタログ／8月／国立新美術館
 ・「福田尚代 回文と美術」／『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
 ・「利部志穂」／『VOCA展2010 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』展覧会カタログ／3月／『VOCA展』実行委員会、財団法人日本美術協会・上野の森美術館
 【講演等】・対談「私的光景—ピンクと緑を巡って」(松本陽子との対談)／シンポジウム「光、色そして形」／10月9日／国立新美術館
 ・記念講演「戦後日本の現代美術—その国際性をめぐって」／シンポジウム「ロシアにおける日本美術研究」／2月1日／国立プーシキン美術館付属青少年美術教育センター「ムセイオン」(ロシア、モスクワ)
 ・円卓会議「日本美術の研究における諸問題」出席／シンポジウム「ロシアにおける日本美術研究」／2月3日／国立プーシキン美術館付属青少年美術教育センター「ムセイオン」(ロシア、モスクワ)
 【海外出張】・ロシア、チェコ／1月30日～2月6日／シンポジウム「ロシアにおける日本美術研究」招待出席、ロシアにおける現代美術状況の調査、および企画展に関わる調査のため

平井章一 HIRAI Shoichi

【執筆】・「1930年代の大阪におけるヨーロッパ前衛海外の受容と展開—石丸一と吉原治良を中心に」／『昭和期美術展覧会の研究 戦前編』／4月／東京文化財研究所／※2009年5月、中央公論美術出版からも一般書籍として出版
 ・「白髪一雄のアクション・ペインティング」／『白髪一雄展—格闘から生まれた絵画—』／4月／白髪一雄展実行委員会
 ・【作品解説】7点、【章解説】「宇宙の相」「太古の相」、【各論】「地上から宇宙へ—野村仁の『世界』」／『野村仁 変化する相一時・場・身体』展覧会カタログ／5月／国立新美術館
 ・「ぎゃらりいモール(野村仁展)」／『読売新聞』7月7日(夕刊)／読売新聞社
 ・「国立新美術館のJACプロジェクト」／『視覚の現場—四季の綻び』Vol. 3／11月／醍醐書房
 ・「六本木アート事情」／『視覚の現場—四季の綻び』Vol. 4／2月／醍醐書房
 ・「概念のゆらぎ—南野馨の作品について」／『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
 ・「桑久保徹の絵画について」、【巻末資料(略歴・展覧会歴・主要文献)】桑久保徹／『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
 ・「具体美術協会と『具体』誌について」／『復刻版 具体』／3月／藝華書院
 【講演等】・「行為こそ～白髪一雄 人と芸術～」／『白髪一雄展—格闘から生まれた絵画—』講演会／4月25日／安曇野市豊科近代美術館

・「欲しい学術的評価と顕彰の場—展覧会企画と研究」／美術史学会美術館博物館委員会東西合同シンポジウム「ミュージアムをどう評価するのか—学芸員の専門性と美術館・博物館の力」／5月9日／東京都美術館
 ・「白髪一雄のアクション・ペインティングについて」／『白髪一雄展—格闘から生まれた絵画—』講演会／8月9日／尼崎市総合文化センター
 ・「JACプロジェクトについて」／日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第16回年次総会／9月16日／セインズベリー日本藝術研究所(イギリス、ノリッジ)
 ・「白髪一雄 人と芸術」／『白髪一雄展—格闘から生まれた絵画—』講演会／11月3日／横須賀美術館
 ・「白髪一雄のアクション・ペインティングについて」／『白髪一雄展—格闘から生まれた絵画—』講演会／2月6日／碧南市藤井達吉現代美術館
 ・「日本の『具体』 世界のGUTAI」／『大阪府20世紀美術コレクション「具体」ゆかりの作家展』／3月6日／アートホール神戸
 【海外出張】・イギリス、イタリア、オランダ／9月15日～21日／日本資料専門家欧州協会(EAJRS)第16回年次総会出席、および『アーティスト・ファイル2010』の出品交渉ほか
 ・アメリカ／3月22日～26日／平成23年度企画展『ワシントン・ナショナル・ギャラリー展(仮)』の出品作品調査のため

長屋光枝 NAGAYA Mitsue

【執筆】・「研究員レポート ヴァシリー・カンディンスキーの『抽象絵画』」／『国立新美術館ニュース』No.10(4月)／国立新美術館
 ・【作品解説】11点、【章解説】「物質の相」「地上の相」「天上の相」「未来の相」、【各論】「野村仁—身体とメディア」／『野村仁 変化する相一時・場・身体』展覧会カタログ／5月／国立新美術館
 ・『アートのとびら 国立新美術館ガイドブックVol. 4』(吉澤菜摘研究補佐員と共著)／5月／国立新美術館
 ・「THE ハプスブルク」／『読売新聞』10月2日(夕刊)／読売新聞社
 ・「アノウト・ミック—不穏な緩衝地帯」／『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
 【翻訳】・カール・シュッツ「ウィーン美術史美術館絵画館の歴史」／『THE ハプスブルク』展覧会カタログ／9月／読売新聞東京本社
 【講演等】・「メディア・アートをめぐって」／『アヴァンギャルド・チャイナ—中国当代美術二十年—』展(愛知県美術館)関連イベント／4月5日／愛知芸術文化センター
 ・『野村仁 変化する相一時・場・身体』展担当研究員による解説会／7月12日／国立新美術館
 ・「ハプスブルク家の美術コレクションの歴史」／「青学オープンカレッジ」／10月3日／青山学院大学
 【海外出張】・オーストラリア／11月28日～12月4日／平成22年度企画展「オルセー美術館展2010—ポスト印象派」展示作業および出品作品調査のため

宮島綾子 MIYAJIMA Ayako

【執筆】・「アルバーニ家の子どもたち」／『国立新美術館ニュース』No.10(4月)／国立新美術館
 ・「ルーヴルの子どもたち」／『朝日中学生ウィークリー』連載(5回)4月19日、4月26日、5月3日、5月10日、5月17日／朝日新聞社
 ・「研究員レポート 古都グラーツのクストハウス」／『国立新美術館ニュース』No.11(7月)／国立新美術館
 ・【年表】『THE ハプスブルク』展覧会カタログ／9月／読売新聞社
 ・「最果てのリアリティ」、【巻末資料(略歴・展覧会歴・主要文献)】OJUN／『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
 【講演等】・「展覧会の裏舞台—『THEハプスブルク』展をモデルケー

スに]／「青学オープンカレッジ」／10月10日／青山学院大学
【海外出張】・ドイツ／4月24日～5月1日／平成23年度企画展に向けての調査のため
・オーストリア／5月14日～21日／平成24年度企画展『リヒテンシュタイン展(仮)』の出品作品調査、その他の企画展に関する調査のため

西野華子 NISHINO Hanako

【執筆】・「ラリックからラリック社へ」、[章解説]I-2～4章、II-2、4～11章／『ルネ・ラリック 華やきのジュエリーから煌きのガラスへ』展覧会カタログ／6月／東京新聞
・「力強い造形と透明な輝き—ルネ・ラリック展」／『東京新聞』6月1日／東京新聞
・「研究員レポート アートと経済波及効果」／『国立新美術館ニュース』No.12(10月)／国立新美術館
・「『ルノワール—伝統と革新』展」／『文化庁月報』／12月／文化庁
・「ルノワールの装飾画をめぐる」、[章解説]「花と装飾画」(第3章)、[作品解説]6点／『ルノワール—伝統と革新』展覧会カタログ／1月／読売新聞社
・「ルノワール—伝統と革新」(「ぎゅらりいモール」)／『読売新聞』2月9日(夕刊)／読売新聞社
・「ピエール＝オーギュスト・ルノワール『ブーヅヴァルのダンス』」(アートレビュー「アート・トーク」)／『日本経済新聞』3月11日／日本経済新聞社
・「石田尚志」／『アーティストファイル2010—現代の作家たち』展覧会カタログ／3月／国立新美術館
【海外出張】・韓国／10月20日～23日／第4回アジア美術館長会議出席および美術館等調査のため

室屋泰三 MUROYA Taizo

【執筆】・「絵画画像の画面上の“明暗変化”と“色彩変化”の情報量に着目した特徴抽出」／日本色彩学会誌(Vol.33, Supplement)／5月／日本色彩学会
・「AN ANALYSIS OF COLOR COMPOSITION IN PAINTINGS BY MEANS OF INFORMATION ENTROPY」／11th Congress of the International Colour Association[AIC]2009／9月／AIC
・「絵画画像の微細な色変化に着目した特徴抽出」／カラーフォーラム JAPAN2009論文集／11月／カラーフォーラム JAPAN事務局
・第VI講「作品情報のアクセスと発信」／全国美術館会議 情報・資料研究部企画 セミナー 美術情報・資料の活用法—展覧会カタログからWebまで— レジュメ集／11月／全国美術館会議 情報・資料研究部
・日本色彩学会関東支部、国立新美術館共催シンポジウム「光、色そして形」報告／日本色彩学会誌／12月／日本色彩学会
・「色空間の分割に基づく情報量を用いた絵画画像の色彩構成の分析」／日本色彩学会 画像色彩研究会 2009年度研究発表会論文集／2月／日本色彩学会 画像色彩研究会
・「美術館の情報発信—参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代」／全国美術館会議第25回学芸員研修会 美術館の情報発信—参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代—／3月／全国美術館会議 情報・資料研究部
【研究発表】・「絵画画像の画面上の“明暗変化”と“色彩変化”の情報量に着目した特徴抽出」／日本色彩学会全国大会／5月／慶応大学日吉キャンパス
・「絵画画像の微細な色変化に着目した特徴抽出」／カラーフォーラム JAPAN2009／11月4日／独立行政法人産業技術総合研究所・臨海副都心センター
・第VI講「作品情報のアクセスと発信」／全国美術館会議 情報・資料研究部企画 セミナー 美術情報・資料の活用法—展覧会カタログからWebまで—／11月11日／国立西洋美術館
・「美術館の情報発信—参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代」／全国美術館会議学芸員研修会／3月12日／国立新美術館

三木哲夫(特任研究員) MIKI Tetsuo(Special Projects Curator)
【講演等】・「浜口陽三の芸術と生涯」／「生誕100年記念 浜口陽三展」／8月2日／和歌山県立近代美術館
・「浜口陽三を語る 人と作品」／「銅版画の巨匠 浜口陽三」展／9月12日／城西国際大学 水田美術館
・「浜口陽三入門 人と作品」／「生誕100年記念 浜口陽三展」／11月28日／田辺市立美術館

8

その他の事業

Other programs and events

●SFTギャラリー展示一覧

- ・セツローのものづくり
小野セツロー
平成21(2009)年3月18日(水)～4月20日(月)
- ・トーキョーハンカチライフ
ハンカチデザイン：大塚まこと、高橋信雅、師岡とおる、スティープン・フロイド、ボブファンデーション
ハンカチ制作：H TOKYO
4月22日(水)～6月29日(月)
- ・木勝
木村硝子店
7月1日(水)～8月17日(月)
- ・Q-pot. Sweet Story
ワカマツタダアキ
8月19日(水)～10月19日(月)
- ・大中皿展
坂場圭十、清野学、福田るい、山野邊孝、吉田直嗣
10月21日(水)～12月23日(水)
- ・Babaghuri ババグーリの美しい暮らし
ヨーガン レール
平成22(2010)年1月6日(水)～3月8日(月)
- ・utsuwa heartfull
石田誠、尾形アツシ、小野哲平、巳亦敬一、村田森、矢澤寛彰、横山拓也、吉岡萬理
企画、構成：祥見知生
3月10日(水)～4月19日(月)

●別館1階展示コーナー

昭和3(1928)年建設の旧陸軍兵舎は、「日」の字型の構造を持ち、アールデコ調のデザインを取り入れた外壁など、ビルディング・タイプのモダンな旧陸軍初の鉄筋コンクリート建築であった。国立新美術館建設に伴い、建物は解体・撤去されることとなったが、建築上の歴史的価値に鑑み、その一部が国立新美術館別館として保存されている。

別館1階の展示コーナーでは、兵舎時代の建物の写真や図面、模型、解体前の調査報告書などを公開している。

開室日：毎週木、金曜日
(木、金曜日が祝日または休日にあたる場合、休館日及び年末年始は休室)

開室時間：13時～17時

開室日数：97日

利用者数：1,890人

●ロビーコンサート

- ・天皇陛下御在位20年記念 弦楽四重奏コンサート
日時：11月12日(木)16時～17時
会場：国立新美術館 1階エントランスロビー
出演：日本フィルハーモニー交響楽団
参加者数：347人
- ・クリスマスオペラコンサート
日時：12月18日(金)18時30分～19時30分
会場：国立新美術館 1階エントランスロビー
出演：新国立劇場オペラ研修所研修生
参加者数：318人
- ・アカペラコンサート
日時：1月22日(金)18時30分～19時30分
会場：国立新美術館 1階エントランスロビー
出演：アカペラカルテットXUXU(しゅしゅ)
参加者数：228人

●天皇陛下御在位20年慶祝行事

- 実施日：11月12日(木)
- ・『THE ハプスブルク』展の割引と記念入場券発行
- ・公募展『日展』の無料観覧と記念入場券発行
- ・「天皇陛下御在位20年記念講演会」
主催：社団法人日展、国立新美術館
日時：11月12日(木)13時30分～14時30分
講演：真室佳武(東京都美術館長)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：300人
- ・ロビーコンサート「天皇陛下御在位20年記念 弦楽四重奏コンサート」
日時：11月12日(木)16時～17時
会場：国立新美術館 1階エントランスロビー
出演：日本フィルハーモニー交響楽団
参加者数：347人

●六本木アートナイト2010

主催：東京都、東京文化発信プロジェクト室(財団法人東京都歴史文化財団)、六本木アートナイト実行委員会(国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル(株)、六本木商店街振興組合)

日時：3月27日(土)～28日(日)(コアタイム27日 日没～28日 日の出)

開催場所：国立新美術館、サントリー美術館、森美術館、21_21DESIGN SIGHT、東京ミッドタウン、六本木ヒルズ、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

国立新美術館プログラム：

- 3月27日(土)：
- ・『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』、『ルノワール—伝統と革新』を22時まで開館延長
 - ・『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』無料観覧日の実施
 - ・『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』出品作家・南野馨、O JUNによるアーティスト・トークの実施
 - ・『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』出品作家・南野馨による立体作品《Untitled 0703》の屋外展示
 - ・1階アトリウムでダンサー・康本雅子と音楽家・オオルタイチによるスペシャルパフォーマンスの実施
 - ・3階講堂で「TOKYO ANIMA! —BOOT UP」作品上映会とシンポジウムの実施
- 3月28日(日)：
- ・『アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち』出品作家・南野馨による立体作品《Untitled 0703》の屋外展示
 - ・3階講堂で「TOKYO ANIMA! —BOOT UP」作品上映会の実施
- 参加者数：延べ約700,000人(うち、国立新美術館参加人数：延べ約29,000人)



3月27日 六本木アートナイト2010

9

記録

Records

9-1 入場者数

Number of Visitors

9-2 予算

Revenue and Expenditure

9-3 企業協賛

Corporate Support

9-4 来館者サービス

Visitor Services

9-5 国際交流

International Exchanges

9-6 展覧会出品リスト

List of Works

9-7 名簿

The NACT Council and Staff List

9-1 入場者数 Number of Visitors

国立新美術館展覧会入場者数

年度	企画展			公募展			年間入場者数合計	入場者数累計
	展覧会数	開催日数	入場者数	展覧会数	開催日数	入場者数		
平成18	4	162	498,694	—	—	—	498,694	498,694
平成19	11	423	1,847,413	69	832	1,317,508	3,164,921	3,663,615
平成20	11	432	1,052,472	69	840	1,309,747	2,362,219	6,025,834
平成21	10	453	1,149,767	69	833	1,246,840	2,396,607	8,422,441

※平成18年度は開館(平成19年1月21日)から年度末(3月31日)までの統計である
 ※開催日数には、年度内に開催された全ての展覧会の開催日数合計を記した
 ※公募展の開催日数・入場者数は、当該年度第1会期から第50会期までの展覧会の統計である

9-2 予算 Revenue and Expenditure

収入

事項	金額(単位:千円)
運営交付金	1,419,241
自己収入	542,890
合計	1,962,131

支出

事項	金額(単位:千円)
一般管理費	708,747
展示事業費	743,608
教育普及費(情報・資料事業費等を含む)	500,876
調査研究費	8,900
合計	1,962,131

※人件費は除く

9-3 企業協賛 Corporate Support

企業名	協賛事業
フリッツ・ハンセン	教育普及事業への協賛
東レ株式会社、三井不動産株式会社、住友化学株式会社、鹿島建物総合管理株式会社、三菱電機株式会社	海外に向けて美術情報を発信する活動(JACプロジェクト)への協賛
三菱商事株式会社	託児サービス事業への協賛
新日本石油株式会社	コンサート事業への協賛

9-4 来館者サービス Visitor Services

●付属施設

- ・レストラン: グラッスリー ポール・ボキューズ ミュゼ(3階)
- ・カフェ: サロン・ド・テ ロンド(2階)
 - カフェ コキュー(1階)
 - カフェテリア カレ(地下1階)
- ・ミュージアムショップ: スーベニア フロム トーキョー(SFT)
 - SFTギャラリー(地下1階)

●観覧環境の整備

- ・多目的トイレの設置
- ・車椅子・ベビーカーの貸出
- ・オストメイト(人工肛門・人工膀胱)対応トイレの設置
- ・身体障害者用駐車場の整備
- ・授乳室(地下1階)の整備
- ・補聴器等への磁気誘導無線システムを講堂に設置(専用受信機10台)
- ・点字ブロック、展示表示の整備
- ・館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示
- ・海外6ヶ国語版の利用案内(220×107mm、二つ折)を配布

●託児サービス

育児支援及び来館者サービスの一環として、託児サービスを実施した。

実施日：毎月第2木曜、第3日曜 計24回

使用施設：国立新美術館 研修室

受入人数：149人

●独立行政法人国立美術館キャンパスメンバーズ

会員法人数：59法人(うち国立新美術館利用法人数；53法人)

国立新美術館利用者数：20,316人

●ぐるっとパス

平成21(2009)年4月1日～平成22(2010)年3月31日の期間、東京の美術館・博物館等共通入館券「東京・ミュージアムぐるっとパス2009」に参加した。



託児サービス

9-5 国際交流 International Exchanges

氏名 Name

肩書

国・地域

滞在期間・来館日

来館目的

平成21年度招聘者 Guests April 2009 - March 2010

アナベル・レミ Annabel Rémy

ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門

レジストラール

フランス

6月2日、3日、9日

『ルーヴル美術館展』作品撤収、輸送指導

マリ＝セシル・バルドズ Marie-Cécile Bardez

ルーヴル美術館 美術工芸品部門 資料担当

フランス

6月2日、3日、11日

『ルーヴル美術館展』作品撤収、輸送指導

シャンタル・コラ・ドラヌ Chantal Colas de la Noue

ルーヴル美術館 彫刻部門 資料担当

フランス

6月2日、3日、11日

『ルーヴル美術館展』作品撤収、輸送指導

パスカル・トレス Pascal Torres

ルーヴル美術館 素描・版画部門 主任学芸員

フランス

6月4日、5日

『ルーヴル美術館展』作品撤収、輸送指導

アリーヌ・フランソワ＝コラン Aline François-Colin

ルーヴル美術館 絵画部門 レジストラール室長

フランス

6月4日、5日

『ルーヴル美術館展』作品撤収、輸送指導

ファブリス・ロラン Fabrice Laurent

ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 レジストラール

フランス

6月4日、5日、9日

『ルーヴル美術館展』作品撤収、輸送指導

フィリップ・ティエボー Philippe Thiébaud

オルセー美術館 チーフキュレーター

フランス

6月16日～19日

『ルネ・ラリック』展作品輸送、展示指導

マリア・フェルナンダ・パッソス・レーテ Maria Fernanda Passos Leite

カルースト・グルベンキアン美術館 アシスタント・キュレーター

ポルトガル

6月17日～23日

『ルネ・ラリック』展作品輸送、展示指導

ミゲール・フメガ Miguel Fumega
カルースト・グルベンキアン美術館 展示担当
ポルトガル
6月17日～23日、9月8日～11日
『ルネ・ラリック』展作品輸送、展示指導

ヌーノ・ヴァサロ・エ・シルヴァ Dr. Nuno Vassallo e Silva
カルースト・グルベンキアン美術館 副館長
ポルトガル
9月8日～11日
『ルネ・ラリック』展作品輸送、展示指導

ヘルベルト・ライトシューラー Herbert Reitschuler
ウィーン美術史美術館 クンストカンマー／シャッツカンマー 修復家
オーストリア
9月10日、17日～19日
『THE ハブスブルク』展作品輸送、展示指導

イングリット・ホプフナー Ingrid Hopfner
ウィーン美術史美術館 絵画館 コンサヴァター
オーストリア
9月10日、19日～22日
『THE ハブスブルク』展作品輸送、展示指導

イロナ・バロフ Ilona Balogh
ブダペスト国立西洋美術館 古典絵画館 学芸員
ハンガリー
9月11日、19日～22日
『THE ハブスブルク』展作品輸送、展示指導

エヴァ・ゲッツ Eva Götz
ウィーン美術史美術館 絵画館 コンサヴァター
オーストリア
9月12日、19日～22日、12月15日～17日
『THE ハブスブルク』展作品輸送、展示・撤去指導

パウルス・ライナー Paulus Rainer
ウィーン美術史美術館 クンストカンマー／シャッツカンマー 学芸員
オーストリア
9月17日～19日、12月16日、17日
『THE ハブスブルク』展展示・撤去指導

セバスティアン・ハッケンシュミット Sebastian Hackenschmidt
オーストリア工芸美術館 家具・木工担当 学芸員
オーストリア
9月18日、20日
『THE ハブスブルク』展展示指導

クリスタ・アンガーマン Christa Angermann
ウィーン美術史美術館 宮廷武具コレクション コンサヴァター
オーストリア
9月18日、19日
『THE ハブスブルク』展展示指導

サビーネ・ハーグ Sabine Haag
ウィーン美術史美術館 総館長
オーストリア
9月24日
『THE ハブスブルク』展開会式出席

ヴィルフリート・サイベル Wilfried Seipel
ウィーン美術史美術館 前総館長
オーストリア
9月24日
『THE ハブスブルク』展開会式出席

バーン・ラスロー Báán László
ブダペスト国立西洋美術館 総館長
ハンガリー
9月24日
『THE ハブスブルク』展開会式出席

カール・シュッツ Kark Shütz
ウィーン美術史美術館絵画館 館長
オーストリア
9月24日、26日
『THE ハブスブルク』展開会式出席、講演

エリーザベト・ヴォルフイク Elisabeth Wolfik
ウィーン美術史美術館 絵画館 レジストラール
オーストリア
12月15日、16日
『THE ハブスブルク』展撤去指導

ファーイ・アンドラース Fáy András
ブダペスト国立西洋美術館 修復家
ハンガリー
12月15日、16日
『THE ハブスブルク』展撤去指導

カティア・シュミッツ＝フォン・レーデブル Katja Schmitz-von Ledebur
ウィーン美術史美術館 クンストカンマー／シャッツカンマー 学芸員
オーストリア
12月16日、17日
『THE ハブスブルク』展撤去指導

マティアス・ファッフェンビヒラー Matthias Pfaffenbichler
ウィーン美術史美術館 宮廷武具コレクション 学芸員
オーストリア
12月17日
『THE ハブスブルク』展撤去指導、作品輸送

レイチェル・デンジンダ Rachel Danzing
ブルックリン美術館 アソシエート・コンサヴァター
アメリカ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ジャッキー・エルガー Jacki Elgar
ボストン美術館 国際事業企画アジア部 部長
アメリカ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ジーン・ウッドワード Jean Woodward
ボストン美術館 コンサヴァター
アメリカ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

キャスリーン・モリス Kathleen Morris
クラーク美術館 コレクション・展覧会部門ディレクター
アメリカ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ブルーノ・モンタマ Bruno Montamat
オルセー美術館 コンサヴァター
フランス
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ジル・シャザル Gilles Chazal
プティ・パレ美術館 ディレクター
フランス
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ジョアナ・ケント Joanna Kent
ロンドン・ナショナル・ギャラリー チーフ・レジストラ
イギリス
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

アレクサンドラ・ガースティン Alexandra Gerstein
コートールド美術館 彫刻・装飾美術 キュレーター
イギリス
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

エイミー・ジョンストン Amy Johnston
ワシントン・ナショナル・ギャラリー アソシエイト・キュレーター
アメリカ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

スーザン・フランク Susan Frank
フィリップス・コレクション キュレーター
アメリカ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ジュディス・デュレル Judith Durrer
バーゼル美術館 キュレーター
スイス
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

カムラ・ゾッグ Kamla Zogg
ラングマット美術館 アシスタント・ディレクター
ドイツ
1月12日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

エリカ・モリス Erika Morris
シカゴ美術館 貸出・展覧会担当アシスタント・レジストラ
アメリカ
1月13日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

スーザン・バーグ Susan Bergh
クリーブランド美術館 アソシエイト・キュレーター(古代アメリカ美術)
アメリカ
1月13日～16日
『ルノワール』展作品輸送、展示指導

ヨルマ・サーリッコ Jorma Saarikko
作家アシスタント(アーノウト・ミック)
フィンランド
2月25日～28日、3月1日、2日
『アーティスト・ファイル2010』展展示指導、講演

アーノウト・ミック Aernout MIK
現代美術家
オランダ
2月27日、28日、3月1日、2日、5日
『アーティスト・ファイル2010』展展示指導、講演

平成21年度来館者 Visitors April 2009 - March 2010

アレクセイス・ナウモフス Aleksejs Naumovs
ラトビア藝術大学 学長
ラトビア
4月11日
林田館長表敬訪問、視察

ベ・スンフン Bae Soonhoon
韓国国立現代美術館 館長
韓国
4月20日
林田館長表敬訪問、視察

ジョー・アール Joe Earle
ジャパン・ソサエティー・ギャラリー・ディレクター
アメリカ
6月10日
林田館長表敬訪問、視察

吉村玲子 YOSHIMURA Reiko
フリーア美術館/アーサー・M. サックラー美術館 図書館長
アメリカ
6月11日
JACプロジェクトに関する意見交換

エリザベス・エステヴェ=コル Elizabeth Esteve-Coll
セインズベリー日本藝術研究所 理事
イギリス
7月2日
林田館長表敬訪問、視察

クリス・フォイ Chris Foy
セインズベリー日本藝術研究所 理事
イギリス
7月2日
林田館長表敬訪問、視察

ニコル・クーリッジ・ルマニエール Nicole Coolidge Rousmaniere
セインズベリー日本藝術研究所 所長
イギリス
7月2日
林田館長表敬訪問、視察

サイモン・ケイナー Simon Kaner
セインズベリー日本藝術研究所 副所長
イギリス
7月2日
林田館長表敬訪問、視察

平野明 HIRANO Akira
リサ・セインズベリー図書館 司書
イギリス
7月2日
林田館長表敬訪問

ヴィクトール・J.E.モッサウルト Victor J.E. Moussault
マウリッツハウス美術館 副館長
オランダ
7月8日
林田館長表敬訪問、視察

ミシェル・ドラゲ Michel Draguet
ベルギー王立美術館 館長
ベルギー
9月10日
林田館長表敬訪問、視察

マリオ・レスカ Mario Resca
イタリア文化財文化活動省文化財振興部 部長
イタリア
9月18日
林田館長表敬訪問、視察

ステファノ・デ・カーロ Stefano De Caro
イタリア文化財文化活動省 古代部長
イタリア
9月18日
林田館長表敬訪問、視察

パトリツィオ・フォンデ Patrizio Fonde
イタリア文化財文化活動省 外交顧問
イタリア
9月18日
林田館長表敬訪問、視察

ハインツ・フィッシャー Heinz Fischer
大統領
オーストリア
10月1日
『THE ハブスブルク』展鑑賞

マルギット・フィッシャー Margit Fischer
大統領夫人
オーストリア
10月1日
『THE ハブスブルク』展鑑賞

クラウディア・シュミート Claudia Schmied
教育芸術文化大臣
オーストリア
10月1日
『THE ハブスブルク』展鑑賞

マイテ・ゴンザレス・ウリアルテ Maite González Uriarte
グッゲンハイム・ビルバオ美術館 個人メンバー副会長
スペイン
10月9日
『光』展鑑賞、視察

ロナルド・ハンス・アントン・プラステルク Ronald Hans Anton
Plasterk
教育・文化・科学大臣
オランダ
10月27日
『THE ハブスブルク』展鑑賞

ユウ・ジンファン Yoo Jinhwan
テコンド振興財団 事務総長
韓国
10月28日
『THE ハブスブルク』展鑑賞、視察

頼瑛瑛 Lai Ying-Ying
国立台湾芸術大学 芸術と文化政策管理大学院 教授
台湾
11月2日
視察

フェルナンド・ゴメス・リエスコ Fernando Gomez Riwsco
スペイン文化省 文化協力副部長
スペイン
12月9日
『THE ハブスブルク』展鑑賞、視察

全寶三 Jeon Bo-sam
韓国博物館協会 会長
韓国
12月10日
『THE ハブスブルク』展鑑賞、視察

アリッサンドラ・カミンズ Alissandra Cummins
ICOM会長
バルバドス
12月11日
『THE ハブスブルク』展鑑賞、視察

ガストン・ダン Gaston Dann
ヴィンゲン・シュール・モデール ラリック美術館 館長
フランス
1月14日
林田館長表敬訪問、視察

ジョバンニ・F. アコルラ Giovanni F. Accolla
外務省文化政策大臣補佐官
イタリア
1月14日
『DOMANI・明日展2009』鑑賞

インツ・ダールデリス Ints Dálderis
文化大臣
ラトビア
1月31日
『ルノワール』展鑑賞、視察

クラドック・モートン Craddock Morton
オーストラリア国立博物館 館長
オーストラリア
2月23日
林田館長表敬訪問

他 多数

平成21年度海外出張 Overseas Visits April 2009 - March 2010

氏名：林田英樹(館長)、菅原章(庶務課係長)

国・地域：韓国

滞在期間：10月20日～22日

目的：第4回アジア美術館長会議出席のため

※研究員の海外出張については、「7 調査・研究」に掲載した

9-6 展覧会出品リスト List of Works

ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち 出品リスト

第1章 誕生と幼い日々	17 フランス、アヴォン派(フォンテーヌブローの工房) 《乳母の小像》 17世紀第1四半期 粘土、鉛釉	33 《生徒のノート(書字板)》 5-6世紀 木
1 《二人の子どもを抱く女性の小像》 中王国時代、前2033-前1710年頃 テラコッタ、紐	20 ヤン・ファン・ハンスベルヘン 《授乳する女性》 1675年 油彩、板	34 《尖筆》 ローマ帝政期 骨あるいは象牙
2 《子どもを抱く女性の小像》 中王国時代、前2033-前1710年頃 テラコッタ、白色の化粧土	21 ジャン＝オノレ・フラゴナール 《子どもを抱く若い女性》 油彩、カンヴァス	35 《書字板を持つ少女》 ヘレニズム時代、前3世紀 粘土、足に赤、トゥニカにピンク、マントに黄色の彩色跡
3 《女性をかたどった小瓶》 新王国時代、第18王朝前半、前1500-前1450年頃 テラコッタ、化粧土、彩色	22 ミシェル＝フランソワ・ダンドレ＝バルドン 《誕生》 1743年頃 油彩、カンヴァス	36 《子どもたちに囲まれた家庭教師の小像》 ヘレニズム時代、前2世紀 粘土、台座と子どもの衣に赤の彩色跡
4 《寝台に横たわる女性の小像》 新王国時代、前1550-前1186年頃 石灰岩	23 フランソワ＝アントワーヌ・ジェラルドに帰属 《墓碑を背に座る母親と三人の子》 1800年頃 墓碑のためのエスキス；テラコッタ	37 《多火口ランプ》 ヘレニズム時代、もしくはローマ帝政期、前1-後1世紀 粘土
5 《授乳する女性と召使いを表したオストラコン》 新王国時代、第19-20王朝、前1292-前1077年頃 石灰岩、赤色顔料による線描、彩色	24 アントワーヌ・デブッフ 《若い母と二人の子ども》 1835年 ブロンズ	38 アドリアーン・ファン・オスターデ 《学校の先生》 1662年 油彩、板
6 《授乳する女性を表したオストラコン》 新王国時代、第19-20王朝、前1292-前1077年頃 石灰岩、彩色	第2章 子どもの日常生活	39 ゴブラン製作所、ミシェル＝アンリ・コゼットの工房 原画：フランソワ＝ユベール・ドルエ 《若い生徒》 1764年 タピスリー、豎機
7 《角形の容器(哺乳瓶?)》 新王国時代、第18王朝前半、前1500-前1450年頃 動物の角、木	25 旗手ジェフウティの供養碑 新王国時代、第18王朝中期、前15-前14世紀 石灰岩、彩色、浅浮彫りの装飾、ヒエログリフの陰刻	40 ゴブラン製作所、ミシェル＝アンリ・コゼットの工房 原画：フランソワ＝ユベール・ドルエ 《猫と遊ぶ若い娘》 1764年 タピスリー、豎機
8 《子どもを抱くベス神をかたどった標章》 第3中間期、第22-23王朝、前945-前715年頃 ファイアンス	26 《子どものトゥニカ》 5世紀 亜麻布、羊毛	41 シカルディ、本名ルイ＝マリー・シカル 《二人の若い娘を表したボンボン入れ》 1789-1792年 鼈甲、金、クリスタルガラスをかぶせたミニアチュール
9 《妊婦の小像》 ヘレニズム時代、前3世紀第1四半期 粘土、白の下地、肌にピンク色の彩色跡	27 《靴》 3世紀後半-4世紀 皮	42 《豚のつた子どもの形をした鈴》 ヘレニズム時代、前1世紀後半 粘土、木蔦の葉に赤、豚にピンクの彩色跡
10 《胸をおさえる女性を表した小さな陶板》 ササン朝ペルシャ(226-651年) テラコッタ、施釉	28 《靴》 3世紀後半-4世紀 皮、金箔	43 《ゲーム盤》 新王国時代、第19王朝、前1295-前1186年頃 石灰岩
11 《子どもを抱く女性の小像》 前5世紀後半 石灰岩	29 《おくるみの中の赤ん坊》 前3-前1世紀 粘土	44 《ゲームの駒》 新王国時代、第19王朝、前1295-前1186年頃 ファイアンス
12 《授乳する女性の小像》 ヘレニズム時代、前1世紀 粘土	30 《書字板》 第3中間期、前1069-前656年頃(第22王朝以降) 木、インクによる書付	45 《ゲームの駒》 新王国時代、第19王朝、前1295-前1186年頃 石灰岩
13 《揺りかごの中の赤ん坊をかたどった鈴》 ヘレニズム時代、前3-前2世紀 粘土、赤ん坊の肌に赤い着色の跡	31 《息子を教育しよう》 前2世紀半ば パピルス、黒インク	46 《ゲームの駒》 新王国時代、第19王朝、前1295-前1186年頃 石灰岩
14 《裸体少年立像》 ヘレニズム時代、もしくはローマ時代 木(セイヨウボダイジュ)	32 《粘土板》 前3千年紀末 粘土	
16 アンニーバレ・カラッチ 《赤ん坊の顔》 サンギーヌ；画帳の一葉に全体を貼付け、紫色の枠で縁取り		

[凡例]
作品番号
作者名
作品名
制作地
制作年
材質・素材

47 《ゲームの駒》 新王国時代、第19王朝、前1295-前1186年頃 石灰岩	65 16世紀エミリアの画家：パルミジャーノ、本名フランチェスコ・マツツォーラ 周辺の画家 《二人の子ども》 ペン、褐色インク、青色の紙；18世紀の滑らかな台紙に全体を貼付け、貼付けの際に裂け目と欠落部の補修	79 《少年のミイラマスク》 3世紀 漆喰、彩色	96 ルイ・ル・ナン、もしくはアントワヌ・ル・ナン 《幸福な家族(旧名称：洗礼からの帰宅)》 1642年 油彩、カンヴァス
48 《さいころ》 新王国時代、第19王朝、前1295-前1186年頃 木	66 ジャン・シメオン・シャルダン 《食前の祈り》 1740年頃 油彩、カンヴァス	80 《子どもの石棺の断片》 ローマ帝政期、230年頃 大理石	98 フェルディナント・ボル 《山羊の引く車に乗る貴族(トリップ家?)の子どもたち》 1654年 油彩、カンヴァス
49 《台車にのったハリネズミ》 中期エラム時代、前12世紀 石灰岩、瀝青	67 アンドレ＝フランソワ・ヴィエイヤール(父) ヴァンセンヌ王立磁器製作所 《「エペール」の朝食セット》 1753-1754年 軟磁器	81 《墓碑彫刻：おくるみの中の赤ん坊》 フランス 16世紀第4四半期 浅浮彫り、大理石	99 《古代風の子ども》 フランス 19世紀 大理石
50 《台車にのったライオン》 中期エラム時代、前12世紀 石灰岩、瀝青	68 マチュー・コワニー3世 《封蝋入れ》 1760-1761年 金、エマイユ	82 ジャン＝バティスト・ドフェルネ 《悲しみにくれる精霊》 高浮彫り、大理石	100 シャルル・ル・ブラン 《銀行家ジャーバックの子ども肖像》 黒チョーク、サンギーヌ、パステルのハイライト、灰褐色の紙
51 《猪形のがらがら》 前2千年紀 テラコッタ	69 ジェルマン・シャイエ 《封蝋入れ》 1761-1762年 金、エマイユ	83 ジャン＝バティスト・ルイ・ロマン 《無垢》 大理石	101 フランスの画家 《息子の髪を整える母》 1770年頃 エマイユ；鍍金された枠に嵌め込み
52 《猪形のがらがら》 前2千年紀 テラコッタ	70 原画：ジャン＝バティスト・グルーズ 《嗅ぎ煙草入れ》 1768-1769年 金、エマイユ、グワッシュによるミニアチュール、クリスタルガラス	84 ジャン＝フレデリック・シャル 《生のはかなさへの思い》 1806年頃 油彩、カンヴァス	102 ジャン＝バティスト・ヴァン・ロー 《家族の肖像》 1740年 油彩、カンヴァス
53 《騎手のおもちゃ》 ローマ時代、もしくはビザンティン時代、4-6世紀 タマリスク材、彫刻細工、彩色	71 ジャン＝バティスト・グルーズ 《少女と犬》 ペン、灰色のインク、灰色の淡彩；18世紀の台紙に全体を貼付け	85 フルリー＝フランソワ・リシャール 《小さな赤頭巾》 油彩、カンヴァス	103 ジャック・フランソワ・サリ 《髪を編んだ少女の胸像》 胸像：テラコッタ；台座：テラコッタ
54 《人形》 ローマ時代、もしくはビザンティン時代、4-6世紀 タマリスク材、彫刻細工	72 ジャン＝バティスト・グルーズ 《少女と犬》 ペン、灰色のインク、灰色の淡彩；18世紀の台紙に全体を貼付け	86 《夫婦と子どもの像》 古王国時代、第4王朝、前2620-前2500年頃 石灰岩、彩色跡	104 ジャン＝バティスト・ルモワヌ2世 《フィッシュで髪を結んだ少女の胸像》 胸像：石膏；台座：木
55 《関節が動く人形》 ヘレニズム時代、前3世紀第4四半期 粘土	73 ニコラ＝ベルナルド・レビシエ 《サヴォワの少年》 黒チョーク、サンギーヌ、白チョーク、ページュ色の紙	87 《ネブセニイと妻バケトと息子アメンヘテプの立像》 新王国時代、第18王朝中期、前15-前14世紀 石灰岩、彩色	105 ヨハン・ゾファニー 《ランダル・パロウス師と息子のエリス》 1769年 油彩、カンヴァス
56 《人形》 ローマ時代、もしくはビザンティン時代、4-6世紀 レモン材、彫刻細工	74 ヘンリー・ピアース・ボーン 《風景の中の少年の肖像》 1832年 エマイユ、鍍金された枠	88 《女性と小さな娘》 ヘレニズム時代、前1世紀後半 粘土	106 フランソワ＝ユベール・ドルエ 《三角帽をかぶった子ども》 油彩、紙、楕円形のカンヴァスで裏打ち
57 《関節が動く人形》 ヘレニズム時代、前1世紀 テラコッタ	75 ヘンリー・ボーン 原画：トマス・ゲインズバラ 《子犬を抱く農民の少女》 1814年 エマイユ、鍍金された枠	89 《少年の肖像》 2世紀末-3世紀初め イチジクの木、顔料を蜜蝋に混ぜて彩色	107 ジャン・コトー 《3歳のラ・ギシュ侯爵》 エマイユ；ブリリアント・カットの石で飾られた銀製の枠
58 《犬と遊ぶ子ども》 ヘレニズム時代、前1世紀第4四半期 粘土	76 《少女のミイラと棺》 新王国、ラメセス朝時代、おそらく第19王朝、前1295-前1186年頃 木、多彩色	90 《少女》 フランス 16世紀第3四半期 多色テラコッタ	108 ジャン＝ルイ・クアノン 《アレクサンドリーヌ＝エミリー・ブロンニヤールの胸像》 胸像：テラコッタ；台座：大理石
60 フランス、アヴォン派(フォンテーヌブローの工房) 《犬を連れた子ども》 17世紀第1四半期 粘土、鉛釉	77 《座る裸の子ども》 セレウコス朝シリア、前3世紀 アラバスター、テラコッタ、瀝青	91 オッタヴィオ・レオーニ 《少年の横顔》 サンギーヌ、白チョーク、青色の紙；18世紀の台紙に全体を貼付け	109 ジャック・トゥロン 《メグレ・ド・セリリー一家》 ミニアチュール、エマイユ；金彩の木製の額縁
62 アドリアン・ファン・オスターデ 《豚の解体》 黒チョーク、ペン、褐色インク、褐色と灰色の淡彩	78 《少女の肖像》 3世紀末 亜麻布、蠟画法、テンペラ、金色を施した漆喰	92 ペーテル・パウエル・ルーベンス 《母と二人の子どもと召使い》 1630年頃 中央の紙にサンギーヌ、拡張部分にサンギーヌとグワッシュのハイライト	110 ジャン＝アントワヌ・ウードン 《アンヌ＝アンジュ・ウードンの胸像》 胸像：石膏；台座：石膏
64 カレル・デュジャルダン 《雌山羊の乳を搾る子ども》 ペン、黒インク、灰色の淡彩、白グワッシュのハイライト	79 《少女の肖像》 3世紀末 亜麻布、蠟画法、テンペラ、金色を施した漆喰	93 ジャン＝バティスト・ルイ・ロマン 《無垢》 大理石	111 ジョシュア・レノルズ 《マスター・ヘア》 1788年 油彩、カンヴァス

112 ニコラ＝ベルナルド・レピシエ 《マルク＝エティエンヌ・カトルメールと家族の肖像》 1780年 油彩、カンヴァス	124c 《カエムワセト王子の三体のシャブティ小像》 新王国時代、第19王朝、ラメセス2世の治世、前1279-前1213年頃 蛇紋岩	137 ビエール・ポール・ブリュードン 《ローマ王》 1811年 黒鉛筆、擦筆、白チョーク、褪せた青色の紙	156 《ハルボクラテス神小像》 ローマ時代、2-3世紀 テラコッタ、型取り
113 フェルディナン・ド・メス 《若い女性と子どもを表したボンボン入れ》 1785-1790年 金、クリスタルガラスをかぶせた象牙地のミニアチュール	125 《脇柱》 新王国時代、第19王朝、ラメセス2世の治世、前1279-前1213年頃 浅浮彫り、石灰岩、彩色	138 セーヴル製作所 《ローマ王のカップ》 1811年 硬磁器	157 ぶらんこの画家に帰属 黒像式アンフォラ《ぶらんこにのった女》 アルカイック時代、前520年頃 粘土
114 《若い女性と子猫を抱く少年》 イギリス 1800年頃 油彩、カンヴァス	126 フランス、アヴォン派(フォンテーヌブローの工房) 《アンリ4世と家族を表した皿》 17世紀第1四半期(1602年以降) 粘土質の土、鉛釉	139 フェデリーコ・ツッカロ 《画家の三人の娘たち》 黒チョーク、サンギース	158 《アンテステリア祭のオィノコエ》 クラシック時代、前4世紀 粘土
116 ルイ＝レオポルド・ボワイエ 《幼いペルト・ジュリエット・デュボワ》 油彩、カンヴァス	127 フランス、アヴォン派(フォンテーヌブローの工房) 《馬に乗る幼いルイ13世》 17世紀第1四半期(1609年以降) 粘土質の土、鉛釉、皮	140 フェデリーコ・パロッチ 《二人の子どもの頭部の習作》 鉛筆、パステル、青色の紙；18世紀の王室コレクションの台紙に貼付け	159 《アンテステリア祭のオィノコエ》 クラシック時代、前420年頃 粘土
117 ジャンヌ＝フィリベルト・ルドゥー 《少年の肖像》 油彩、カンヴァス	128 クロード・フレミー 《幼いルイ13世》 1611年 メダル、鑄造、錫、古色をつけたブロンズ	142 シモン・ヴーエ 《少女の肖像》 黒チョーク、白チョーク、ページュ色の紙；18世紀の台紙に全体を貼付け	160 《アンテステリア祭のオィノコエ》 クラシック時代、前420-前410年頃 粘土
118 サラ・エセックス伯爵夫人 《サー・ケネルム・ディグビーと家族》 エマイユ	129 18世紀イギリスの画家 原画：アンソニー・ヴァン・ダイク 《チャールズ1世の娘たち、王女エリザベスと王女アン》 エマイユ	143 ペーテル・パウル・ルーベンス 《少女の顔》 ペン、褐色インク、黒チョーク、サンギース、白チョーク、色チョーク	161 《裸で座る少女》 ローマ帝政期 大理石
119 サロモン・ギヨーム・クニス 《マリー・アンヌ・エリザ・ボナバルトと娘ナボレオーヌ・エリザの肖像》 エマイユ、金とオニキスと青エナメルでできた箱	130 ル・ヴュー、本名ジャン・プティ 《ルイ14世の弟、オルレアン公フィリップの肖像》 エマイユ；エマイユ製の花飾りの枠、モデルの名前(Philip Duke of Orleans)入りの巻物	148 ジャン＝バティスト・グルーズ 《立っている子ども》 サンギース、転写；透かし模様(部分)	162 《シレノスと幼児のディオニュソス》 ヘレニズム時代、前2世紀第4四半期 粘土
120 クロード＝マリー・デュビュフ 《1820年のデュビュフ家の肖像》 油彩、カンヴァス	131 ジャン・ヴァラン 《アンヌ・ドートリッシュと幼いルイ14世(表面)》 1645年(?) メダル、鑄造、ブロンズ、鍍金	4章 第5章 古代の宗教と神話のなかの子ども	163 黒像式アンフォラ《アテナの誕生》 アルカイック時代、前560-前550年頃 粘土
121a ビエール＝ジャン・ダヴィッド・ダンジェ 《ジャンヌ＝エレヌ・ダヴィッド・ダンジェ》 メダル、ブロンズ	132 17世紀フランスの画家 《幼いルイ14世の肖像》 エマイユ；鍍金された枠	149 《座る子ども》 セレウコス朝シリア、前3世紀 テラコッタ	164 《ヘラクレスとして表された裸体少年立像》 ローマ帝政期 大理石
121b ビエール＝ジャン・ダヴィッド・ダンジェ 《ロベール・ダヴィッド・ダンジェ》 メダル、ブロンズ	133 ディエゴ・ベラスケスと工房 《フランス王妃マリー＝テレーズの幼き日の肖像》 1652-1654年 油彩、カンヴァス	150 《神の家族(鑄型)》 前2千年紀 凍石	165 壺の装飾小像《眠るエロス》 ヘレニズム時代、前2世紀前半 テラコッタ
121c ビエール＝ジャン・ダヴィッド・ダンジェ 《テレーズ・オリヴィエ》 メダル、ブロンズ	134 アントワーヌ・コズヴ 《9歳のルイ15世の胸像》 テラコッタ	151 《ケレトの供養碑》 新王国時代、第18王朝中期、前15-前14世紀 浅浮彫りの装飾、陰刻によるヒエログリフ、石灰岩に彩色	166 ベルリンの画家に帰属 赤像式スタムノス《蛇を絞め殺す幼児ヘラクレス》 前480-前470年頃 粘土
122 カミユー・コロ 《幼いモーリス・ロベール》 1857年4月12日 油彩、カンヴァス	135 シャルル・ボワ 《チャールズ・エドワード・スチュアートの肖像(?)》 エマイユ；鍍金された枠	152 《マアト女神の奉納の場面を表したステラ》 プトレマイオス朝、もしくはローマ時代、前30-後395年 浅浮彫り、玄武岩	167 《子どものサテュロス》 ローマ帝政期、2世紀前半 大理石
123 《少年の姿のラメセス2世を表したステラ》 新王国時代、第19王朝、ラメセス2世の治世、前1279-前1213年頃 石灰岩	136 ヴィクトワール・ジャコト 《ルイ・ド・フランス(ルイ17世)の肖像》 磁器に絵付け；彫金細工が施された枠に嵌め込み	153 《幼いホルス神に授乳するイシス女神》 末期王朝時代、第30王朝以前、前722-前380年頃 ブロンズ、女神の眼に金の鍍金	168a 《プラスキの食卓飾り(部分)：眠るキュービッドの小像》 2世紀(?) 白大理石
124a 《カエムワセト王子の三体のシャブティ小像》 新王国時代、第19王朝、ラメセス2世の治世、前1279-前1213年頃 ファイアンス	137 シャルル・ボワ 《チャールズ・エドワード・スチュアートの肖像(?)》 エマイユ；鍍金された枠	154 《子どもの太陽神の小像》 前1千年紀 銅製の金属、部分的に鍍金(眼の角膜、髪房には部分的に金粉)	168b ルイジ・ヴァラディエール 《プラスキの食卓飾り(部分)：台座》 1783年 白大理石、ブロンズ、鍍金
124b 《カエムワセト王子の三体のシャブティ小像》 新王国時代、第19王朝、ラメセス2世の治世、前1279-前1213年頃 グレーワッケ(硬砂岩)	138 ヴィクトワール・ジャコト 《ルイ・ド・フランス(ルイ17世)の肖像》 磁器に絵付け；彫金細工が施された枠に嵌め込み	155 《ハルボクラテス神座像》 末期王朝時代、前664-前332年頃 珪岩	169 《樽の上に座る子ども》 北イタリア 16世紀初頭 ブロンズ、鑄造、明るい古色；孔の穿たれたメダル

170 《ヘラの遣わした蛇を絞め殺す幼児ヘラクレス》 ヴェネツィア 16世紀末 ブロンズ、褐色の古色	184 カステル・ドゥランテの画家に帰属 《聖母子と洗礼者聖ヨハネの皿》 1525年頃 陶器	202 パオロ・ファリナーティ 《ブットーのフリーズ》 1590-1595年頃(?) ペン、褐色インク、褐色の淡彩、白グワッシュのハイライト、青色の紙	220 フランソワ・ブーシェ 《アモールの標的》 1758年 油彩、カンヴァス
171 フランドルの工房 原画：フランチェスコ・アルバーニ 《ヴィーナスの武器を作るアモールたち》 18世紀 タビスリー	185 アンドレア・デッラ・ロピアの工房 《幼子イエスを礼拝する聖母》 施釉テラコッタ	204 アゴスティノ・チャンベッリ 《棕櫚を持った二人のブットーの壁画装飾図案》 ペン、褐色インク、黒チョークの線描	221 ジャン＝バティスト＝マリー・ピエール 《忠誠の勝利》 1758年 油彩、カンヴァス
173 ジャン＝ジョゼフ・フク 《肩に幼児サテュロスをのせるパッコス の巫女》 大理石	186 《平和の接吻：聖母子と洗礼者聖ヨハネ》 ヴェネツィア 1607年 ブロンズ、鍍金	206 デュシヨワゼル 《アモール》 1868年頃 石膏	
174 ドニ・フォワヤティエ 《アモール》 ペントリコン大理石	187 リジエ・リシエ 《幼子イエス》 石灰岩	208 ピエトロ・テスタ 《空を飛ぶ天使の習作》 黒チョーク、ペン、褐色インク；マリエットによる粹飾り	
第6章 キリスト教美術のなかの子ども	188 《幼子イエスに授乳する聖母》 ル・マン 17世紀初頭 白色テラコッタ	209 ピエトロ・テスタ 《ブットーの習作》 ペン、褐色インク；マリエットによる粹飾り	
175 《二連板の左片：受胎告知、聖母のエリサベツ訪問、東方三博士の礼拝》 パリ(?) 1290-1310年頃 象牙、多色彩色跡	189 フェルディナント・ボル 《授乳する女性》 1640年頃 サンギーヌ、ペン、褐色インク、褐色の淡彩、白グワッシュ	210 アントワーヌ・コワベル 《サトゥルヌスの表徴物を持つアモール》 サンギーヌ、黒チョーク、白チョーク、黒チョークで方眼線が引かれた青色の紙；コワベル・コレクションの台紙に全体を貼付け	
176 《二連板の左片：聖誕》 パリ 14世紀第2四半期 象牙	190 ジャック・サラザン 《聖母子》 浅浮彫り、大理石	211 アントワーヌ・コワベル 《空を飛ぶ二人のブットー》 サンギーヌ、黒チョーク、白チョーク、黒チョークで方眼線が引かれた青色の紙；コワベル・コレクションの台紙に全体を貼付け	
177 《聖母子の小像》 パリ 1320-1340年頃 象牙、19世紀以降の多色彩色	191 ゴブラン製作所、ジャン・ジャンスの工房 原寸大下絵：アントワーヌ・バイエ 原画：ニコラ・ブッサン 《河から救われるモーセ》 1685-1689年頃 タビスリー、髹機	212 《エロスの格闘ごっこ》 ローマ帝政期、1世紀(?) 粘土	
178 《二連板の左片：栄光の聖母》 イギリス、もしくはフランス 1350-1370年頃 象牙	192 《慈愛》 パリ 16世紀後半 高浮彫り、アラバスター	213 《葡萄を収穫するアモールのタビスリー》 4-5世紀 羊毛、麻	
179 《聖母子像》 ブルゴーニュ地方 15世紀中期 石灰岩、多色彩色跡	193 フランソワ・ブーシェ 《幼子イエスを抱えて座る聖母》 サンギーヌ；画帳の一葉に全体を貼付け	215 ジェラルド・ヴァン・オブスタル 《子どもを投げ飛ばすアモールと幼女にキスするアモール》 浅浮彫り、大理石	
180 ミノ・ダ・フィエーゾレ、本名ミノ・ディ・ジョヴァンニ 《幼い洗礼者聖ヨハネの胸像》 大理石	第7章 空想の子ども	216 ジェラルド・ヴァン・オブスタル 《仰向けになったアモールから弓を奪う二人の子ども》 浅浮彫り、大理石	
181 《幼い洗礼者聖ヨハネ》 フィレンツェ 18世紀 多色漆喰	194 アンニーバレ・カラッチ 《二人の幼いサテュロス》 ペン、灰色のインク、灰色の淡彩；修復以前は画帳の一葉に全体を貼付け、紫色の粹を付加；現在は画帳から切り離し、保存用の台紙にて保存	217 ジェラルド・ヴァン・オブスタル 《棕櫚を持つ子どもと弓を持つアモールに囲まれた山羊》 浅浮彫り、大理石	
182 《東方三博士の礼拝》 フランドル 16世紀半ば 羊毛、絹、金糸	195 ゲルチーノ、本名ジョヴァンニ・バルビエリ 《両手を挙げた子どもの習作》 ペン、褐色インク、褐色の淡彩；マリエット・コレクションの台紙に全体を貼付け	218 ペーテル・パウル・ルーベンス 《レベックを弾く小天使》 サンギーヌ、紅色の淡彩	
183 ティツィアーノ・ヴェチェッリオ 《聖母子と聖ステパノ、聖ヒエロニムス、聖マウリティウス》 1517年頃 油彩、カンヴァス	197 17世紀末のローマの画家 《座っているブットー》 黒チョーク、アトリエの染み；透かし模様；円の中に百合の花	219 ニコラ・ブッサン 《アモールたちの合奏》 1626-1627年頃 油彩、カンヴァス	
	200 北イタリアの画家 《子どもの音楽家のフリーズ》 ペン、褐色インク		

野村仁
変化する相一時・場・身体
出品リスト

1 2A1-7 Tardiology : 東京 2009 段ボール 715×306×205cm	12 5A7 'moon' score : 宇宙は収縮に転ずるか? 1979 写真 20点組 27.4×570cm(各25×27cm) 国立国際美術館	23 5A8-2 'moon' score Jan. 1, 1977 1981(1977.1.1) 写真 81×100cm 東京国立近代美術館
2 2A4-2 Tardiology 1969/2009 写真 8点組 120×80cm(4点)、80×120cm(4点)	13 5A15 'moon' score : 宇宙はきのこのように発生したか 1980-1984 写真 67点組 153×825cm(各25×27cm) 国立国際美術館	24 5A9-2 'moon' score Jan. 12, 1978 1981(1978.1.12) 写真 81×100cm 東京国立近代美術館
3 2C1-1 道路上の日時 1970(1970.2.22) 写真 34点組 各94×97cm 東京国立近代美術館	14 5A16 'moon' score : 真空からの発生 1980-1984 写真 61点組 133×740cm(各25×27cm) 国立国際美術館	25 5A10-2 'moon' score Jan. 1, 1979 1981(1979.1.1) 写真 81×100cm 東京国立近代美術館
4 2G5 時間の矢 : 酸素 -183度 1993 液体酸素 魔法瓶 6本 各50×φ21cm	15 7A1 宇宙はきのこのように発生したか 1987 ガラス 26×22×22cm 豊田市美術館	26 5A11-2 'moon' score Jan. 1, 1980 1980(1980.1.1) 写真 81×100cm 東京国立近代美術館
5 2B2 Dryice : 1969 1969(1969.11.2) 写真 10点組 114×83cm(5点)、114×900cm(3点) 114×134cm、114×138cm 高松市美術館	16 7A2 宇宙は収縮に転ずるか? 1989 ガラス、大理石 38×23.5×28.5cm 豊田市美術館	27 5A29 'moon' score : ISS Astronaut 2008-2009 写真 10点組 各34×44cm
6 2D1 Iodine 1970(1970.3.29) 写真 12点組 各70×86cm 姫路市立美術館	17 7F1 宇宙振動 2006 大理石 55×43×43cm	28 6G3 北緯35度の太陽 1982-1987 写真、プラスチック 125×320×60cm 京都市美術館
7 8B1 酸素 : 35億年の営み 1992 写真 4点組 各53×75cm	18 5D5 'moon' score 1989 CD h v 010 55分17秒 国立国際美術館	29 6J1 午前のアナレンマ '90 1990 写真 90×90cm 和歌山県立近代美術館
8 8B2 ストロマトロジー : 地球自転の永年減速 1992 写真 80×100cm	19 5D6 'moon' score : 宇宙はきのこのように発生したか? 1989 譜面 29.7×21cm 国立国際美術館	30 6J2 午後のアナレンマ '90 1990 写真 90×90cm 和歌山県立近代美術館
9 8B3 ストロマトライト : 1年はかつて435日 だった 1992 写真 80×100cm	20 5D7 'moon' score : 真空からの発生 1989 譜面 29.7×21cm 国立国際美術館	31 6J3 正午のアナレンマ '90 1990 写真 110×90cm 和歌山県立近代美術館
10 4B2 [HEARING]についての特別資料室 1970-1976 ミクストメディア 京都国立近代美術館	21 5D8 'moon' score : 宇宙は収縮に転ずるか? 1989 譜面 29.7×21cm 国立国際美術館	32 6F17 乗鞍 1991-1992 写真 73.5×130cm
11 3C1 Ten-Year Photobook 又は 視覚のブラウ ン運動 1972-1982/1997-2000(1972.3-1982.2) 写真製本 120冊 各26.2×23×4.2cm 豊田市美術館	22 5A1-2 'moon' score 1975-1979 写真ファイル 6冊 各31×25.5×5.5cm 東京国立近代美術館	33 6F11-2 12の自転 1987-2008 写真 12点組 320×320cm(各50.8×61cm)

[凡例]
作品No.
作品名
制作年
技法・材質
寸法
所蔵

34 6J10 3D アナレナマ 2008 ブロンズ、大理石、御影石 201×160×25cm ブロンズ128×22×9.5cm 大理石45.5×160×16cm 御影石26.5×19×25cm	46 3B2 (映像)Jun. 1972 - Oct. 1973 又は 視覚の ブラウン運動 1972-1973 16mmフィルム B/W 4コマ/秒 5時間	57 7C9 真空のゆらぎが……II 1987 真空、ガラス、海綿 60×450×450cm	68 8A3 tRNA+チトクロームC又は双胴の鳥 1992-1993 ミクストメディア 140×146×38cm
35 9A9 Homo Meteoris 1995-1998 隕石、大理石 55×50×35cm	47 7B4 弦の発生 1991 ガラス、大理石 58×14×15cm 東京国立近代美術館	58 2E13 (映像)カメラを手に持ち腕を回す：人物、 風景 1972(1972.1.14) 16mmフィルム、B/W 11分	69 9A11 眼と鼻の先の距離 1995-2004 隕石、大理石 36×46×42cm
36 6M2 ようこそ地球へ、では2379年後に再会し ましょう 1997 写真 8点組 各41×60cm	48 9C3 軟着陸する隕石 '97 1991-1997 隕石、ソーラーパネル、ミクストメディア 180×605×250cm	59 2E16 (映像)重心の移動 1972(1972.2.26) 16mmフィルム、B/W 5分	70 8A5 コスミック・センシビリティ：超螺旋 1983-1996 隕石、写真、ミクストメディア 280×480×60cm 水戸芸術館現代美術センター
37 6J7 星雲間のアナレナマ 2006 大理石、ミクストメディア 110×134×135cm	49 7A4 真空からの発生 1989 ガラス 38.5×24×24cm 京都国立近代美術館	60 2E18 (映像)水のなかでのbreathing 1972(1972.2.17) 16mmフィルム、B/W 6分	71 9A13 結晶体：隕石・大理石・マントル 1995-2008 隕石、大理石、マントル 58×50×38cm
38 6D5-2 自転する地球 Aug. 30, 1979 1979/2009(1979.8.30 17:07-17:37) 写真 90×90cm	50 7A7 トポロジーチェンジ 1992 ガラス、大理石 58×30×29cm 京都国立近代美術館	61 6H1-2 自転と重力：補陀落の海へ 1982-1984 写真 180×123cm 和歌山県立近代美術館	72 11B3 アナレナマ：惑星 1996-2000/2008 写真 8点組 各47.5×67cm
39 6D11 自転する地球 Oct. 24, 1979 1979/2009(1979.10.24 13:53-14:23) 写真 90×90cm	51 7B6 内部構造：弦 4 1996 ガラス、大理石 42×81×60cm	62 6B8-1 影を通過する物体 1978-1986 写真 4点組 50.8×61cm(2点)、100×100cm(2点)	73 9A12 うぶ声 1994-2008 隕石、玄武岩 60×45×48cm
40 6D7 自転する地球 Nov. 8, 1979 1979(1979.11.8 16:05-16:35) 写真 90×90cm	52 9D1 Cosmo-Arbor '06 1999-2006 隕石、ステンレス、ミクストメディア 420×140×380cm	63 6I1-1 天路1986年：ハレー彗星の回帰 1985-1987 写真 70×170cm 京都国立近代美術館	74 6G7 赤道上の太陽 1989 写真、プラスチック 140×352×60cm 豊田市美術館
41 6D10 自転する地球 Nov. 8, 1979 1979/2007(1979.11.8 16:39-16:59) 写真 90×90cm	53 7A5 励起する真空 1990 ガラス、大理石 50×33×25cm 岐阜県立美術館	64 6I2-1 天路1910年：ハレー彗星の回帰 1986-1989 写真 83×170cm 京都国立近代美術館	75 5E1 Elliptic score : In Falling 011 Sep. 9, 2003 10:57-11:03 2003-2004 写真 17×19.5cm、41×46.5cm
42 6D8 自転する地球 Nov. 15, 1979 1979(1979.11.15 15:34-16:14) 写真 90×90cm	54 7A6 量子発生 1991 ガラス、大理石 60×30×33cm 東京国立近代美術館	65 6I3-1 天路2062年：ハレー彗星の回帰 1986-1989 写真 83×170cm 京都国立近代美術館	76 5E2 Elliptic score : In Falling 013 Sep. 9, 2003 11:14-11:25 2003-2004 写真 17×19.5cm、41×46.5cm
43 6D9-2 自転する地球 Nov.19, 1979 1979(1979.11.19 14:16-14:46) 写真 90×90cm	55 9C2 軟着陸する隕石 '96 1991-1996 隕石、ソーラーパネル、ミクストメディア 180×605×250cm	66 7F2 ゆらぐ球体と暗黒エネルギー又はゆらぐ 宇宙の出現 2007 白大理石、黒御影石 φ27cm、30×47×38cm、57×47×38cm	77 5E3 Elliptic score : In Falling 017 Sep. 9, 2003 14:18-14:27 2003-2004 写真 17×19.5cm、41×46.5cm
44 7D3-2 COWARA(電磁波と放射) 1987-1992 ホーンスピーカー、ミクストメディア 300×400×350cm	56 7B2 内部構造：弦 1 1990 ガラス、大理石 35×45×32cm 京都国立近代美術館	67 9A8 神話学：2つの太陽 1994-1996 隕石、大理石、写真 隕石、大理石 68×28.5×31cm 写真 84.5×107.5cm	78 5E4 Elliptic score : In Falling 020 Sep. 9, 2003 14:51-14:58 2003-2004 写真 17×19.5cm、41×46.5cm
45 パラボラアンテナ 1987-1991 写真 120×130cm			

79 5E5 Elliptic score : In Falling 027 Sep. 9, 2003 17:24-17:30 2003-2004 写真 17×19.5cm、41×46.5cm	91 5D23 'Grus' score 011 or Topaz 2004 譜面 29.7×21cm	103 14A4 Chromatist Painting : N's Spectrum 020 2004 Pigment、大理石 5点組 50×74×2.6cm	114 13C1 Walchia & Abell 779 (2.93億光年) 2003-2006 化石、写真 化石 59×39cm 写真 51.5×60cm
80 5E6 Elliptic score : In Falling 029 Sep. 9, 2003 17:41-17:47 2003-2004 写真 17×19.5cm、41×46.5cm	92 5D24 'Grus' score 012 or Aquamarine 2004 譜面 29.7×21cm	104 14A5 Chromatist Painting : N's Spectrum 022 2004 Pigment、大理石 5点組 50×74×2.6cm	115 13C2 Calamites & Abell 1356 (2.9億光年) 2002-2006 化石、写真 化石 30×38cm 写真 34.5×45cm
81 5D21 (映像) Elliptic score : In Falling 2004 DVD 4時間48分	93 5D25 'Grus' score 015 or Inclusion Spinel 2004 譜面 29.7×21cm	105 14A7 Chromatist Painting : N's Spectrum 011 010 2004 Pigment、アルミニウム 50×315cm 50×240cm	116 13C3 Lepidodendron & Abell 634 (3.4億光年) 2006 化石、写真 化石 46×36cm 写真 51.5×60cm
82 5F1 'Grus' score 010 Feb. 11, 2004 07:21 2004 写真 81×88cm	94 5D27 'Grus' score 013 or Paraiba 2006 譜面 29.7×21cm	106 14B1 Octopusic Conversation : Chromatist I II III IV 2003 上装本 総687ページ 4冊組 各30.5×20.5cm	117 13C4 Plagiophyllum & NGC 2207 + IC 2163 (1.63億光年) 2002-2006 化石、写真 化石 28×39cm 写真 34.5×45cm
83 5F2 'Grus' score 011 Feb. 11, 2004 07:24 2004 写真 81×88cm	95 5D28 'Grus' score 019 or Bicolor Tourmaline 2006 譜面 29.7×21cm	107 8E1 1000万年の接ぎ木 I 2000-2007 化石、楠木 105.5×38.5×38cm	118 13C5 Pecopteris & HCG 88 (2.6億光年) 2003-2006 化石、写真 化石 56×47cm 写真 51.5×60cm
84 5F3 'Grus' score 012 Feb. 11, 2004 07:27 2004 写真 81×88cm	96 5D29 'Grus' score 023 or Padparadschah 2006 譜面 29.7×21cm	108 8E2 1000万年の接ぎ木 II 2009 化石、楠木 153×55×55cm	119 13A1 時間の矢又は時間粒子 1997-2004 化石、ブロンズ 10×90.2×61cm
85 5F4 'Grus' score 013 Feb. 11, 2004 07:29 2004 写真 81×88cm	97 5D30 'Grus' score 033 or Alexandrite 2006 譜面 29.7×21cm	109 8E3 1000万年の接ぎ木 III 2009 化石、楠木 204×78×79cm	120 12-5 (映像) HAASプロジェクターソーラー カーによるアメリカ大陸横断 1999-2000 DVD 43分10秒
86 5F5 'Grus' score 015 Feb. 11, 2004 07:31 2004 写真 81×88cm	98 5D26 'Grus' score 2006 CD h v 110 66分54秒	110 8E4 1億5000万年の接ぎ木 2009 化石、楠木 95×54×64cm	121 10A8 サンストラクチャー '99 1998-1999 ソーラーカー 100×655×170cm
87 5F6 'Grus' score 019 Feb. 11, 2004 07:39 2004 写真 81×88cm	99 14A6 Chromatist Painting : N's Spectrum 005 006 2004 Pigment、アルミニウム 50×295cm、50×240.5cm	111 13C6 Calamites・Odontopteris & HCG 40 (2.9 億光年) 2007 化石、写真 190×154×9.5cm	122 10B2 アメリカ大陸横断ルート探査 1999 地図 11点組 335×1020×105cm
88 5F7 'Grus' score 023 Feb. 11, 2004 07:49 2004 写真 81×88cm	100 14A1 Chromatist Painting : N's Spectrum 002 2004 Pigment、大理石 5点組 75×51×2.6cm	112 8C4 ジュラ紀の巨木：豊中 1998-2000 化石、地図12点 化石 24×69×47cm、地図 196×174cm 各36.5×46cm 水戸芸術館現代美術センター	123 10B3 日誌 1999 写真 33点 各49×32cm
89 5F8 'Grus' score 033 Feb. 12, 2004 07:18 2004 写真 81×88cm	101 14A2 Chromatist Painting : N's Spectrum 003 2004 Pigment、大理石 5点組 50×74×2.6cm	113 13D1 時間の矢：石化言語Abell 2151 (5億光年) + Abell 2199 (4.2億光年) 2001-2007 化石、写真 172×273.5×96.5cm	124 10C1 ソーラーカー+シャトルブースター 1999-2009 写真 67×100cm
90 5D22 'Grus' score 010 or Lapis Lazuli 2004 譜面 29.7×21cm	102 14A3 Chromatist Painting : N's Spectrum 015 2004 Pigment、大理石 5点組 50×74×2.6cm		

125
10C2
ソーラーカー+発射台
1999-2009
写真
67×100cm

126
10C3
メキシカンハットロックのソーラーカー
1999/2009
写真
67×100cm

127
11D2
火星：太陽と石
1999
写真 9点組
各81.5×100cm

128
14A8
(映像)Bright-Line Spectrum : Cosmo
Chronography
2004
映像

129
14E1
植物を育む言語又は'反照している'を見る
2009
LED、ミクストメディア

ルネ・ラリック
華やぎのジュエリーから
煌きのガラスへ
出品リスト

第I部 華やぎのジュエリー
1. 目覚め

I-001
扇《二羽の雀とバラ》
1885年
ムーンストーン・ギャラリー、パリ

I-002
デザイン画—ロココ様式のティアラ
1890-1893年頃
ラリック社コレクション

I-003
デザイン画—ペンダント付の襟
1890-1895年頃
ラリック社コレクション

I-004
デザイン画—アラバスクのネックレス
1890-1895年頃
ラリック社コレクション

I-005
ブローチ《スフィンクス》
1893年頃
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

I-006
ブローチ《トリトンと水の精のカップル
のある仮面》
1893年
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

I-007
コサージュ・オーナメント《六羽のツバ
メの飛翔》
1886-1887年頃
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

I-008
デザイン画—コサージュ・オーナメント
《六羽のツバメの飛翔》
1886-1887年頃
ラリック社コレクション

I-009
デザイン画—ティアラ《五羽のツバメの
飛翔》
1886-1887年頃
ラリック社コレクション

I-010
デザイン画—留め金《ルネサンス》
1893-1894年頃
ラリック社コレクション

I-011
デザイン画—コサージュ・オーナメント
《冬景色》
1896年頃
ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ
ンドマン コレクション

I-012
マグカップの原型《サテュロスとブドウ
のつる》
1893年
ラリック社コレクション

2. 愛の美神アリス

I-013
バックル《ケシ》
1894-1895年頃
ミッシェル-アンジュ・フィリップ コレ
クション、パリ

I-014
ハットピン《ケシ》
1897年
オルセー美術館

I-015
習作《三つのケシ》
オルセー美術館

I-016
水彩画《ケシ》
1897年
オルセー美術館(ルーヴル美術館素描・
版画部門保管)

I-017
ブローチ《ケシに囲まれた女性の肖像》
1900-1901年頃
カルースト・グルベンキアン美術館

I-018
櫛《メダル形の肖像とバンジー》
1901年頃
カルースト・グルベンキアン美術館

I-019
デザイン画—櫛《メダル形の肖像とバン
ジー》
1901年頃
カルースト・グルベンキアン美術館

I-020
香水瓶《シダ》あるいは《女の胸像》
1912年
個人蔵

3. 花開くジュエリー：モチーフの展開

I-021
ティアラ《ミモザ》
1903-1905年頃
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

I-022
ティアラ《ヤブイチゲ》
1901-1903年頃
個人蔵

I-023
櫛《ナデシコ》
1902-1903年頃
シャイ・バンドマン&アルテム コレク
ション

I-024
デザイン画—櫛《ナデシコ》
1902-1903年頃
シャイ・バンドマン&アルテム コレク
ション

I-025
イヤリング《ケシの実》
1898-1899年頃
ラリック社コレクション

I-026
ドッグ・カラー・ブラーク《ヴェロニカ》
1899年頃
オルセー美術館

I-027
デザイン画—ドッグ・カラー・ブラーク
《ヴェロニカ》
1898-1899年頃
ラリック社コレクション

I-028
ドッグ・カラー《サンザシ》
1902-1904年頃
シャイ・バンドマン&アルテム コレク
ション

I-029
ネックレス《月桂樹の枝》
1903-1905年頃
シャイ・バンドマン&アルテム コレク
ション

I-030
ネックレス《花》
1900-1905年頃
個人蔵

I-031
ペンダント《カーネーションとハス》
1897-1898年頃
個人蔵

I-032
ペンダント/ブローチ《枯れたアネモネ》
1898-1900年頃
個人蔵

I-033
ブローチ《桑の木と甲虫》
1900年頃
東京国立近代美術館

I-034
ペンダント/ブローチ《白いスマイル》
1900-1903年頃
シャイ・バンドマン&アルテム コレク
ション

I-035
ペンダント/ブローチ《バンジー》
1900-1902年頃
ヴィクトリアン ボックス

I-036
ドッグ・カラー・ブラーク《アネモネ》
1902-1903年頃
ロナルド・オオイ&シャイ・バンドマン
コレクション

I-037
ブローチ《バンジー》
1903-1904年頃
ラリック社コレクション

I-038
ドッグ・カラー《バンジー》
1902-1904年頃
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

I-039
ドッグ・カラー《松の枝》
1902年頃
個人蔵

I-040
ブローチ《枯れ葉》
1899-1903年頃
オルセー美術館

I-041
ペンダント《松の枝》
1900年頃
個人蔵

I-042
指輪《紅葉するツタの葉》
1902-1904年頃
個人蔵(協力：アルビオンアート・ジュ
エリー・インスティテュート)

I-043
指輪《キツタの葉》
1902-1904年頃
個人蔵(協力：アルビオンアート・ジュ
エリー・インスティテュート)

I-044
指輪《ホウチャクソウ》
ギャラリー オルフェ

I-045
指輪《ネコヤナギ》
水野裕子氏蔵

I-046
指輪《月桂樹》
鈴木正司氏蔵

I-047
ハットピン《二つの松かさ》
1897-1899年頃
ギャラリー・グリシーヌ

[凡例]
カタログ番号
作品名
制作年
所蔵

I-048 ハットピン《ルナリア》 1901-1903年頃 ギャルリー・グリシーヌ	I-064 ブローチ《羽のあるニンフ》 1898年頃 東京国立近代美術館	I-081 ブローチ《踊るニンフ、コウモリの飾り 枠》 1902-1903年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-097 デザイン画—ペンダント《羽のある二人 の裸婦》 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション
I-049 扇と櫛《落ち葉》 1899-1900年頃 個人蔵	I-065 ブローチ《羽のあるニンフ》 1897-1898年頃 個人蔵	I-082 ブローチ《踊るニンフ》 1902-1903年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-098 デザイン画—ペンダント《二匹の蝶》 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション
I-050 デザイン画—扇《落ち葉》 1899-1900年頃 ラリック社コレクション	I-066 ブローチ《羽のあるニンフ》 1897-1898年頃 シャイ・バンドマン&アルテム コレク ション	I-083 ペンダント《ジャンヌ・ダルク》 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-099 デザイン画—ペンダント《コウモリ》と チェーンのモチーフ ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション
I-051 デザイン画—櫛《落ち葉》 1899-1900年頃 ラリック社コレクション	I-067 ネックレス《羽のある虫の女》 1897-1899年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-084 ペンダント《バッカスの巫女》 1900-1902年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-100 デザイン画—オベラグラス《バンジー》 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション
I-052 ペンダント《二匹のカメレオン》 1897-1898年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-068 ペンダント《二匹のトンボ》 1903-1908年頃 オルセー美術館	I-085 ブローチ《サラマンダー》 ギャルリー・グリシーヌ	4. グルベンキアンの愛したラリック
I-053 ペンダント/ブローチ《二羽の孔雀》 1897-1898年頃 シャイ・バンドマン&アルテム コレク ション	I-069 ペンダント《四匹のトンボ》 1903-1905年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-086 指輪《スフィンクス》 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-101 バックル《人物像》 1896-1898年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-054 ネックレス《猫》 1898-1900年頃 シャイ・バンドマン&アルテム コレク ション	I-070 ペンダント/ブローチ《二匹のトンボ》 1903-1905年頃 ギャルリー・グリシーヌ	I-087 ブローチ《スカラベの印章》 1899-1901年頃 個人蔵	I-102 櫛《接吻》 1896-1898年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-055 バックル《コウモリ》 1901-1904年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-071 指輪《二匹のトンボ》 1903-1905年頃 ギャルリー オルフェ	I-088 指輪《スカラベとハスの花》 1897-1899年頃 シャイ・バンドマン&アルテム コレク ション	I-103 櫛《中世風の人物像》 1897-1901年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-056 ペンダント/ブローチ《女性像とユリ》 1899-1900年頃 個人蔵	I-072 櫛《四匹のトンボ》 1904-1905年頃 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-089 十字架《天使、A.Q(アルファとオメガ)》 1896-1898年頃 個人蔵	I-104 デザイン画—櫛《中世風の人物像》 1897-1901年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-057 ペンダント《女の横顔とプラタナス》 1901-1902年頃 個人蔵	I-073 ペンダント《女の横顔とアオサギ》 1897-1898年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	I-090 デザイン画—十字架《天使、A.Q(アルファ とオメガ)》 1896-1897年頃 ラリック社コレクション	I-105 ティアラ《雄鶏の頭》 1897-1898年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-058 ペンダント《スマイルの女》 1897-1899年頃 個人蔵	I-074 ペンダント《レダと白鳥》 1898-1899年頃 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-091 デザイン画—櫛《菊の花》 1899-1900年頃 ギャルリー・グリシーヌ	I-106 ペンダント《ニンフ》 1899-1900年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-059 ペンダント/ブローチ《ケシの女》 1898-1900年頃 個人蔵	I-075 ブローチ《レダと白鳥》 ギャルリー・グリシーヌ	I-092 デザイン画—ドッグ・カラー・ブランク 《雄鶏の頭》 1898-1900年頃 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション	I-107 デザイン画—ペンダント《ニンフ》 1899-1900年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-060 ペンダント/ブローチ《ヴェロニカの女》 1898-1900年頃 笹昌美氏蔵	I-076 指輪《白鳥》 1898-1899年頃 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-093 デザイン画—ペンダント《二羽の孔雀》 1897-1898年頃 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション	I-108 ペンダント《樹の中のニンフ》 1900-1902年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-061 ブローチ《二つの横顔、アネモネの飾り 枠》 1900-1902年頃 ギャルリー・グリシーヌ	I-077 デザイン画—指輪《白鳥》 1897-1898年頃 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-094 デザイン画—ペンダント《セミ》と《二匹 のスズメバチ》 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション	I-109 ペンダント《松の枝に囲まれた女たち》 1899-1900年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-062 ブローチ《二つの横顔、オリーブの飾り 枠》 1900-1902年頃 ギャルリー オルフェ	I-078 ペンダント《踊る二人の裸婦》 1898-1900年頃 個人蔵	I-095 デザイン画—ペンダント《蝶とアザミ》 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション	I-110 ペンダント《ミダスと若い娘》 1899-1900年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
I-063 ブローチ《九つの胸像、棘の飾り枠》 1904-1905年頃 個人蔵(協力:アルビオンアート・ジュ エリー・インスティテュート)	I-079 ブローチ《フルート奏者》 1900-1902年頃 個人蔵	I-096 デザイン画—ペンダント《カエデの種》 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション	I-111 ペンダント《アネモネの死》 1900-1901年頃 カルースト・グルベンキアン美術館
	I-080 ペンダント《踊る二人の女》 1901年 カルースト・グルベンキアン美術館		I-112 原型《根にからまる五人の裸婦》 1900年以前 ヴィクトリアン ボックス&シャイ・バ ンドマン コレクション

I-113 ペンダント《ディアネイラの略奪》 1900-1902年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	I-130 ブローチ《孔雀》 1906-1908年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	II-014 立像《大きな裸婦像、ツタの台》 1919年 成田美術館(滋賀)	II-030 花瓶《オラン》あるいは《大きなダリア》 1927年 田原浩氏蔵
I-114 ティアラ《リンゴの花》 1901-1902年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	I-131 ブローチ《ニンフ》 1906-1908年頃 シャイ・バンドマン & アルテム コレクション	II-015 デカンタ《シレーヌとカエル》 1911年 成田美術館(滋賀)	II-031 花瓶《ピカルディー》あるいは《ケシ》 1927年 新保哲也氏蔵
I-115 デザイン画—ティアラ《リンゴの花》 1901-1902年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	第II部 煌きのガラス 1. ガラスへの扉	II-016 デカンタ《ブドウ》 1911年 新保哲也氏蔵	II-032 花瓶《ラングドック》あるいは《逆さに向いた葉》 1929年 ぎゃらりい81
I-116 櫛《樹の枝》 1900-1901年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-001 蓋付容器《孔雀の羽根》 1897-1899年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-017 デカンタ《二人の踊る女》 1912年 個人蔵	II-033 花瓶《魚》 1921年 財団法人 北澤美術館
I-117 ドッグ・カラー・ブラーウ《ハシバミの枝》 1901-1902年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-002 花瓶《白鳥》 1896-1899年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	II-018 花瓶《つむじ風》あるいは《渦巻のレリーフ》 1926年 笹敦氏蔵	II-034 花瓶《コンゴウインコ》 1924年 財団法人 北澤美術館
I-118 櫛《サボテン》 1902年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-003 脚付杯《ブドウ》 1902年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	II-019 花瓶《つむじ風》あるいは《渦巻のレリーフ》 1926年 笹敦氏蔵	II-035 花瓶《カメ》 1926年 財団法人 北澤美術館
I-119 ペンダント《天使》 1902-1903年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-004 脚付杯《松かさ》 1902年 ラリック社コレクション	II-020 花瓶《つむじ風》あるいは《渦巻のレリーフ》 1926年 笹敦氏蔵	II-036 花瓶《大きなスカラベ》 1923年 笹敦氏蔵
I-120 ヘアピン《天使》 1902-1903年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-005 脚付杯《松かさ》 1900-1902年頃 成田美術館(滋賀)	II-021 花瓶《ピエールフォン》あるいは《二つの渦巻の把手》 1926年 鎌田宗一郎氏蔵	II-037 花瓶《蛇》 1924年 笹敦氏蔵
I-121 デザイン画—ヘアピン《天使》 1902-1903年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-006 ボンボン入れ《エルフ》 1908年 オルセー美術館	II-022 花瓶《ナンキン》あるいは《三角形のファセット》 1925年 成田美術館(滋賀)	II-038 花瓶《ベルクール》あるいは《四羽の雀》 1927年 成田美術館(滋賀)
I-122 コサージュ・オーナメント《騎馬試合》 1903-1904年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	2. ふたつの時代、ふたつの顔	II-023 花瓶《クリュニー》あるいは《二つの仮面とブロンズの把手》 1925年 財団法人 北澤美術館	II-039 花瓶《バッタ》 1912年 鎌田宗一郎氏蔵
I-123 デザイン画—コサージュ・オーナメント《騎馬試合》 1903-1904年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-007 ランプ《孔雀》 1910年 財団法人 北澤美術館	II-024 花瓶《パッカスの巫女》 1927年 成田美術館(滋賀)	II-040 花瓶《ヒョウタン》 1914年 伊豆ガラスと工芸美術館
5. 透明の世界へ	II-008 デカンタ《ルドリュ》 1910-1912年頃 シャイ・バンドマン & 鈴木初美コレクション	II-025 花瓶《ナイアード》 1930年 財団法人 北澤美術館	II-041 花瓶《ヒョウタン》 1914年 個人蔵
I-124 ネックレス《ベリー》 1900-1905年頃 アルビオンアート・コレクション	II-009 花瓶《菊に組紐文様》 1912年 財団法人 北澤美術館	II-026 花瓶《ナディカ》 1930年 財団法人 北澤美術館	II-042 花瓶《アンテロープ》 1925年 新保哲也氏蔵
I-125 デザイン画—ネックレス《ベリー》 1900-1905年頃 アルビオンアート・コレクション	II-010 花瓶《二つの顔》 1912年頃 財団法人 北澤美術館	II-027 三足鉢《シレーヌ》 1920年 宗像理紀氏蔵	II-043 花瓶《アリカンテ》あるいは《大きなオウム》 1927年 成田美術館(滋賀)
I-126 ペンダント《二匹の魚》 1905年頃 ラリック社コレクション	II-011 花瓶《四つの仮面》 1911年 新保哲也氏蔵	II-028 花瓶《ベリー》 1924年 ギャルリー オルフェ	II-044 花瓶《バンティエーヴル》あるいは《風変わりな魚》 1928年 成田美術館(滋賀)
I-127 デザイン画—ペンダント《二匹の魚》 1905年頃 ラリック社コレクション	II-012 花瓶《トカゲと矢車菊》 1913年 成田美術館(滋賀)	II-029 花瓶《オレンジ》 1926年 ギャルリー オルフェ	3. 創作の舞台裏
I-128 ドッグ・カラー《トラ》 1905-1907年頃 個人蔵	II-013 花瓶《シレーヌ、人物像の柱》あるいは《群像》 1920年 個人蔵		II-045 蓋物《孔雀》 1910年 個人蔵
I-129 ブローチ《甲虫》 1904-1906年頃 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション			

II-046 デザイン画―蓋物《孔雀》 1910年頃 ラリック社コレクション	II-058-5 スケッチ帳(花瓶、ジュエリー) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-070 気付け薬用小瓶《魚》 1900-1902年頃 オルセー美術館	II-087 灰皿《二匹のハツカネズミ》 1925年 個人蔵
II-047 花瓶《セキセイインコ》 1919年 財団法人 北澤美術館	II-058-6 スケッチ帳(花瓶、照明器具、装飾的モチーフ) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-071 花瓶《ハツカネズミと葉の茂み》 1913年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-088 花瓶《雀のフリーズ》 1930年 財団法人 北澤美術館
II-048 デザイン画―花瓶《セキセイインコ》 1919年頃 ラリック社コレクション	II-058-7 スケッチ帳(ジュエリー、照明器具、装飾的モチーフ) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-072 花瓶《四匹の蛇》 1914年 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	II-089 花瓶《子供と葉の茂み》 1930年 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション
II-049 電気式多枝型燭台《クイタダキ》 1931年 東京都庭園美術館	II-059 ブロンズ製メダル型展覧会招待状 1905年 荒井智彦氏蔵	II-073 花瓶《トカゲ》 1914年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	5. 1925年アール・デコ博覧会
II-050 デザイン画―電気式多枝型燭台《クイタダキ》 1931年頃 東京都庭園美術館	II-058-8 スケッチ帳(照明器具、ジュエリー、小瓶) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-074 花瓶《四人のゴルゴン》 1913年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-090 立像《噴水の女神》 1924年 伊豆ガラスと工芸美術館
II-051 デカンタ《六つの顔》 1914年 財団法人 北澤美術館	II-061 合成樹脂製展覧会招待状 1930年代 カルースト・グルベンキアン美術館	II-075 花瓶《セキセイインコ》 1919年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-091 立像《噴水の女神、カリュボン》 1924年 先端医療研究協会
II-052 鉢(花瓶文様No.1) 1921年 財団法人 北澤美術館	II-060 ガラス製メダル型展覧会招待状 1912年 岩田健一氏蔵	II-076 花瓶《四つのバラのモチーフ》 1919年 個人蔵	II-092 立像《噴水の女神、ダフネ》 1924年 成田美術館(滋賀)
II-053 デザイン画―鉢(花瓶文様No.1) 1921年頃 財団法人 北澤美術館	II-062 合成樹脂製展覧会招待状 1930年代 カルースト・グルベンキアン美術館	II-077 花瓶《スピノサスモ》 1920年 ギャルリー オルフェ	II-093 立像《噴水の女神、アリアドネ》 1924年 ギャルリー・グリシーヌ
II-054 アトマイザー《人物像No.2》マルカス・エ・バルデル社 1926年 杉田伸一氏蔵	II-063 『ラリック作品集』(ラリック社商品カタログ) 1932年 ギャルリー・グリシーヌ	II-078 花瓶《線刻のアザミ》第2ヴァージョン 1920年 ギャルリー オルフェ	II-094 立像《噴水の女神、ドリス》 1924年 個人蔵
II-055 デザイン画―アトマイザー《人物像No.2》 マルカス・エ・バルデル社 1926年頃 ギャルリー オルフェ	II-064 『ルネ・ラリックの芸術』(イギリス総代理店プレーヴス・ラリック・ギャラリーズ商品カタログ) 1928年以降 ギャルリー・グリシーヌ	II-079 花瓶《沈み彫りの六羽のツバメ》 1920年 シャイ&林述秀・バンドマン コレクション	II-095 立像《噴水の女神、タレイア》 1924年 個人蔵
II-056 クリーム・ケース《ロリガン》コティ社 1912年 水野裕子氏蔵	II-065 『ルネ・ラリックのガラス作品』(1932年クリスマス用ラリック社商品カタログ) 1932年 ギャルリー・グリシーヌ	II-080 花瓶《月桂樹の枝》 1921年 成田美術館(滋賀)	II-096 立像《噴水の女神、クリュメネ》 1924年 ギャルリー・グリシーヌ
II-057 原型―クリーム・ケース《ロリガン》コティ社 1904-1905年頃 ラリック社コレクション	II-066 『ルネ・ラリック作品集』(1933年クリスマス用ラリック社商品カタログ) 1933年 ギャルリー・グリシーヌ	II-081 花瓶《モミの木》 1921年 財団法人 北澤美術館	II-097 立像《噴水の女神、メリト》 1924年 田原浩氏蔵
II-058-1 スケッチ帳(鉢、花瓶、デカンタ、照明器具) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-067 『ラリックの照明器具』(ラリック社商品カタログ) ギャルリー・グリシーヌ	II-082 花瓶《バラの花》 1921年 財団法人 北澤美術館	II-098 立像《噴水の女神、ガラティア》 1924年 勝又望氏蔵
II-058-2 スケッチ帳(小瓶、花瓶) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-068 立像《牧神の接吻》 1901年 ラリック社コレクション	II-083 花瓶《トカゲとカニ》 1921年 ギャルリー オルフェ	II-099 立像《噴水の女神、カリオペ》 1924年 西村典子氏蔵
II-058-3 スケッチ帳(鉢、小瓶、ジュエリー) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	4. シール・ベルデュ	II-084 花瓶《四匹の長いまつ毛のカエル》 1914年頃 ギャルリー オルフェ	II-100 立像《噴水の女神、アリア》 1924年 成田美術館(滋賀)
II-058-4 スケッチ帳(鏡、小瓶、花瓶) 1900-1914年頃 オルセー美術館、ラリック・アーカイヴ 資料	II-069 気付け薬用小瓶《シレーヌ》 1905年頃 湘南江の島香水瓶美術館	II-085 ランプシェード《花束》 1913年頃 カルースト・グルベンキアン美術館	II-101 立像《噴水の女神、テルフェーズ》 1924年 成田美術館(滋賀)
		II-086 水差し《小さな牧神の顔》 1922年 財団法人 北澤美術館	II-102 「工芸の中庭」列柱廊・扉装飾パネル《ガラス職人》 1925年 大村美術館(角館)

II-103
「工芸の中庭」列柱廊・扉装飾パネル(ガラス職人)
1925年
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

II-104
デザイン画―「工芸の中庭」列柱廊・扉装飾パネル(鍛冶職人、陶工、織工)
1925年頃
財団法人 北澤美術館

II-105
デザイン画―「工芸の中庭」列柱廊・扉
1925年頃
財団法人 北澤美術館

II-106
テーブル・セット《ロータス》
1924年(フィンガー・ボウル:1923年)
ギャルリー オルフェ

II-107
電気式多枝型燭台《ブドウ》
1924年
ローラン・フィリップ・コレクション、
ニューヨーク

II-108
印章(水源)
1925年
ギャルリー オルフェ

II-109
灰皿(噴水の立像)
1925年
個人蔵

6. 皇族・王族とラリック

II-110
花瓶(インコ)
1919年
個人蔵

II-111
デザイン画―《朝香宮邸正面玄関》
1931年頃
財団法人 北澤美術館

II-112
花瓶(フォルモーズ)
1924年
個人蔵

II-113
テーブル・センターピース(火の鳥)
1922年
鎌田宗一郎氏蔵

II-114
手鏡(ツバメ)
1913年
ラリック社コレクション

II-115
脚付杯(パリ市の記念杯)
1914年
伊豆ガラスと工芸美術館

II-116
テーブル・セット(カモメ)
1938年
ラリック社コレクション

7. 香りの小宇宙

II-117
ラリック製ガラス・プレート付香水瓶(レフルール)コティ社
1908年
ギャルリー・グリシーヌ

II-118
香水瓶(レフルール)コティ社
1912年
鈴木正司氏蔵

II-119
香水瓶(シクラメン)コティ社
1909年
個人蔵

II-120
香水瓶(アンブル・アンティーク)コティ社
1910年
個人蔵

II-121
香水瓶(牧歌)コティ社
1911年
財団法人 北澤美術館

II-122
香水瓶(花のなかに)コティ社
1913年
大山泰子氏蔵

II-123
ラリック製プレート付のコティ社香水テスター・ケース
1911年
ギャルリー オルフェ

II-124
香水テスター(コティの香水)
1912年
財団法人 北澤美術館

II-125
香水瓶(トカゲ)
1911年
湘南江ノ島香水瓶美術館

II-126
香水瓶(カーネーション)
1927年頃
財団法人 北澤美術館

II-127
香水瓶(六人の踊る女)
1912年
湘南江ノ島香水瓶美術館

II-128
香水瓶(ルナリア)
1912年
鈴木正司氏蔵

II-129
香水瓶(四つのヒマワリ)
1912年
鈴木正司氏蔵

II-130
香水瓶(二人の人物、小像のある栓)
1912年
坂口明子氏蔵

II-131
香水瓶(ナルキス)ロジェ&ガレ社
1912年
モデリスタ

II-132
香水瓶(ラ・シレーヌ)ビュルマン社
1912年頃
個人蔵

II-133
香水瓶(バラ形の人物)
1912年
財団法人 北澤美術館

II-134
香水瓶(シレーヌ)
1924年
財団法人 北澤美術館

II-135
香水瓶(彼女らの魂)ドルセイ社
1913年頃
個人蔵

II-136
香水瓶(ユーカリ)
1919年
個人蔵

II-137
香水瓶(カシス)
1920年
財団法人 北澤美術館

II-138
香水瓶(カシス)
1920年
財団法人 北澤美術館

II-139
香水瓶(ブラックベリー)
1920年
笹敦氏蔵

II-140
香水瓶(クレールフォンテーヌ)
1931年
個人蔵

II-141
香水瓶(青春)
1933年
財団法人 北澤美術館

II-142
香水瓶(サテュロス)
1933年
財団法人 北澤美術館

II-143
香水瓶ケース(ウビガン・セット)ウビガン社
1928年頃
ギャルリー・グリシーヌ

8. 装いのガラス

II-144
ネックレス(スズラン)
1922年
大友美和氏蔵

II-145
ネックレス(頭を上げた雀)
1929年
財団法人 北澤美術館

II-146
ネックレス(水玉文様)
1930年頃
シャイ&林述秀・バンドマン コレクション

II-147
ペンダント(シレーヌ)
1919年
水野裕子氏蔵

II-148
ペンダント(ブランコに乗る人物)
1919年
ギャルリー・グリシーヌ

II-149
ペンダント(二人の人物)
1919年
荒井智彦氏蔵

II-150
ペンダント(蛇)
1920年
水野裕子氏蔵

II-151
ペンダント(ユリ)
1920年
個人蔵

II-152
ペンダント式香水瓶(ユーカリ)
1920年
ギャルリー・グリシーヌ

II-153
ブレスレット(エンジュ)
1928年
ギャルリー・グリシーヌ

II-154
ブレスレット(ルネサンス)
1928年
ギャルリー・グリシーヌ

II-155
指輪(麦穂)
1931年
水野裕子氏蔵

II-156
指輪(花)
1931年
水野裕子氏蔵

II-157
ブローチ(バッタ)
1911年
ギャルリー・グリシーヌ

II-158
ブローチ(ツタの葉)
1912年頃
水野裕子氏蔵

II-159
ブローチ(「日本のリンゴの木」のカボション)
1920年
財団法人 北澤美術館

II-160
ブローチ(背中あわせの人物)
1913年
田中真紀子氏蔵

II-161
ブローチ(矢車菊の花瓶)
1913年
岩田健一氏蔵

II-162
コサージュ・ブローチ(雌鹿)
1912年
ギャルリー オルフェ

II-163
手鏡(横たわるナルキッソス)
1912年
個人蔵

II-164
鏡(バッタ)
1919年
ギャルリー オルフェ

II-165
立鏡(ノバラ)
1921年
個人蔵

II-166
パウダー・ケース(「日本のリンゴの木」)
アリス社
1919年
財団法人 北澤美術館

II-167
パウダー・ケース(二人のシレーヌ)
ドルセイ社
1920年頃
個人蔵

II-168
化粧セット(小花)
1919年
個人蔵

II-169 灰皿《ニコル》 1929年 ギャラリー オルフェ	II-186 カーマスコット《勝利の女神》 1928年 財団法人 鍋島報効会	10. 室内のエレガンス	II-219 印章《羽のある人物》 1919年 個人蔵
II-170 灰皿《二羽のハト》 1931年 ギャラリー オルフェ	II-187 カーマスコット《カエル》 1928年 個人蔵	II-202 テーブル・センターピース《二人の騎士》 1920年 財団法人 北澤美術館	II-220 印章《二人の踊る女》 1919年 ギャラリー・グリシーヌ
9. スピードの世紀	II-188 カーマスコット《ロンシャン》第1ヴァージョン 1929年 東京国立近代美術館	II-203 テーブル・センターピース《三羽の孔雀》 1920年 ラリック社コレクション	II-221 インク壺《雌鹿》 1912年 ラリック社コレクション
II-171 カーマスコット《五頭の馬》 1925年 個人蔵	II-189 カーマスコット《ロンシャン》第2ヴァージョン 1929年 個人蔵	II-204 クープ形ランプ《人物の輪飾り》 1912年 笹敦氏蔵	II-222 飾り箱《ルナリア》 1914年 財団法人 北澤美術館
II-172 カーマスコット《彗星》 1925年 トヨタ博物館	II-190 カーマスコット《エブソム》 1929年 個人蔵	II-205 常夜灯《二羽の孔雀》 1920年 大村美術館(角館)	II-223 置時計《五羽のツバメ》あるいは《ツバメの飛翔》 1920年 個人蔵
II-173 カーマスコット《ハヤブサ》 1925年 個人蔵	II-191 カーマスコット《猪》 1929年 個人蔵	II-206 常夜灯《[日本のリンゴの木]》 1920年 個人蔵	II-224 ペーパーウエイト《トカゲ》 1913年 杉田伸一氏蔵
II-174 カーマスコット《射手》 1926年 個人蔵	II-192 カーマスコット《パーチ》 1929年 ギャラリー オルフェ	II-207 常夜灯《アスパラガスの実》 1920年 ギャラリー・グリシーヌ	II-225 ブックエンド《ワシの頭》 1928年 ギャラリー オルフェ
II-175 カーマスコット《チャボ》 1928年 個人蔵	II-193 カーマスコット《スピード》 1929年 個人蔵	II-208 常夜灯《ツバメ》、ほや《つむじ風》 1919年 ギャラリー オルフェ	II-226 装飾パネル《競技者》 1928-1930年頃 大村美術館(角館)
II-176 カーマスコット《雄羊の頭》 1928年 個人蔵	II-194 カーマスコット《ウーダン種の鶏》 1929年 個人蔵	II-209 常夜灯《忘れな草》、ほや《小さな葉》 1919年 財団法人 北澤美術館	11. テーブルを彩るアート
II-177 カーマスコット《雄鶏の頭》 1928年 個人蔵	II-195 カーマスコット《ホロホロチョウ》 1929年 個人蔵	II-210 電気式芳香ランプ《バラ》 1921年 財団法人 北澤美術館	II-227 テーブル・セット《ストラスブル》 1926年(フィンガー・ボウル:1931年、皿: 1933年) 鎌田宗一郎氏蔵
II-178 カーマスコット《ワシの頭》 1928年 財団法人 北澤美術館	II-196 カーマスコット《フクロウ》 1931年 トヨタ博物館	II-211 電気置時計《二人の人物》 1926年 個人蔵	II-228 グラス・セット《トウキョウ》 1930年 財団法人 北澤美術館
II-179 カーマスコット《ハイタカの頭》 1928年 個人蔵	II-197 カーマスコット《キツネ》 1930年 トヨタ博物館	II-212 電気置時計《昼と夜》 1926年 鎌田宗一郎氏蔵	II-229 燭台《トウキョウ》 1935年 財団法人 北澤美術館
II-180 カーマスコット《孔雀の頭》 1928年 個人蔵	II-198 カーマスコット《クリュセイヌ》 1931年 美根耕二氏蔵	II-213 シガレット・ケース《二頭の山羊》 1936年 笹敦氏蔵	II-230 ナイフ・レスト《ニッポン》 1932年 財団法人 北澤美術館
II-181 カーマスコット《グレーハウンド》 1928年 個人蔵	II-199 カーマスコット《シレーヌ》 1920年 個人蔵	II-214 プロッター《牧神とニンフ》 1920年 個人蔵	II-231 調味料入れ《ニッポン》 1932年 財団法人 北澤美術館
II-182 カーマスコット《聖クリストフォロス》 1928年 個人蔵	II-200 装飾パネル《人物とブドウ》 1928年 成田美術館(滋賀)	II-215 印章《布をまとう女》 1912年 ギャラリー・グリシーヌ	II-232 グラス・セット《ニッポン》 1930年 ギャラリー・グリシーヌ
II-183 カーマスコット《ツバメ》 1928年 個人蔵	II-201 装飾パネル《クロウタドリとブドウ》 1928年 成田美術館(滋賀)	II-216 印章《ワシ》 1912年 ギャラリー・グリシーヌ	II-233 グラス・セット《コウベ》 1933年 大村美術館(角館)
II-184 カーマスコット《小トンボ》 1928年 個人蔵		II-217 印章《セキセイインコ》 1919年 ギャラリー・グリシーヌ	
II-185 カーマスコット《大トンボ》 1928年 財団法人 鍋島報効会		II-218 印章《ツバメ》 1919年 ギャラリー・グリシーヌ	

- II-234
 さまざまなグラス
 《サン＝ナポール》1926年
 《オーベルネ》1926年
 《ヴィーニュ・ストリエ》1920年
 《エドワード》1924年
 《ブイ》1931年
 《サント＝ディール・ブドウ園》1921年
 《ドルナック》1927年
 《アグノー》1924年
 《サン＝シール》1930年
 《モルスハイム》1924年
 ギャラリー オルフェ
- II-235
 さまざまなグラス
 《シャンベルタン》1938年
 《ユナヴィール》1926年
 《ティオンヴィール》1924年
 《リックヴィール》1925年
 《ウィリアム》1925年
 《バクレット》1935年
 《アンドゥロ》1924年
 《タン》1924年
 《マリエンタル》1927年
 《バドヴァ》1930年
 ギャラリー・グリシーヌ
- R-001
 オリジナル・プリント《アリス・ルドリュ
 の肖像》
 1895年
 オルセー美術館
- R-002
 ボール・ビュルティ・アヴィランド
 オリジナル・プリント《ブローチ「ケシに
 囲まれた女性の肖像」》
 1933年
 オルセー美術館
- R-003
 オーギュスト・ルドリュ
 原型《二つのバラ》
 ラリック社コレクション
- R-004
 オーギュスト・ルドリュ
 原型《アザミ》
 ラリック社コレクション
- R-005
 アントワーヌ・ブールデル(1861-1929)
 ポスター「現代装飾美術産業美術国際博
 覧会」
 1925年
 トヨタ博物館
- R-006
 アンドレ・ジラル(1901-1968)
 ポスター「現代装飾美術産業美術国際博
 覧会」
 1925年
 トヨタ博物館
- R-007
 シャルル・ルーボ(1892-1962)
 ポスター「現代装飾美術産業美術国際博
 覧会」
 1925年
 トヨタ博物館
- R-008
 ロベール・ボンフィス(1886-1971)
 ポスター「現代装飾美術産業美術国際博
 覧会」
 1925年
 ギャラリー オルフェ
- R-009
 「現代装飾美術産業美術国際博覧会」公式
 カタログ
 1925年
 個人蔵
- R-010
 「現代装飾美術産業美術国際博覧会」会場
 地図
 1925年
 大村美術館(角館)
- R-011
 「現代装飾美術産業美術国際博覧会」絵葉
 書
 1925年
 ギャラリー・グリシーヌ
- R-012
 レイ・マルタン(生没年不詳)
 パリ市発行の記念メダル
 1925年
 ギャラリー・グリシーヌ
- R-013
 ピエール・テュラン(1891-1968)
 パリ市発行の記念メダル
 1925年
 ギャラリー・グリシーヌ
- R-014
 ルネ・ヴァンサン(1879-1936)
 《路上で》
 1913年
 トヨタ博物館
- R-015
 ルネ・ヴァンサン
 《シャトーにて》
 1913年
 トヨタ博物館
- R-016
 ルネ・ヴァンサン
 《好都合!》
 1913年
 トヨタ博物館
- R-017
 イスパノスイザK6
 1935年製・フランス製
 財団法人 鍋島報効会(トヨタ博物館に寄
 託)
- R-018
 ドゥイエ
 レセプション・ドレス
 1903年頃
 神戸ファッション美術館
- R-019
 シェルイ
 アフタヌーン・ドレス
 1908年頃
 神戸ファッション美術館
- R-020
 キャロ姉妹
 イヴニング・ドレス
 1909年頃
 神戸ファッション美術館
- R-021
 マリアノ・フォルチュニ(1871-1949)
 ドレス《デルフォス》
 1920年代
 藤田真理子氏蔵(P. M. Art Ltd.)
- R-022
 ガブリエル・シャネル(1883-1971)
 デイ・スーツ
 1927年頃
 神戸ファッション美術館

光 松本陽子／野口里佳
出品リスト

1 背景としてⅡ 1982年 アクリリック／カンヴァス 200×200cm	松本陽子	15 光は荒野のなかに拡散しているⅡ 1993年 アクリリック／カンヴァス 188×273cm 愛知県美術館蔵	29 私的光景 2005年 油彩／カンヴァス 200×250cm 神奈川県立近代美術館蔵
3 ペイルシェバの荒野Ⅰ 1987年 アクリリック／カンヴァス 227×182cm 国立国際美術館蔵		16 降下する光Ⅱ 1995年 アクリリック／カンヴァス 250×200cm	30 思考回路Ⅰ 2005年 油彩／カンヴァス 193×259cm 神奈川県立近代美術館蔵
4 自然のなかの形象Ⅶ 1989年 アクリリック／カンヴァス 182×227cm		17 テンベスト 1995年 アクリリック／カンヴァス 250×200cm	31 位相Ⅰ 2005年 油彩／カンヴァス 182×227cm ヒノギャラリー蔵
5 自然のなかの形象Ⅸ 1990年 アクリリック／カンヴァス 182×227cm いわき市立美術館蔵		18 生成と解体 1995年 アクリリック／カンヴァス 193×259cm	32 思考回路 2005年 油彩／カンヴァス 50×60.6cm 個人蔵
6 エフライムの山地Ⅱ 1990年 アクリリック／カンヴァス 200×250cm		19 振動する風景的畫面Ⅳ 1995年 アクリリック／カンヴァス 218.2×290.9cm	33 夜明けの少し前 2006年 油彩／カンヴァス 200×200cm
7 ペイルシェバの荒野Ⅱ 1990年 アクリリック／カンヴァス 200×250cm ふくやま美術館蔵		20 振動する風景的畫面Ⅴ 1995年 アクリリック／カンヴァス 250×200cm	34 思考回路Ⅳ 2006年 油彩／カンヴァス 193×259cm
8 夜Ⅲ 1991年 アクリリック／カンヴァス 250×200cm 東京都現代美術館蔵		21 激しい光の中にⅡ 1995年 アクリリック／カンヴァス 290×218cm	35 光は地平に輝いている 2008年 油彩／カンヴァス 193×259cm
9 ピンクから白への緩慢な流れ 1992年 アクリリック／カンヴァス 190×223cm		22 無題(バイオレット) 1995年 アクリリック／カンヴァス 183×193cm	36 再び生命体について 2008年 油彩／カンヴァス 200×200cm
10 光は闇のなかに輝いている 1992年 アクリリック／カンヴァス 182×227cm		23 境界線の黒 2003年 油彩・木炭・パステル／カンヴァス 162×130cm	37 陰鬱な荒野 2009年 油彩／カンヴァス 200×200cm
11 光は荒野のなかに輝いているⅠ 1992年 アクリリック／カンヴァス 182×182cm		24 生命体についてⅡ 2003年 油彩・木炭・パステル／カンヴァス 162×162cm	38 エチュード 2009年 水彩・パステル・色鉛筆／紙 80.5×117.2cm
12 生命体についてⅠ 1993年 アクリリック／カンヴァス 182×182cm		25 生命体についてⅢ 2003年 アクリリック／カンヴァス 194×260cm	39 エチュード 2009年 水彩・パステル・色鉛筆／紙 80.5×117.2cm
13 光は荒野のなかに輝いているⅡ 1993年 アクリリック／カンヴァス 250×200cm 東京国立近代美術館蔵		26 宇宙エーテル体Ⅰ 2003年 アクリリック／カンヴァス 200×250cm 東京都現代美術館蔵	40 エチュード 2009年 水彩・パステル・色鉛筆／紙 79×108.7cm
14 振動する風景的畫面Ⅲ 1993年 アクリリック／カンヴァス 182×227cm 倉敷市立美術館蔵		27 生命体についてⅣ 2004年 アクリリック／カンヴァス 182×227cm 大川原有重氏蔵	41 エチュード 2009年 水彩・パステル・色鉛筆／紙 79×108.7cm
		28 Atmosphere 2004年 アクリリック／カンヴァス 72.7×90.9cm ヒノギャラリー蔵	42 ドローイング 1995年 木炭・パステル／紙 66×100cm

[凡例]
カタログ番号
作品名
制作年
材質・素材
サイズ
所蔵先

43 ドローイング 1999年 木炭・パステル／紙 66×100cm 植山美代子氏蔵	野口里佳 フジヤマ #1-#15 1997年(#1-#11) 1999年(#12-#15) Cプリント 各95.6×66.9cm(#1, #3, #4, #11-#13) 各66.9×95.6cm(#2, #5-#10, #14-#15) Ed. 5/5 金沢21世紀美術館蔵	マラブ #5 2005年 Cプリント 50×75cm Ed. 1/12 三木啓司氏蔵	星 2009年 ビデオ(島袋道浩との共同制作) 作家協力
44 ドローイング 2005年 木炭・パステル／紙 66×100cm 畑野文夫氏蔵	フジヤマ #16 1997年 Cプリント 214.2×150cm 作家協力	マラブ #10 2005年 Cプリント 50×75cm Ed. 1/12 個人蔵	
45 ドローイング 2005年 木炭・パステル／紙 66×100cm	水をつかむ #2 2001年 デジタルCプリント 150×120cm Ed. 1/5 大林コレクション	マラブ #14 2005年 Cプリント 50×75cm Ed. 1/12 個人蔵	
46 ドローイング 2006年 木炭・パステル／紙 66×100cm	水をつかむ #4 2001年 デジタルCプリント 96×240cm 作家およびギャラリー小柳協力	白い紙 2005年 オフセット印刷 103×145.6cm 作家およびギャラリー小柳協力 技術協力：スタイル プリンティング株式会社	
47 ドローイング 2008年 木炭・パステル／紙 50×66cm	水をつかむ #5 2001年 デジタルCプリント 96×240cm Ed. 1/5 IZU PHOTO MUSEUM	太陽 #1-#14, #16-#18 2005年(#1) 2006年(#2-#14, #16-#18) Cプリント 各40.3×60.3cm Ed. 8/12 曹洞宗 萬亀山東長寺蔵 協力：P3 art and environment	
	飛ぶ夢を見た #1 2003年 Cプリント 96×120cm 作家およびギャラリー小柳協力	太陽 #19-#20, #22-#26, #28-#36 2008年(#19-#20, #22-#26, #28-#35) 2006年(#36) Cプリント 各40.3×60.3cm 作家およびギャラリー小柳協力	
	飛ぶ夢を見た #2 2003年 Cプリント 96×120cm Ed. 3/7 IZU PHOTO MUSEUM	砂漠で #1, #6 2006年(#1) 2007年(#6) Cプリント 各90×90cm 作家協力	
	星の色 #1-#6 2004年 Cプリント 各100×150cm Ed. 4/5 ベネッセアートサイト直島蔵	砂漠で #2-#5, #7-#14 2006年(#2-#3) 2007年(#4-#5, #7-#14) Cプリント 各90×90cm 作家およびギャラリー小柳協力	
	星の色 #8 2004年 Cプリント 100×150cm 作家およびギャラリー小柳協力	無題(アニカ) #2 2007年 Cプリント 187.5×125cm 作家協力	
	マラブ #1 2005年 Cプリント 50×75cm Ed. 3/12 個人蔵	飛ぶ夢を見た2 #1-#6 2009年 Cプリント 各125×187.5cm(#1, #6) 各100×150cm(#2-#5) 作家協力	
	マラブ #2-#3 2005年 Cプリント 各50×75cm Ed. 2/12 IZU PHOTO MUSEUM	日食(武漢) 2009年 Cプリント 150×100cm 作家協力	
	マラブ #4, #11-#13 2005年 Cプリント 各50×75cm 作家およびギャラリー小柳協力	虫と光 #1-#2 2009年 Cプリント 各42×28cm 作家協力	

*作品タイトルは「松本陽子作品集」ヒノ
ギャラリー、2007年に依拠しており、
本来のタイトルとは異なる場合がある。
*Cat.no. 2《背景としてⅢ》1985年、は都
合により出品されていない。

THE ハプスブルク
出品リスト

[凡例]
作家名
作品名
制作年
素材
寸法

1 ハンス・フォン・アーヘン 神聖ローマ皇帝ルドルフ 2 世 1600-03年頃 油彩、カンヴァス 60×48cm	12 ロレンツォ・ロット 聖母子と聖カタリナ、聖トマス 1527-33年 油彩、カンヴァス 116.5×152cm	23 ジョヴァンニ・バッティスタ・モローニ ヤコボ・コンタリーニ(?)の肖像 1570年代 油彩、カンヴァス 105×83.5cm
2 オーストリアの画家 金羊毛騎士団勲章をつけた神聖ローマ皇帝カール 6 世 1720年頃 油彩、カンヴァス 53×43cm	13 ラファエッロ・サンティ 若い男の肖像 1503年頃 油彩、板 54×39cm	24 ヴェロネーゼ(本名パオロ・カリアーリ) ホロフェルネスの首を持つユディット 1580年頃 油彩、カンヴァス 111×100.5cm
3 アンドレアス・メラー 11歳の女帝マリア・テレジア 1727年 油彩、カンヴァス 94×75cm	14 ティツィアーノ・ヴェチェッリオ イル・ブラーヴォ 1515-20年頃 油彩、カンヴァス 77×66.5cm	25 バルトロメオ・パッサロッティ 医師カルロ・フォンタナ 1580年頃 油彩、カンヴァス 82×70cm
4 ヨーゼフ・ヒッケル 軽騎兵連隊の軍服姿の神聖ローマ皇帝 ヨーゼフ 2 世 1785年頃 油彩、カンヴァス 152×115cm	15 ティツィアーノ・ヴェチェッリオ イザベッラ・デステ 1534-36年頃 油彩、カンヴァス 101.8×64.5cm	26 パオロ・フィアミンゴ(本名パウエルス・フランク) 黄金時代の愛 1585-89年 油彩、カンヴァス 160×260cm
5 ヨハン・バプティスト・ランピ(子) オーストリア皇帝フランツ 1 世 1804年頃 油彩、カンヴァス 158×118cm	16 ティツィアーノ・ヴェチェッリオ 聖母子と聖パウロ 1540年代初頭 油彩、カンヴァス 108×96.5cm	27 バルマ・イル・ジョーヴァネ(本名ヤコボ・ネグレッティ) カインとアベル 1603年頃 油彩、カンヴァス 98×123cm
6 フランツ・シュロツベルク オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ 1 世 1865-70年頃 油彩、カンヴァス 124×93cm	17 ティツィアーノ(工房) キリストの埋葬 1565年頃 油彩、カンヴァス 99.5×115.5cm	28 バッティステッロ(本名ジョヴァンニ・バッティスタ・カラッチョロ) オリヴェ山のキリスト 1615-17年頃 油彩、カンヴァス 148×124cm
7 ミハーイ・ムンカーチ ハンガリーの軍服姿の皇帝フランツ・ヨーゼフ 1 世 1896年頃 油彩、カンヴァス 97×71.5cm	18 モレット・ダ・プレーシャ(本名アレックス・サンドロ・ボンヴィチーノ) 男の肖像 1520年頃 油彩、カンヴァス 73.7×56cm	29 ベルナルド・ストロツィ 受胎告知 1643-44年頃 油彩、カンヴァス 145×120cm
8 フランツ・クサファー・ヴィンターハルター オーストリア皇妃エリザベート 1865年 油彩、カンヴァス 216×300cm	19 パリス・ボルドーネ(本名パリス・バスカリヌス・ボルドン) <small>プレッ</small> 寓意: マルス、ヴィーナス、ヴィクトリア、キュービッド 1560年頃 油彩、カンヴァス 111.5×174.5cm	30 グイド・カニヤッチ クレオパトラの自害 1659年以降 油彩、カンヴァス 153×168.5cm
9 ジョルジョーネ(本名ジョルジョ・ダ・カステルフランコ) 矢を持った少年 1505年頃 油彩、板(ポプラ) 48×42cm	20 ティントレット(本名ヤコボ・ロブスティ) 35歳の貴族の肖像(ロレンツォ・ソランツォ) 1553年 油彩、カンヴァス 114×95.5cm	31 ルカ・ジョルダノー 物乞い 1650年頃 油彩、カンヴァス 119×98cm
10 ジョルジョーネ(本名ジョルジョ・ダ・カステルフランコ) フランチェスコ・マリア・デッラ・ローヴェレの肖像(兜を持った少年) 1502年頃 油彩、カンヴァス 73×64cm	21 ティントレット(本名ヤコボ・ロブスティ) オンファレの寝台からファウヌを追いつ出すヘラクレス 1585年頃 油彩、カンヴァス 112×106cm	32 ジョヴァンニ・アントニオ・ブッリーニ オルフェウスとエウリュディケ 1695-1705年頃 油彩、カンヴァス 120×119.5cm
11 ベルナルディーノ・ルイーニ 聖母子と聖エリサベツ、幼い洗礼者聖ヨハネ 1515-20年頃 油彩、板 89×66cm	22 ティントレット(本名ヤコボ・ロブスティ) キリストの笞打ち 1585-90年頃 油彩、カンヴァス 118.3×106cm	33 セバスティアーノ・リッチ ヴィーナスとサテュロス 1716-20年頃 油彩、カンヴァス 102×125.5cm
		34 ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ 聖母と 6 人の聖人 1755-56年頃 油彩、カンヴァス 72.8×56cm

35 ベルナルド・ベロット フィレンツェのシニョリア広場 1742年 油彩、カンヴァス 61×90cm	47 バルトロメウス・スプランゲル ヘルマフロディトスとニンフのサルマキス 1580-82年頃 油彩、カンヴァス 110×81cm	59 アンソニー・ヴァン・ダイク 聖フランチェスコの法悦 1630-32年頃 油彩、カンヴァス 120×97cm	71 ディエゴ・ベラスケス 皇太子フェリペ・プロスペロ 1659年 油彩、カンヴァス 128×99cm
36 アルブレヒト・デューラー 青年の肖像 1500-10年 油彩、板(トウヒ) 42.8×34.5cm(彩色部分 40.3×28.5cm)	48 バルトロメウス・スプランゲル ケレスとバックスがいないとヴィーナス は凍える 1590-95年頃 油彩、カンヴァス 161.5×100cm	60 サロモン・ファン・ライスダール 渡し舟のある川の風景 1644年 油彩、カンヴァス 100×135cm	72 バルトロメ・エステバン・ムリーリョと 工房 幼い洗礼者聖ヨハネ 1650-55年 油彩、カンヴァス 154×108cm
37 アルブレヒト・デューラー 若いヴェネツィア女性の肖像 1505年 油彩、板(ドイツトウヒ) 32.5×24.5cm	49 ハンス・フォン・アーヘン 鏡を持ってぶざげる男女 1596年頃 油彩、銅板 25×20cm	61 レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン 読書する画家の息子ティトウス・ファン・レイン 1665年頃 油彩、カンヴァス 70.5×64cm	73 バルトロメ・エステバン・ムリーリョ 悪魔を奈落に突き落とす大天使ミカエル 1665-68年頃 油彩、カンヴァス 169×110cm
38 アルブレヒト・デューラー ヨハネス・クレーベルガーの肖像 1526年 油彩、板(シナノキ) 37×36.6cm	50 ヤン・ブリュエゲル(父) 森の風景 1605-10年頃 油彩、板(オーク) 40×32cm	62 ダーフィット・テニールス(子) 村への襲撃(農民の苦しみ) 1648年 油彩、カンヴァス 77×114cm	74 バルトロメ・エステバン・ムリーリョ 聖家族と幼い洗礼者聖ヨハネ 油彩、カンヴァス 156×126cm
39 作者不詳(アルブレヒト・デューラーに 似る) バラ冠の祝祭 1606-12年頃 油彩、カンヴァス 160×193cm	51 ルーラント・サーフェリー 動物のいる風景(背景にオルフェウスと トラキアの女たち) 1628年頃 油彩、板(オーク) 35×49cm	63 ヤーコプ・イサークスゾーン・ファン・ ライスダール アムステルダム運河の眺め 1660年代 油彩、カンヴァス 52.5×43.5cm	75 フランシスコ・デ・ゴヤ カバリエーロ侯ホセ・アントニオの肖像 1807年 油彩、カンヴァス 105.5×84cm
40 ルーカス・クラナッハ(父) 聖人と寄進者のいるキリストの哀悼 1515年頃 油彩、カンヴァス 165×123cm	52 ペーテル・パウル・ルーベンス キリスト哀悼 1614年 油彩、板(オーク) 40.5×52.5cm	64 ピーテル・デ・ホーホ 女と子供と使用人 1663-65年頃 油彩、カンヴァス 64×76cm	76 デジデリウス・コルマン・ヘルムシュミ ト(甲冑)ノウルリヒ・ホルツマン(エッ チング) スペイン国王フェリペ2世の騎士甲冑(頭 部彫刻:ボンベオ・レオーニに似る) 1544年 研磨した銅、金と黒の腐食(エッチング)、 真鍮、皮革 総高168cm
41 ルーカス・クラナッハ(父) 洗礼者聖ヨハネの首を持つサロメ 1535年頃 油彩、板(ポプラ) 87×58cm	53 ペーテル・パウル・ルーベンス 悔悛のマグダラのマリアと姉マルタ 1620年頃 油彩、カンヴァス 205×157cm	65 メルヒオール・ドンデクーテル 水鳥 1680年代 油彩、カンヴァス 188×133cm	77 皇帝カール5世のメデューサの盾 1540年頃 鉄、鍛造、金象嵌、黒褐色に着色 直径61cm
42 アルブレヒト・アルトドルファー 聖家族と聖アガピトス 1515年 油彩、板(シナノキ) 22.5×20.5cm	54 ペーテル・パウル・ルーベンスと工房 フィレモンとパウキスの家のユピテルと メルクリウス 1620-25年頃 油彩、カンヴァス 153.5×187cm	66 エル・グレコ(本名ドミニコス・テオト コプロス) 受胎告知 1600年頃 油彩、カンヴァス 91×66.5cm	78,79 古代風歩兵パレード用の兜と円盾 1560-65年頃 鉄、鍛造、彫金、鍍金、金銀象嵌 兜:高34cm 幅23cm 盾:直径60cm
43 ヤーコプ・ザイゼネッカー チロル大公フェルディナントの肖像 1548年 油彩、カンヴァス 184.5×89cm	55 ウィレム・クラースゾーン・ヘーダ ハム、オウムガイのカップ、シャンパン グラス、銀のデカンタのある静物 1654年 油彩、カンヴァス 105×146.5cm	67 ジュゼッペ・デ・リベラー 聖痕を受けるアッシジの聖フランチェスコ 1645-50年 油彩、カンヴァス 255×172cm	80 スペイン国王フェリペ3世 17世紀初頭 ブロンズ、アラバスター、大理石 高31.2cm
44 ヨーハン・リス ホロフェルネスの首を持つユディット 1595-1600年頃 油彩、カンヴァス 126×102cm	56 アンソニー・ヴァン・ダイク(?) 男の肖像 1617-18年頃 油彩、板 66×51cm	68 フランシスコ・デ・スルバラン 聖家族 1659年 油彩、カンヴァス 121.5×97cm	81 スペイン王妃マルガレータ 17世紀初頭 ブロンズ、アラバスター、大理石 高30.5cm
45 ハンス・フレーデマン・デ・フリース 宮殿を散歩する人々 1596年 油彩、カンヴァス 137×174cm	57 アンソニー・ヴァン・ダイク ヤン・ファン・モントフォルトの肖像 1628年頃 油彩、カンヴァス 114.5×88.5cm	69 ディエゴ・ベラスケス 食卓につく貧しい貴族 1618-19年頃 油彩、カンヴァス 96×112	82 バルタザール・ヘロルト2世(ジェロー ム・デュケノワ(子)に似る) 大公レオポルト・ヴィルヘルム 1657年 ブロンズ 高64cm
46 ハンス・フレーデマン・デ・フリース 宮殿で奏楽する人々 1596年 油彩、カンヴァス 135×174cm	58 アンソニー・ヴァン・ダイク 神父カロルス・スクリバーニの肖像 1629年頃 油彩、カンヴァス 117.5×104cm	70 ディエゴ・ベラスケス 白衣の王女マルガリータ・テレサ 1656年頃 油彩、カンヴァス 105×88cm	83 フランツ・デ・ハミルトン 神聖ローマ皇帝レオポルト1世 1677年(?) 真珠母貝、粘板岩 高34.4cm、幅26.7cm

84
フランツ・デ・ハミルトン
王妃エレオノーレ・マグダレーナ
1677年(?)
真珠母貝、粘板岩
高34.6cm、幅26.6cm

85
ルイ・シリエ
神聖ローマ皇帝フランツ1世、マリア・
テレジアとその子供たち
1755年
縞瑪瑙のカメオ、金の覆輪
高9cm、幅12.5cm

86
ユリウス・カエサルの胸像
17世紀
大理石、銀、鍍金
高20.5cm、幅11.5cm

87
ソクラテスの胸像
17世紀
大理石、アラバスター、ブロンズ、鍍金
高14.1cm、幅10.2cm

88
プラトンの胸像
17世紀
大理石、アラバスター、ブロンズ、鍍金
高14.4cm、幅10.2cm

89
アントニオ・スジーニ(ジャンボローニヤ
の原型に倣う)
ケンタウロスのエウリュティオンを打ち
倒すヘラクレス
原型：1576年
鋳造：1600年頃
ブロンズ
高40.2cm

90
メディチ家のヴィーナス(古代作品に
倣った小像)
17世紀半ば(?)
大理石
高43.1cm

91
ハンス・ハインリヒ・ロレンブツツ2世
「籠を背負った男」としてのサテュロスの
蓋付き酒杯
17世紀前半
ツゲ材、銀、一部鍍金
高23.8cm、幅12cm

92
レオンハルト・ケルン(?)／ヨーハン・
ヤーコプ・ベッツォルト(?)
眠る少年、書物と頭蓋骨：死の寓意
17世紀後半
アラバスター
幅21cm

93
香炉
1530-40年頃
銀、鍍金
高10.5cm、径22.5cm

94
脚付き大皿
16世紀半ば
銀、鍍金
高7.2cm、径31cm、奥行30.7cm

95
ミハエル・ケーベルリン
ココナッツ脚杯
1568-70年頃
ココナッツ、銀、鍍金
高28.5cm、径13cm

96
オウムガイ脚杯
17世紀前半
オウムガイ、銀
高30.8cm、長16.8cm、幅10.5cm

97
ゲオルク・バルスト
蓋付き脚杯
1630-36年頃
銀、鍍金、真珠母貝
高36.2cm、径12.1cm

98
シャーベット用センターピース
1736-40年頃
二枚貝類、トウカムリガイ、金、貝殻製
カメオ
高37.5cm、幅30.5cm、台径18cm

99
ヒキガエル
1600年頃
サンゴ灰岩
長13cm、幅10.2cm

100
ヴォルフガング・マイア
多面体形赤道式時計
1604年
真鍮、鍍金、鍍銀
高25cm、幅17cm、奥行7cm

101
ラピスラズリの鉢
16世紀第3四半期、粹飾り：1600年頃(?)
ラピスラズリ、銀、鍍金、真珠
高9.9cm、径8.6cm、幅12.6cm

102
オッタヴィオ・ミゼローニ／モノグラム
HCのマイスター
ネプチューン像のある巻貝形鉢
1620年頃
台：1620-30年頃
血玉髓、銀、鍍金
高14.9cm、幅10.7cm、奥行16.3cm

103
オッタヴィオ・ミゼローニ／モノグラム
HCのマイスター
碧玉の二枚貝形鉢
1620-33年頃
碧玉(コサコフ産出)、銀、鍍金
高30cm、幅14cm、奥行19.5cm

104
オッタヴィオ・ミゼローニまたはその兄弟
軟玉の鉢
17世紀第1四半世紀
軟玉
高10.8cm、長22cm、幅12.7cm

105
ディオニシオ・ミゼローニ
通称グロッポの器
1650年頃
煙水晶、焼入れ
高5.4cm、長11.4cm、幅9.4cm

106
ディオニシオ・ミゼローニ
楕円形の深皿
1650年頃
黄水晶
高8cm、長18.5cm、幅10.9cm

107
ディオニシオ・ミゼローニ／ハンス・ラ
インハルト・タラヴェル
煙水晶の花瓶
1652年
煙水晶、銀、鍍金
高21.5cm、幅12.1cm、高6cm

108
ディオニシオ、およびフェルディナント・
オイゼービウス・ミゼローニ
褐色瑪瑙の鉢
1660-70年頃
瑪瑙、銀、鍍金
高8.7cm、長16.8cm、幅11.6cm

109
フェルディナント・オイゼービウス・ミ
ゼローニ
螺子蓋付き瓶
1679-80年頃
水晶、蓋：銀、銀線細工、柘榴石
高23.8cm

110
カストルッチ工房
橋の上にオベリスクのある風景
1610-15年頃
さまざまな種類の瑪瑙、碧玉
縦25.6cm、横31.1cm

111
カストルッチ工房
町の眺めと燃えるような空のある風景
1615-22年頃
瑪瑙、碧玉、角岩
縦21.5cm、幅30cm

112
掛時計
1700年頃
銀、鍍金、紫水晶、碧玉、トルコ石
高60cm、幅50cm

113
ジョヴァンニ・バッティスタ・フォッジー
ニ
貴石象嵌の箱
1700年頃
黒檀材、ブロンズ、鍍金、様々な準貴石
によるコンメツソ(象嵌細工)
高31cm、幅49.8cm、奥行37cm

114
狩野永恵、住吉廣賢、服部雪齋、松本楓
潮、歌川広重(三代)、豊原国周
風俗・物語・花鳥図画帖 2帖
1869年(明治2年)
絹本着色
本紙：縦36.2cm、横30cm
総寸：縦42.3cm、横36.2cm

115
瑞穂蒔絵棚
1869年(明治2年)以前
木製、漆塗、蒔絵
巾89.8cm、奥行き41.7cm、高さ81cm

116
四季花鳥山水蒔絵棚
1869年(明治2年)以前
木製、漆塗、蒔絵
巾64.1cm、奥行き35.2cm、高さ59cm

未来を担う美術家たち
DOMANI・明日展2009
文化庁芸術家在外研修の成果
出品リスト

久保田繁雄	11	11
1	一サヨウナラー 185.2×130.1 TORSO TIME LAPSE 右 2008年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス	上杉裂II (ジャパン・シリーズ) 2006年 木に漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾
Echo of The Ocean II 1975年 ラミー麻、サイザル麻、織物、縫 京都国立近代美術館	12	12
2	一サヨウナラー 227.3×181.8 COBALT ALLEGORY FRAME 2009年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス	能装束II (ジャパン・シリーズ) 2006年 木に漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾
The Wave Space II 1988年 ラミー麻、サイザル麻、織物、縫 東京国立近代美術館	13	13
3	一サヨウナラー 227.3×181.8 PURPLE RED NIGHT No.1 2009年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス	荘厳I 2007年 ボンネットに漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾
The Recurrence I 1994年 ラミー麻、サイザル麻、織物、縫	14	14
4	一サヨウナラー 227.3×181.8 PURPLE RED NIGHT No.2 2009年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス	荘厳II 2007年 ボンネットに漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾
The Wave Space V 2007年 テグス、織物、縫	栗本夏樹	伊庭靖子
5	1	1
Shape of The Red I 2009年 テグス、織物、縫	祈る形III 1993年 乾漆に黒漆塗り	untitled 2008年 油彩、キャンバス eN arts collection
吉仲正直	2	2
1	祈る形IV 1996年 乾漆に朱漆塗り	untitled 2009年 油彩、キャンバス 神奈川県立近代美術館
思弁問 180-1 186.0×186.0 1991年 テンペラ、油彩、麻布	3	3
2	アクレ(パレスチナ・シリーズ) 1997年 木に漆塗り、金・銀・乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 2009年 油彩、キャンバス 神奈川県立近代美術館
思弁問 180-2 186.0×186.0 1991年 油彩、麻布	4	4
3	アンマン(パレスチナ・シリーズ) 1997年 木に漆塗り、金・銀・乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 02-2009 2009年 油彩、キャンバス 辛美沙
語III 202.0×182.0 2000年 テンペラ、油彩、麻布	5	5
4	パレスチナ(パレスチナ・シリーズ) 1998年 FRPに漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 04-2009 2009年 油彩、キャンバス 個人
四つめ 一裏題「春隣」一 2003年 テンペラ、墨、水彩、紙、パネル 個人蔵	6	6
5	草の衣(コリア・シリーズ) 1999年 木に漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 06-2009 2009年 油彩、キャンバス 個人
詠み人知らず肖像 一露拾い一 2003年 テンペラ、紙、パネル	7	7
6	月の衣(コリア・シリーズ) 1999年 木に漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 07-2009 2009年 油彩、キャンバス 個人
一サヨウナラー 130.3×162.0 ARROW BLUE VIOLET 2007年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス	8	8
7	華の衣(コリア・シリーズ) 1999年 木に漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 08-2009 2009年 油彩、キャンバス 個人
一サヨウナラー 200.0×151.0 SOURCE BLUE VIOLET 2007年 アクリル、ガッシュ、麻キャンバス	9	9
8	横縞2005 2005年 ボンネットに漆塗り、乾漆粉蒔絵による加飾	untitled 10-2009 2009年 油彩、キャンバス
一サヨウナラー 200.0×151.0 SOURCE MARS VIOLET 2007年 アクリル、ガッシュ、麻キャンバス	10	10
9	上杉の胸服II 2006年 ボンネットに漆塗り、乾漆粉蒔絵、螺鈿による加飾	untitled 11-2009 2009年 油彩、キャンバス
一サヨウナラー 162.5×195.6 GESSO BLACK 2008年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス		
10		
一サヨウナラー 185.2×130.1 TORSO TIME LAPSE 左 2008年 アクリル、ガッシュ、綿キャンバス		

[凡例]
作家名
No.
作品タイトル
制作年
素材・技法
所蔵先

11
untitled 12-2009
2009年
油彩、キャンバス

12
untitled 13-2009
2009年
油彩、キャンバス

13
untitled 14-2009
2009年
油彩、キャンバス

安田佐智種

1
Flying #7
2005年
C-print

2
Flying #20
2006年
C-print

3
Flying #25
2007年
C-print

4
Flying #26
2007年
C-print

5
Flying #27
2007年
C-print

6
Flying #28
2008年
C-print

7
Flying #30
2008年
C-print

8
Flying #31
2008年
C-print

9
Flying #35
2009年
C-print
財団法人セゾン現代美術館

吉田暁子

1
睽離(とり)
2001年
岩絵具、膠、アクリル、墨、漆様塗料、
部屋の中の変わる光、トレーシングペー
パー、紗、厚みの異なるウッドパネル50
枚 1組、霧雨が月(桃色)、南海諸島(水色)
各25枚、計100枚1組
岡崎邦夫

2
視遠離(みどり)
2001年
岩絵の具、膠、アクリル、厚みの違う歪
んだキャンバス

3
矢間名離(やまなり)
2001年
岩絵の具、膠、アクリル、(当時の)壁と
同じ塗料、パネル

4
人の継ぐ 揺り椅子
2009年
ミクストメディア

5
筆致・断絶一地に継ぐ 垂れ梅、天へ継
ぐ 木蓮、空を継ぐ 楓
2009年
ミクストメディア

磯崎真理子

1
Small red flowers
2009年
テラコッタ、彩色

2
Big Seed - 1
2009年
ファイバーグラス

3
Big Seed - 2
2009年
ファイバーグラス

4
Big bud - 1
2009年
ファイバーグラス

5
Big bud - 2
2009年
ファイバーグラス

6
Big flower - 3
2009年
ファイバーグラス

7
Big flower - 4
2009年
ファイバーグラス

8
Been - M6
2009年
ファイバーグラス

9
Been - M8
2009年
ファイバーグラス

呉亜沙

1
My position —in your eyes—
2005年
油彩、キャンバス
個人

2
My position —public bath—
2005年
油彩、キャンバス

3
My position —life drops—
2005年
油彩、キャンバス

4
My position —return to Tokyo tower—
2005年
油彩、キャンバス

5
explorer
2007年
紙、紙粘土、木、アクリル、パチンコ玉、
綿
佐藤美術館(4点のうち1点)

6
"the SETTING" 稲田堤 一丸三荘と梨畑—
2007年
油彩、綿布
佐藤美術館(寄託)

7
"the SETTING" 芝浦 一私のアトリエ—
2007年
油彩、綿布
佐藤美術館(寄託)

8
"the SETTING" NY・Astoria 一空の向
こうの1年—
2007年
油彩、綿布
佐藤美術館

9
"the SETTING" 富士・石坂 一茶畑と
富士山—
2007年
油彩、綿布
佐藤美術館(寄託)

10
skin
2007年
油彩、キャンバス
個人

11
floating letter
2007年
アクリル、和紙
(株)クラム・アート

12
absence
2009年
油彩、キャンバス
(株)ダブル・ラック

13
樹海
2009年
油彩、キャンバス
宮内正幸

14
my whereabouts
2009年
油彩、キャンバス

15
pairs
2009年
油彩、キャンバス

三田村光土里

1
Art & Breakfast 一シャンデリア—
2008年
アクリル、ワイングラス、本

2
彼女のドレスの紫の花
2008年
ビデオ・インスタレーション

3
Rondo-N 一Bunny's whisper—
2008年
ビデオ・インスタレーション

浅見貴子

1
精 2001.1
2001年
墨、胡粉、銀箔(裏)、膠、樹脂膠、パネ
ルに麻紙

2
精 2003
2003年
墨、胡粉、水干、膠、樹脂膠、パネルに
麻紙

3
脈 0701
2007年
墨、胡粉、樹脂膠、パネルに麻紙

4
Pine Tree
2008年
墨、胡粉、樹脂膠、パネルに麻紙

5
梅に楓図
2009年
墨、胡粉、樹脂膠、パネルに麻紙

6
柿の木 1
2009年
墨、顔料、膠、樹脂膠、パネルに麻紙

7
柿の木 2
2009年
墨、胡粉、膠、樹脂膠、パネルに麻紙

8
柿の木 3
2009年
墨、胡粉、膠、樹脂膠、パネルに麻紙

高野浩子

1
雲の依代
2004年
テラコッタ、石膏
因業屋

2
想う人—記憶の中へ—
2006年
テラコッタ
個人

3
想う人—夢の中の図書館—
2006年
テラコッタ、石膏
財団法人笠間日動美術館

4
「旅と神話」についての連作
2007-2008年
アクリル、漆喰、紙(カルトウチーノ
テラート)、アクリル他
ギャラリー アートれい(連作のうち1点)

5
想う人—モテットが聞こえる—
2008年
テラコッタ
galleria ACCa

6
思い出についてIV
2009年
テラコッタ、木、石膏

7
想う人—楽しみを希う心—
2009年
テラコッタ、石膏

藤原彩人

1

Soliloquy

2006年

陶(1250°C高温烧成、下絵具、透明釉、
又カ白釉)

2

shooting star #1,2,3

2007年

陶(1250°C高温烧成、下絵具、石灰釉)

3

Gossipers

2009年

陶(1250°C高温烧成、透明釉、銀彩仕上)

4

Swimming Woman

2009年

陶(1250°C高温烧成、下絵具、石灰釉)

5

Residential Zone

2009年

陶(1250°C高温烧成、黒釉、金彩仕上)

6

Lost child

2009年

陶(1250°C高温烧成、透明釉、銀彩仕上)

ルノワール—伝統と革新
出品リスト

第I章—ルノワールへの旅

- 1
パリ郊外、セーヌ河の洗濯船
1871年
油彩／カンヴァス
46.4×55.9cm
諸橋近代美術館
- 2
新聞を読む、クロード・モネ
1872年
油彩／カンヴァス
61.0×51.0cm
マルモッタン美術館
- 3
アンリオ夫人
1876年頃
油彩／カンヴァス
65.9×49.8cm
ワシントン・ナショナル・ギャラリー
- 4
ジョルジュ・リヴィエール
1877年
油彩／セメント
36.8×29.3cm
ワシントン・ナショナル・ギャラリー
- 5
読書するふたり
1877年
油彩／カンヴァス
32.8×24.8cm
群馬県立近代美術館
- 6
テオドール・ド・バンヴィルの肖像
1879年
コンテ／紙
30.0×23.2cm
財団法人 長島美術館
- 7
麦わら帽子を被った女
1880年
油彩／カンヴァス
50.0×61.0cm
北九州市立美術館
- 8
団扇を持つ若い女
1879-1880年頃
油彩／カンヴァス
65.0×54.0cm
クラーク美術館
- 9
アルジェリアの娘
1881年
油彩／カンヴァス
50.8×40.6cm
ボストン美術館
- 10
シャトゥーのセーヌ河
1881年
油彩／カンヴァス
73.3×92.4cm
ボストン美術館
- 11
ロバに乗ったアラブ人たち
1881/1882年頃
油彩／カンヴァス
55.1×65.6cm
ポーラ美術館
- 12
エスタックのオリーブ畑
1882年
油彩／カンヴァス
37.0×66.0cm
丸紅株式会社

- 13
ブーヅヴァルのダンス
1883年
油彩／カンヴァス
181.9×98.1cm
ボストン美術館
- 14
湖畔の風景
1889年頃
油彩／カンヴァス
66.2×76.0cm
ロンドン・ナショナル・ギャラリー
- 15
エッソワ付近の風景
1892年
油彩／カンヴァス
46.5×55.0cm
パーゼル美術館
- 17
ジュリー・マネの肖像
1894年
油彩／カンヴァス
55.5×46.5cm
マルモッタン美術館
- 18
胸に花を飾る少女
1900年頃
油彩／カンヴァス
55.0×46.7cm
熊本県立美術館
- 19
エッソワの風景、早朝
1901年
油彩／カンヴァス
46.8×56.3cm
ポーラ美術館
- 20
クロード・ルノワールの肖像
1902年
油彩／カンヴァス
40.0×31.0cm
川村記念美術館
- 21
モーリス・ドニ夫人
1904年
油彩／カンヴァス
54.0×45.0cm
諸橋近代美術館
- 22
カーニュの風景
1905年
油彩／カンヴァス
24.2×31.2cm
ポーラ美術館
- 24
ロダンの肖像
1914年頃
リトグラフ／紙
53.0×46.5cm
大原美術館
- 25
母と子(ピエール=オーギュスト・ルノ
ワールとリシャール・ギノとの共作)
1916年
ブロンズ
54.6×20.3×21.5cm
フィリップス・コレクション
- 26
闘牛士姿のアンプロワーズ・ヴォラール
1917年
油彩／カンヴァス
103.0×83.0cm
日本テレビ放送網株式会社

- 27
風景
制作年不詳
油彩／カンヴァス
24.6×32.5cm
ポーラ美術館
- 28
風景
制作年不詳
油彩／カンヴァス
23.7×44.5cm
ポーラ美術館
- 29
自筆書簡
1914年
インク／紙
16.5×21.8cm
ポーラ美術館(ポーラ・コレクション)

第II章—身体表現

- 30
岩の上に座る浴女
1882年
油彩／カンヴァス
54.0×39.0cm
マルモッタン美術館
- 31
椅子に座る女
1883年頃
木炭と黒鉛／オフホワイトの上質紙
36.2×31.0cm
シカゴ美術館
- 32
麦わら帽子の少女
1885年
油彩／カンヴァス
48.0×37.0cm
呉市立美術館
- 33
浴女
1887年
油彩／カンヴァス
43.2×27.1cm
クラーク美術館
- 34
水のなかの裸婦
1888年
油彩／カンヴァス
81.3×65.4cm
ポーラ美術館
- 35
水浴する女
1891年
油彩／カンヴァス
80.9×65.6cm
川村記念美術館
- 37
横たわる裸婦
1906年
エッチング／紙
13.9×19.9cm
コートールド美術館
- 38
花飾りの女
1906-1919年
油彩／カンヴァス
53.0×45.5cm
和泉市久保惣記念美術館
- 39
帽子の娘
1910年
油彩／カンヴァス
52.0×39.5cm
損保ジャパン東郷青児美術館

[凡例]
Cat.no.
作品名
制作年
技法／素材
サイズ
所蔵先

40 泉 1910年頃 油彩／カンヴァス 91.5×73.8cm 岐阜県美術館	52 テレーズ・ベラルー 1879年 油彩／カンヴァス 55.9×46.8cm クラーク美術館	65 薔薇 1910年 油彩／カンヴァス 46.5×55.5cm MOA美術館	80 花飾りのある帽子 1897年 リトグラフ／紙 60.0×48.0cm 財団法人 池田20世紀美術館
41 泉による女 1914年 油彩／カンヴァス 92.0×73.5cm 大原美術館	53 本を持つ少年 1879年 油彩／カンヴァス 61.3×46.0cm (株)リソー教育(TOMAS)	66 イチゴのある静物 1914年 油彩／カンヴァス 24.4×44.8cm ブルックリン美術館	81 赤い服の女 1892年頃 油彩／カンヴァス 65.4×54.5cm 東京富士美術館
42 すわる水浴の女 1914年 油彩／カンヴァス 55.0×44.2cm 石橋財団ブリヂストン美術館	54 縫い物をする若い女 1879年 油彩／カンヴァス 61.5×50.3cm シカゴ美術館	67 ローヌの腕に飛び込むソーヌ 1915年 油彩／カンヴァス 102.3×84.8cm 松岡美術館	82 バラ色の服を着たコロナ・ロマノの肖像 1912年頃 油彩／カンヴァス 41.0×33.5cm 鹿児島市立美術館
43 勝利のヴィーナス 1914-1915年頃 パステル／紙 161.7×104.0cm 個人蔵	55 タンホイザーの舞台(第1幕) 1879年 油彩／カンヴァス 50.0×135.0cm 個人蔵	68 静物 制作年不詳 油彩／カンヴァス 46.5×55.5cm オルセー美術館	83 水浴の後 1915年 油彩／カンヴァス 38.8×50.5cm ポーラ美術館
44 勝利のヴィーナスのトルソ (ピエール＝オーギュスト・ルノワール とリシャール・ギノとの共作) 1916年 ブロンズ 57.0×41.0×50.0cm 呉市立美術館	56 タンホイザーの舞台(第3幕) 1879年 油彩／カンヴァス 50.0×135.0cm 個人蔵	69 水差し 制作年不詳 油彩／カンヴァス 18.6×17.9cm ポーラ美術館	84 風景の中の三人 1916年 油彩／カンヴァス 65.3×54.3cm 国立西洋美術館
45 可愛い洗濯女 (ピエール＝オーギュスト・ルノワール とリシャール・ギノとの共作) 1916年 ブロンズ 35.0×32.0×19.0cm コートールド美術館	57 アネモネ 1883-1890年頃 油彩／カンヴァス 46.2×38.1cm ポーラ美術館	第IV章—ファッションとロココの伝統	
47 ヴェールをまとう踊り子 1918年 ブロンズ 63.6×44.5×25.2cm ポーラ美術館	59 ド・ボニエール夫人の肖像 1889年 油彩／カンヴァス 117.0×89.0cm プティ・パレ美術館	70 横たわる半裸の女(ラ・ローズ) 1872年頃 油彩／カンヴァス 29.5×25.0cm オルセー美術館	85 休息 1916-1917年 油彩／カンヴァス 50.3×60.0cm ポーラ美術館
48 裸婦 制作年不詳 油彩／カンヴァス 113.2×85.3cm ポーラ美術館	60 イオカステ(神殿の舞) 1895年 油彩／カンヴァス 94.0×36.0cm 丸紅株式会社	73 水浴の女 1887年 油彩／カンヴァス 81.9×53.0cm ポーラ美術館	
第III章—花と装飾画	61 オイディプス王の主題による装飾パネル のデザイン 制作年不詳 墨／紙 25.5×40.3cm コートールド美術館	74 髪かざり 1888年 油彩／カンヴァス 81.4×57.3cm ポーラ美術館(ポーラ・コレクション)	
49 ルーベンス作「神々の会議」の模写 1861年 油彩／カンヴァス 45.8×83.5cm 国立西洋美術館(梅原龍三郎氏より寄贈)	62 オイディプス王の主題による装飾パネル のデザイン 制作年不詳 墨／紙 31.2×48.3cm コートールド美術館	75 ムール貝採り 1888-1889年頃 油彩／カンヴァス 56.0×46.4cm ポーラ美術館	
50 花瓶の花 1866年頃 油彩／カンヴァス 81.3×65.1cm ワシントン・ナショナル・ギャラリー	63 青いカップのある静物 1900年頃 油彩／カンヴァス 15.2×33.3cm ブルックリン美術館	76 りんご売り 1890年頃 油彩／カンヴァス 65.8×54.5cm クリーブランド美術館	
51 ポール・ムーニエ 1877年頃 油彩／カンヴァス 46.0×38.0cm ラングマツ財団	64 葉と果実の飾りのある若い裸婦 1905年頃 油彩／カンヴァス 131.0×41.3cm アサヒビール株式会社	77 野原で花を摘む娘たち 1890年頃 油彩／カンヴァス 65.1×81.0cm ボストン美術館	
		78 レースの帽子の少女 1891年 油彩／カンヴァス 55.1×46.0cm ポーラ美術館(ポーラ・コレクション)	

平成21年度[第13回]
文化庁メディア芸術祭
出品リスト

growth modeling device David BOWEN アート部門 大賞 インスタレーション 実物 2009	Pa++ern 石橋 素 / 真鍋 大度 アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	ファントム・エキシビション ～ 背骨の ためのマテリアル Steve PAXTON アート部門 推薦作品 インスタレーション 紹介映像 2009
Mr. Lee Experiment Junghwan SUNG (Mr. Lee Experiment 制作チーム代表) アート部門 優秀賞 インタラクティブ 実物 2009	Texmoca 関根 雅人 / 黒田 杏子 アート部門 推薦作品 インタラクティブ 実物 2009	ヘアリング・グロッケン II 川瀬 浩介 アート部門 推薦作品 インスタレーション 実物 2009
Nemo Observatorium Lawrence MALSTAF アート部門 優秀賞 インスタレーション 実物 2009	The Wind Tunnel Louis-Philippe DEMERS / Armin PURKRABEK / Phillip SCHULZE アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	Alone Gerard FREIXES RIBERA アート部門 推薦作品 映像 映像 2008
SEKILALA 志村 諭佳 / 志村 健太郎(SHIMURABROS.) アート部門 優秀賞 映像 映像 2008	Urbanized Typeface : Shibuya08-09 山口 崇洋 アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	Body / Traces Sophie KAHN / Lisa PARRA アート部門 推薦作品 映像 映像 2009
Braun Tube Jazz Band 和田 永 アート部門 優秀賞 パフォーマンス 実物+パフォーマンス 2009	巡礼端末～The Terminal for Pilgrimage 千房 けん輔 / 赤岩 やえ(exonemo) アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	Dry Land Dry Beans 黄川田 勇太 アート部門 推薦作品 映像 映像 2009
F - void sample 魚住 剛 アート部門 奨励賞 インスタレーション 実物 2009	a circular structure for the internal observer 平川 紀道 アート部門 推薦作品 インスタレーション 紹介映像 2008	French Lessons Vanessa LOUZON アート部門 推薦作品 映像 映像 2009
ELEKTROLAB Rachida ZIANI / Dewi DE VREE アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	Box 2 Nika OBLAK / Primož NOVAK アート部門 推薦作品 インスタレーション 実物 2009	grained time 五島 一浩 アート部門 推薦作品 映像 映像 2009
Jamming Gear 菅野 創 / 西郷 憲一郎 アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	Ten Thousand Peacock Feathers in Foaming Acid Evelina DOMNITCH / Dmitry GELFAND アート部門 推薦作品 インスタレーション 紹介映像 2009	Parallel Owen Eric WOOD アート部門 推薦作品 映像 映像 2009
Objects for Our Sick Planet ONG Kian-Peng アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	THE DOOR WANG Jun アート部門 推薦作品 インスタレーション 紹介映像 2009	Realm 1 Part 1 Thomas MOHR アート部門 推薦作品 映像 映像 2008
One Yoon Chung HAN / Erick OH / Gautam RANGAN アート部門 推薦作品 インタラクティブ 紹介映像 2009	ある広さの実例 / An Example For A Certain Extent 坂川 弘太 アート部門 推薦作品 インスタレーション 紹介映像 2009	SOUND NOMADS Ger GER アート部門 推薦作品 映像 映像 2009

[凡例]
作品名
作者名
部門名
賞名
作品形式
展示形態
制作年

Time Out of Place Ruth JARMAN / Joe GERHARDT (Semiconductor) アート部門 推薦作品 映像 2008	ディシディア ファイナルファンタジー ポジション(コスモス/カオス) 鈴木 雅人 / 野村 哲也 アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2008	ハンターギャザラー・カラリスト 竹本 香織 / 山本 雄平 / 小林 茂 アート部門 推薦作品 Web 実物 2009	アサヒ・アート・フェスティバル アサヒ・アート・フェスティバル ウェ ブサイト 制作チーム代表 小川 裕子 エンターテインメント部門 奨励賞 Web PC展示+パネル 2009
boy 鈴川 洋平 アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	Bicycle Built For Two Thousand Aaron KOBLIN / Daniel MASSEY アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	As an artist, I need to rest Sonia CILLARI アート部門 推薦作品 パフォーマンス 紹介映像 2009	Fable II ビーター モリニュー エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 紹介映像 2008
CNJPLUS TEXT 清水 玲 アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	Fredo Viola's The Turn Fredo VIOLA / Cristobal CASTILLA (Aer Visual Studio) / Jose HERNANDEZ (Aer Visual Studio) アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	Common Flowers - Flower Commons 福原 志保 / ゲオアグトレメル(BCL) アート部門 推薦作品 ハイブリッドアート 紹介映像 2009	Headbang Hero Tiago MARTINS / Ricardo NASCIMENTO / Andreas ZINGERLE エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 紹介映像 2009
Home Sweet Home Rubi LEBOVITCH アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	MMIX Nicolas CLAUSS アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	Face visualizer, instrument, and copy 真鍋 大度 アート部門 推薦作品 パフォーマンス 紹介映像+パフォーマンス 2009	LocoRoco 2 河野 力 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2008
Preface of Memory : K's Slides Bo-yun JANG アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	MOONBELL (Selene / Kaguya Lunar Sound) Moonbell with Selene 制作チーム代表 東泉 一郎 アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	the Way Sensing GO + the Way Sensing GO + 制作チーム代表 真鍋 大度 アート部門 推薦作品 ワークショップ / インスタレーション 紹介映像 2009	RACE DRIVER GRID Clive MOODY エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2008
Surface Tensions I and II 西村 吉代 アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	Reconstructing Mayakovsky Iliya SZLIAK / Pelin KIRCA アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	日々の音色 ナカムラ マギコ / 中村 将良 / 川村 真 司 / Hal KIRKLAND エンターテインメント部門 大賞 MV 映像 2009	映像投影型ボードゲーム 一妖威譚— 中前 雄介 / 池村 遥介 / 上野 俊(Y's Interaction) エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 紹介映像 2009
Writing and drawing with moonlight David DOYLE アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	sixtypes 岡田 尚志 アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	NARUTO—ナルト— ナルティメットス トーム NARUTO—ナルト— ナルティメットス トーム 開発チーム代表 松山 洋 エンターテインメント部門 優秀賞 ゲーム 実機体験 2009	ストリートファイターIV 小野 義徳 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009
キリンの絵 池口 友理 アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	Tuvalu Visualization Project 渡邊 英徳 / 遠藤 秀一 アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	電気グルーヴ / Fake It ! 田中 秀幸 エンターテインメント部門 優秀賞 MV 映像 2009	ディシプリン*帝国の誕生 飯田 和敏 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009
「空間生態」2009となみ 加賀谷 武 アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	TYPOGRAFFIT パパ アツシ アート部門 推薦作品 Web PC展示 2009	LOVE DISTANCE 伊藤 直樹 エンターテインメント部門 優秀賞 Web PC展示+紹介映像 2008	ドラゴンクエストIX 星空の守り人 堀井 雄二 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009
収穫 Sari Dote アート部門 推薦作品 静止画 パネル展示 2009	wonderfl build flash online 大塚 雅和 / 片岡 巧(面白法人カヤック) アート部門 推薦作品 Web PC展示 2008	scoreLight Alvaro CASSINELLI / 真鍋 大度 / 栗原 優作 / Alexis ZERROUG エンターテインメント部門 優秀賞 楽器 実物 2009	バイオハザード 5 川田 将央 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009

<p>パタポン2 ドンチャカ♪ 小谷 浩之 / オリート / 飯 淳 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009</p>	<p>INFINITY INFINITY 製作チーム代表 於保 浩介 エンターテインメント部門 推薦作品 映像(VFX, CM) 映像 2009</p>	<p>PEPSI NEX 歌おうぜ! キャンペーン PEPSI NEX 歌おうぜ! キャンペーン制 作チーム代表 牟田 誠 エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2009</p>	<p>夕張夫妻 三寺 雅人 / 西村 直樹 エンターテインメント部門 推薦作品 キャラクター 紹介映像 2008</p>
<p>バンジョーとカズーイの大冒険: ガレー ジ大作戦 バンジョーとカズーイの大冒険: ガレー ジ大作戦 制作チーム代表 マーク ベッ ターリッジ エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2008</p>	<p>OGRE YOU ASSHOLE“ピンホール” モノノカヅエ / ナガタケシ(トーチカ) エンターテインメント部門 推薦作品 MV 映像 2009</p>	<p>play MUJI play MUJI 制作チーム代表 川名 常海 エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2009</p>	<p>Re<ordsレーベル サマタ マサト / 岡村 浩志(Delaware) エンターテインメント部門 推薦作品 アプリケーション 紹介映像 2009</p>
<p>メイドイン俺 「メイドイン俺」開発チーム代表 阿部悟 郎 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009</p>	<p>Set in Solitude Malak QUOTA エンターテインメント部門 推薦作品 映像(VFX, CM) 映像 2009</p>	<p>TOKYO FASHION MAP TOKYO FASHION MAP 制作チーム代 表 清野 信哉 エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2009</p>	<p>YUREX(TM) 柳澤大輔(面白法人カヤック) / 土佐信道 (明和電機) エンターテインメント部門 推薦作品 デジタルガジェット 実物 2009</p>
<p>ラブプラス 内田 明理(KONAMI) エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009</p>	<p>SMAP大移動 澤本 嘉光 / 権八 成裕 エンターテインメント部門 推薦作品 CM 映像 2009</p>	<p>TOKYO GIRLS PARADE TOKYO GIRLS PARADE 制作チーム代 表 朴 正義 エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2009</p>	<p>サマーウォーズ 細田 守 アニメーション部門 大賞 劇場公開 映像+コンテ他 2009</p>
<p>乱戦! ポケモンスクランブル 石原 恒和 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2009</p>	<p>TOWA TEI Mind Wall feat. Miho Hatori 中村 剛 エンターテインメント部門 推薦作品 MV 映像 2009</p>	<p>ZOOGAMI CONTEMPORARY BEER Manuel MUSILLI / Antonio DI BATTISTA エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2009</p>	<p>屋根裏のボムネンカ Jiri BARTA アニメーション部門 優秀賞 劇場公開 映像+コンテ他 2009</p>
<p>レッツタップ 中 裕司 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2008</p>	<p>Wacoal LALAN 09 spring back throw 児玉裕一 / 森本千絵(こだま goen*) エンターテインメント部門 推薦作品 CM 映像 2008</p>	<p>しりとりで人のわを広げよう! shiritori- ring 阿部 晶人 / 望月 かおり エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2008</p>	<p>東京マグニチュード8.0 橋 正紀 アニメーション部門 優秀賞 TV 映像+コンテ他 2009</p>
<p>わがままファッション GIRLSMODE 「わがままファッション GIRLSMODE」 開発チーム代表 山上 仁志 エンターテインメント部門 推薦作品 ゲーム 実機体験 2008</p>	<p>トミカヒーロー レスキューファイアー 岩本 晶 エンターテインメント部門 推薦作品 TV 映像 2009</p>	<p>daruman 松本 麻理(チーム ダルマン) エンターテインメント部門 推薦作品 遊具 紹介映像 2009</p>	<p>The Cable Car Claudius GENTINETTA / Frank BRAUN アニメーション部門 優秀賞 短編 映像+コンテ他 2008</p>
<p>9ways '09 岡 康道 / 麻生 哲朗 エンターテインメント部門 推薦作品 CM 映像 2009</p>	<p>三菱地所 企業広告「想像力会議」篇 森本 千絵 / 田中 秀幸 / 北風 勝 エンターテインメント部門 推薦作品 CM 映像 2008</p>	<p>リアル紙飛行機 田畑 カツノリ エンターテインメント部門 推薦作品 遊具 紹介映像 2009</p>	<p>電信柱エレミの恋 中田 秀人(ソバットシアター) アニメーション部門 優秀賞 短編 映像+コンテ他 2008</p>
<p>BOSS SILKY BLACK 第一楽章 篇 佐々木 宏 / 権八 成裕 / 森本 千絵 エンターテインメント部門 推薦作品 CM 映像 2009</p>	<p>ラストピース 木島恭介編 水野 貴信 エンターテインメント部門 推薦作品 MV 映像 2009</p>	<p>ルミノディスク ルミノディスク 開発チーム代表 知久 正義 エンターテインメント部門 推薦作品 遊具 紹介映像 2009</p>	<p>アニマルダンス 大川原 亮 アニメーション部門 奨励賞 短編 映像+コンテ他 2009</p>
<p>IGNITE Johan DALVQUIST エンターテインメント部門 推薦作品 CM 映像 2009</p>	<p>Cam with me Cam with me 制作チーム代表 本山 敬一 エンターテインメント部門 推薦作品 Web PC展示 2008</p>	<p>ギョロメ星人あらわる! きはら ようすけ エンターテインメント部門 推薦作品 キャラクター 紹介映像 2009</p>	<p>ホッタラケの島～遥と魔法の鏡～ 佐藤 信介 アニメーション部門 推薦作品 劇場公開 映像 2009</p>

CANAAN 安藤 真裕 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	Deadline BANG Yao Liu アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	川旅行 坂元 友介 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	海獣の子供 五十嵐 大介 マンガ部門 優秀賞 ストーリーマンガ 単行本+原画他資料 2009
TO 曾利 文彦 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	FORESTRY 竹内 俊太郎 / 早船 将人(ウッドベッカー) アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2008	センコロール 宇木 敦哉 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	この世界の片隅に こうの 史代 マンガ部門 優秀賞 ストーリーマンガ 単行本+原画他資料 2009
青い花 カサキ ケンイチ アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	HAND SOAP 大山 慶 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2008	ひとりだけの部屋 野山 映 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	へうげもの 山田 芳裕 マンガ部門 優秀賞 ストーリーマンガ 単行本+原画他資料 2009
グイン・サーガ 若林 厚史 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	Lizard Planet 上甲 トモヨシ アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	フォレストン 鈴木 専 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	ヒーローイット アクア ウィスット・ボンニミット マンガ部門 奨励賞 ストーリーマンガ 単行本+原画他資料 2009
スケアクロウマン 竹内 啓雄 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2008	METROPOLIS 水江 未来 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	忘却星の公式 藤田 純平 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	JIN—仁— 村上 もとか マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009
とらドラ！ 長井 龍雪 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2008	No corras tanto (Take it easy) Cesar DIAZ MELENDEZ アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2008	向ヶ丘千里はただ見つめていたのだった 植草 航 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	アオイホノオ 島本 和彦 マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009
ねぎぼうずのあさたろう 池田 洋子 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2008	Organic こづつみPON アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	虫歯鉄道—Cavity Express— 武藤 健司 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	うさぎドロップ 宇仁田 ゆみ マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009
のだめカンタービレ 巴里編 今 千秋 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	The Fitting Dance Javier VILLEGAS アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	目覚め 徳井 伸哉 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	駅から5分 くらもちふさこ マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009
東のエデン 神山 健治 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	URS Moritz MAYERHOFER アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	フジログ 七字 重雄 アニメーション部門 推薦作品 web 映像 2009	おやすみブンブン 浅野 いにお マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009
亡念のザムド 宮地 昌幸 アニメーション部門 推薦作品 TV 映像 2009	鬼警部アンパン 和田 敏克 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	ヴィンランド・サガ 幸村 誠 マンガ部門 大賞 ストーリーマンガ 単行本+原画他資料 2009	かむろば村へ いがらし みきお マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009
Coal Story Li Jie アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	家族デッキ 村田 朋泰 アニメーション部門 推薦作品 短編 映像 2009	イムリ 三宅 乱丈 マンガ部門 優秀賞 ストーリーマンガ 単行本+原画他資料 2009	河内遙時代短編集 チルヒ 河内 遙 マンガ部門 推薦作品 ストーリーマンガ 単行本 2009

機動戦士ガンダム THE ORIGIN
安彦 良和
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

きのう何食べた？
よしなが ふみ
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

侍っ子
関谷 ひさし
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

少女ファイト
日本橋 ヨロコ
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

少女漫画
松田 奈緒子
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

新・自虐の詩 一口ボット小雪ー
葉田 良家
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

前夜祭
小田 扉
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

それでも町は廻っている
石黒 正教
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

デボネア・ドライブ
朝倉 世界ー
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

夏目友人帳
緑川 ゆき
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

未来歳時記 バイオの黙示録
諸星 大二郎
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

ラウンダバウト
渡辺 ベコ
マンガ部門
推薦作品
ストーリーマンガ
単行本
2009

Thank you!! ポスター
はまの ゆか
マンガ部門
推薦作品
コママンガ
実物
2009

こどものころから
光用 千春
マンガ部門
推薦作品
コママンガ
実物
2009

セミ玄人的着物道
平松 昭子
マンガ部門
推薦作品
コママンガ
実物
2009

ヘタリア Axis Powers
日丸屋 秀和
マンガ部門
推薦作品
コママンガ
実物
2009

天の青地の緑 子供たち(モンゴル滞在記
シリーズ1~5)
松本 るい
マンガ部門
推薦作品
自主制作マンガ
実物
2009

鳥居deマンガ200点
山口 マサル
マンガ部門
推薦作品
自主制作マンガ
実物
2009

煩惱美人図鑑
寺田 めぐみ
マンガ部門
推薦作品
自主制作マンガ
実物
2009

木版漫画集 文學
藤宮 史
マンガ部門
推薦作品
自主制作マンガ
実物
2009

2K 庭付き 幽霊憑き
遠山 曜 / 傘下 逆
マンガ部門
推薦作品
Webマンガ
PC展示
2009

ドライアイ日記 ドライアイ婦人の治療
の日々
中尾 孝年(作) / 池田 理代子(画)
マンガ部門
推薦作品
Webマンガ
PC展示
2009

ホントカナントカ
かんだ ゆうすけ
マンガ部門
推薦作品
Webマンガ
PC展示
2008

こころ部(なのでく / ケータイ恐怖劇場)
紙本 亜矢美 / スメリー(作・画) / 服部
元信(作・画)
マンガ部門
推薦作品
携帯マンガ
出力展示
2008

ラス☆チル〜昭和最後のコドモ〜
うだ ひろえ
マンガ部門
推薦作品
携帯マンガ
携帯電話実物展示+出力展示
2009

メモマンガ
にゃおぞ
マンガ部門
推薦作品
その他
実物
2008

宮本 茂
功労賞
ゲームクリエイター
映像+実機+コンテ他

金田 伊功
特別功労賞
アニメーター
映像+コンテ+描画道具他資料

アーティスト・ファイル2010
—現代の作家たち
出品リスト

福田尚代 | FUKUDA Naoyo

1
《不忍 蜘蛛の糸》
1992年
インク、アクリル絵具/パネル
183×430cm
作家蔵

2
《浮島》
2002-2010年
けしごむ、針、糸、紙
サイズ可変
けしごむに彫刻シリーズ2点による

2-1
《けしごむの夜「子供の情景」》
個人蔵

2-2
《漂着物》
作家蔵

3
《翼あるもの／会話》
2003-2010年
折り込まれた本(54点)
サイズ可変
作家蔵

4
《苔の小路から雪の窪地へ》
2003-2007年
本に刺繍
サイズ可変
本に刺繍シリーズ53点による

4-1
《「エミリーはのぼる」》
うらわ美術館蔵

4-2
《「ナイン・ストーリーズ」》
うらわ美術館蔵

4-3
《冬眠》
うらわ美術館蔵

4-4
《「幸福な王子」》
牧野伊三夫氏蔵

4-5
《「白雪姫」》
個人蔵

4-6
《「宝島」》
個人蔵

4-7
《「秘密の花園」》
個人蔵

4-8
《「西瓜糖の日々」》
個人蔵

4-9
《「停電の夜に」》
個人蔵

4-10
《「マイ・ロスト・シティ」》
當津裕美子氏蔵

4-11
《「朗読者」》
個人蔵

4-12
《「メルヘン」》
個人蔵

4-13
《「森の小道」》
個人蔵

4-14
《「アンナ・カレーニナ」》
個人蔵

4-15
《「結ばれ」》
個人蔵

4-16
《「エミリー・ディキンソンは死んだ」》
個人蔵

4-17
《「火星年代記」》
個人蔵

4-18
《「夏への扉」》

4-19
《「結晶世界」》

4-20
《「宇宙の孤児」》

4-21
《「ソラリスの陽のもとに」》

4-22
《「地球の長い午後」》

4-23
《「海底二万里」》

4-24
《「夏への扉」#02》

4-25
《「人魚とビスケット」》

4-26
《「ロビンソン漂流記」》

4-27
《「十五少年漂流記」》

4-28
《「蠅の王」》

4-29
《「そして誰もいなくなった」》

4-30
《「谷間の百合」》

4-31
《「秘密の谷」》

4-32
《「ジェーン・エア」》

4-33
《「おやゆび姫」》

4-34
《「ナイチンゲールとばらの花」》

4-35
《「大工よ、屋根の梁を高く上げよ シー
ムーア一序章一」》

4-36
《「ナイン・ストーリーズ」#02》

4-37
《「ベアト・アンジェリコの翼あるもの」》

4-38
《「水晶」》

4-39
《「オリエント急行の殺人」》

4-40
《「ヘビトンボの季節に自殺した5人姉妹」》

4-41
《「美しい町の残酷な死」》

4-42
《「私にはそれを理解することができない」》

4-43
《「ちょうどあの真中のところへ」》

4-44
《「あのウズラはわたしに似ている」》

4-45
《「ちぎれちぎれになった信仰／雪のすべ
ても 夏のすべても／髪のもも ふたつ
の目も」》

4-46
《「雪の中の巡礼」》

4-47
《「無関心な蓮」》

4-48
《「まっすぐな美しさ」》

4-49
《「タマネギのとうめいインクか、あんご
うで、へんじちょうだい、すぐに。」》

4-50
《「過去」》

4-51
《「托鉢」》

4-52
《「雪」》

4-53
《「私を、イリスをさがして下さい。」》

*4-18～53：作家蔵

5
《「佇む人たち」》
2003-2004
本に彫刻
サイズ可変

5-1
《「佇む人たち」》
2004年
本に彫刻
15.3×86×10.7cm
うらわ美術館蔵

5-2
《「佇む人」》
2003年
本に彫刻
15.1×2×10.7cm
うらわ美術館蔵

5-3
《「佇む人「宮沢賢治詩集」》
2004年
本に彫刻
15×2×11cm(外寸)
個人蔵

5-4
《「佇む人「一千一秒物語」》
2004年
本に彫刻
15×2×11cm(外寸)
個人蔵

[凡例]
カタログ番号
《作品タイトル》
制作年
寸法
素材・技法
所蔵

* シリーズ名はくゝで記した

5-6 《佇む人『吾輩は猫である』》 2004年 本に彫刻 15×2×11cm(外寸) 奥村綱雄氏蔵	8-2 《葉書#2/1989年 夏/女友達》 2008年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 作家蔵	11 豆本三部作より《書物の銀河》 2009年 本に刺繍 21.5×14.5×1.5cm 作家蔵	4 《アトリエ》 2008年 油彩/カンヴァス 194×259cm 個人蔵
5-7 《佇む人『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』》 2004年 本に彫刻 15×2×11cm(外寸) 個人蔵	8-3 《葉書#3/1989年 夏/女友達》 2009年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 作家蔵	12 豆本三部作より《書物の陽光》 2009年 本に刺繍 21.5×14.5×1.5cm 作家蔵	5 《詩人の庭2》 2008年 油彩/カンヴァス 194×259cm 石鍋博子氏蔵
5-8 《佇む人『にぎりえ・たけくらべ』》 2010年 本に彫刻 15×0.6×11cm(外寸) 作家蔵	8-4 《葉書#4/ from : white polar life》 2009年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 個人蔵	13 豆本三部作より《書物の雲》 2009-2010年 本に刺繍 21.5×14.5×1.5cm 作家蔵	6 《Vienetta》 2009年 油彩/カンヴァス 181.8×227.3cm 野沢宜巳氏蔵
5-9 《佇む人『三好達治詩集』》 2010年 本に彫刻 15×0.7×11cm(外寸) 作家蔵	8-5 《葉書#5/1977年 夏/従姉妹》 2009年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 作家蔵	14 《雪と蜘蛛》 2010年 壁面に回文	7 《光の毒》 2009年 油彩/カンヴァス 181.8×259cm 作家蔵
6 《言葉の精霊》 2009年 文庫本カバー 14.7×11×10cm(各) 作家蔵	8-6 《葉書#6/1978年 冬/従姉妹》 2009年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 作家蔵	15 《『寡婦と香草』》 2009-2010年 活版印刷された回文 * Nos.6-4、6-8は欠番	8 《Dance Lesson》 2009年 油彩/カンヴァス 181.8×227.3cm 田口コレクション
6-1 《言葉の精霊『尼僧の告白』》	8-7 《葉書#7/1980年 冬/従姉妹》 2009年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 作家蔵	石田尚志 ISHIDA Takashi	9 《ダ・ヴィンチの月》 2009年 油彩/カンヴァス 145.5×227.3cm 作家蔵
6-2 《言葉の精霊『或る少女の死まで』》	8-8 《葉書#8/1979年 冬/従姉妹》 2010年 郵便物に刺繍 14.7×10cm 作家蔵	1 《海坂の絵巻》 2007年 墨、紙、DVD 30×900cm 作家蔵	10 《女と赤い壺》 2009年 油彩/カンヴァス 91×72.7cm 作家蔵
6-3 《言葉の精霊『桜の園』》	8-9 《便箋#1/1981年 秋/先輩》 2009年 郵便物に刺繍 25.3×17.7cm 作家蔵	2 《海の壁—生成する庭》 2007年 3チャンネル・ビデオ(カラー、サウンド、6分) 横浜美術館/東京都写真美術館/豊田市美術館蔵 * 当館における展示作品は作家蔵	11 《夜の壺》 2009年 油彩/カンヴァス 91×72.7cm 作家蔵
6-5 《言葉の精霊『あかい花』》	8-10 《封筒#1/1976年 冬/幼友達》 2009年 郵便物に刺繍 19×18.5cm 作家蔵	3 《REFLECTION》 2009年 HD camビデオ 作家蔵	12 《金つぎ地図のある壺》 2009年 油彩/カンヴァス 91×72.7cm 作家蔵
6-6 《言葉の精霊『阿部一族』》	8-11 《カード#1/1990年 夏/ロードス島》 2009年 カードに刺繍 6.5×10cm 作家蔵	4 《色の波の絵巻》 2010年 インク、紙、HDビデオ 55×900cm 作家蔵	13 《星の壺》 2009年 油彩/カンヴァス 91×72.7cm 作家蔵
6-7 《言葉の精霊『妾の半生涯』》	9 《書物の魂 或いは雲》 2003-2010年 切り離し、脱色してほぐした本の葉紐 サイズ可変 作家蔵	桑久保 徹 KUWAKUBO Toru	14 《女と緑の壺》 2009年 油彩/カンヴァス 91×72.7cm 作家蔵
6-9 《言葉の精霊『美と崇高との感情性に関する観察』》	10 《書物の骨》 2003-2010年 切りとられた文庫本の背表紙 サイズ可変 作家蔵	1 《Life of Pink Sand Beach》 2007年 油彩/カンヴァス 162×130cm 個人蔵	15 《アボカドと壺》 2009年 油彩/カンヴァス 91×72.7cm 作家蔵
7 《巡礼/名刺》 2008-2010年 名刺に刺繍(100点) サイズ可変		2 《女たちと白い箱》 2008年 油彩/カンヴァス 181.8×227.3cm 作家蔵	
#094 : 2009年 5.5×9cm 個人蔵 #095 : 2009年 5.5×9cm 個人蔵 #096 : 2009年 6.3×8.8cm 個人蔵 #001-007、009-011、013-082、084-093、097-101 : 2008-2010年 5.5×9cm 作家蔵		3 《冬と海と雲園》 2008年 油彩/カンヴァス 181.8×227.3cm エド ブローガン氏蔵	

16
《首飾りの壺》
2009年
油彩/カンヴァス
91×72.7cm
作家蔵

17
《鳥の壺》
2009年
油彩/カンヴァス
91×72.7cm
作家蔵

18
《オレンジと白い壺》
2009年
油彩/カンヴァス
91×72.7cm
作家蔵

19
《帰宅の壺》
2009年
油彩/カンヴァス
91×72.7cm
作家蔵

アーノウト・ミック | Aernout MIK

1
《浸透と過剰》
2005年
ビデオ・インスタレーション、デジタル
ビデオ・データ/ハードドライブ、仮設
造作物
協力：作家/カーリー・ゲバウアー、ベル
リン

共同製作：InSite_05、サンディエゴ/ティ
ファナ
製作：アンカ・ムンテアヌ・リミニク/
InSite_05
共同監督：マルジョレーヌ・ポーンスト
ラ

プロダクション・デザイン：エルシー・デ
ブルーイン
カメラ：ベニート・ストラランジョ
色調整：パトロ・ファン・レーウエン
セット写真：フローリアン・ブラウン

2
《タッチ、ライズ・アンド・フォール》
2008年
2面スクリーンによるビデオ・インスタ
レーション、デジタルビデオ・データ/
ハードドライブ、仮設造作物
協力：作家/カーリー・ゲバウアー、ベル
リン

製作：ディルク・トルマン(ジェリアー
& シャーフ、アムステルダム)/アルネ・
ヴァインガルト(ベルリン)
配役：アンカ・ムンテアヌ・リミニク
共同監督：マルジョレーヌ・ポーンスト
ラ
プロダクション・デザイン：エルシー・デ
ブルーイン

カメラ：ベニート・ストラランジョ/イス
トヴァン・イムレ
セット写真：カール・ボンガルツ

南野 馨 | MINAMINO Kaoru

1
《Untitled 0803》
2008年
陶
94×413×83cm
作家蔵

2
《Untitled 1001》
2010年
陶
125×805×70cm
作家蔵

O JUN | O JUN

1
《無題》
1982年
油彩/麻
45.5×38cm

2
《原理の肖像》
1986年
オイルスティック/ジュート
200×124cm

3
《桃》
1990年
アクリル/綿布
41.5×33cm

4
《家》
1991年
アクリル/綿布
200×150cm

5
《無題》
1994年
アクリル/綿布
20.5×24cm

6
《無題》
1994年
顔料/綿布
30×27.5cm

7
《家》
1994年
顔料/綿布
37×37cm

8
《家・アンテナ》
1994年
顔料/綿布
30×23cm

9
《O.T.》
1994年
顔料/綿布
80×60cm

10
《フラフープ・家》
1994年顔料/綿布
50×40cm

11
《haus》
1994年
顔料/綿布
160×115cm

13
《性的人々》
1997-1998年(7点組のうち4点出品)

13-1
《彼の家Ⅰ》
1997-1998年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

13-2
《彼の家Ⅱ》
1997-1998年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

13-3
《仕切》
1997-1998年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

13-4
《富士・蛇・乙女》
1997-1998年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

14
《彼女の軍隊—小児の夢の仔》
1998年(9点組のうち4点出品)

14-1
《光景図—宮城と一輪車》
1998年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

14-2
《光景図—陰の光》
1998年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

14-3
《アプレ・ゲールⅠ》
1998年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

14-4
《アプレ・ゲールⅡ》
1998年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

15
《スボン》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

16
《スカート》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

17
《4枚のビスケット》
1999年
鉛筆/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

18
《日の出図》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
115×115×5cm
個人蔵

19
《入り日図》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
115×115×5cm
個人蔵

20
《軒下》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
73×73×4cm

21
《靴下》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
73×73×4cm
個人蔵

22
《冢紋》
1999年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
73×73×4cm

23
《校章》
1999年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
72×72×4cm

24
《日ノ出図》
2000年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
115×115×5cm

25
《不二にコップ》
2000年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
76×76×4cm

26
《入り日図》
2001年
鉛筆/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

27
《日照図》
2001年
クレヨン/紙/ガラス、鉄
170×119×5cm

28
《日暮れて振る旗の図》
2001年
グアッシュ/紙/ガラス、鉄
115×115×5cm

29
《日と校章図》
2001年
鉛筆、クレヨン/紙/ガラス、鉄
72×72×4cm

30
《船・水平図》
2002年
鉛筆/紙/ガラス、鉄
119×170×5cm

31
《子供部屋増築の図—動産》
2002年
鉛筆、クレヨン/紙/ガラス、鉄
340×480×5cm

32
《りある丸》
2002年
油彩/カンヴァス
72.5×72.5cm

33
《サマー・パケーション》
2002-2003年
顔料、クレヨン、鉛筆、色鉛筆/紙/
ガラス、鉄
351×531×5cm

34
《マリーの目・洞爺丸》
2003年
油彩/カンヴァス
72.5×72.5cm
カサヤの森現代美術館蔵

35
《雲後晴》
2003年
油彩/カンヴァス
72.5×72.5cm

36
《霧》
2003年
油彩/カンヴァス
74×74cm

37 《雲後晴》 2003年 油彩/カンヴァス 72.5×72.5cm	44-7 《焼き菓子・首》 2006年 鉛筆、顔料、クレヨン/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm	44-21 《津波に注意！》 2007年 鉛筆、クレヨン/紙/ガラス、鉄 76×76×4cm	57 《水金地火木・高》 2008年 油彩/カンヴァス 91×91cm
38 《納屋・落雷》 2003年 油彩/カンヴァス 65×65cm カサヤの森現代美術館蔵	44-8 《脳見運転》 2006年 水彩絵具、鉛筆、岩絵具/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm	45 《焚火》 2006年 油彩/カンヴァス 91×91cm	58 《渡河》 2008年 油彩/カンヴァス 91×91cm
39 《投身・雪》 2003年 油彩/カンヴァス 72.5×61cm	44-9 《動物クッキー・首》 2006年 鉛筆、クレヨン/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm	46 《水金地火木》 2006年 油彩/カンヴァス 91×91cm	59 《無題》 2008年 油彩/カンヴァス 41×31cm
40 《靄気楼・富山湾》 2003年 油彩/カンヴァス 72.5×61cm	44-10 《珊瑚柄の壁紙》 2006年 岩絵具、顔料/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm	47 《明るい右手》 2006年 油彩/カンヴァス 100×100cm	60 《無題》 2008年 油彩/カンヴァス 41×31cm
41 《水金地火木》 2003年 油彩/カンヴァス 72.5×72.5cm	44-11 《食器・首》 2006年 鉛筆、色鉛筆、クレヨン/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm	48 《Lesson 11》 2007年 油彩/カンヴァス 91×91cm	61 《月並》 2009年 油彩/カンヴァス 31.5×41cm
42 《無題》 2005年 油彩/カンヴァス 91×91cm	44-12 《マンション・ラポール》 2006-2007年 顔料、岩絵具、グアッシュ、アクリル絵具/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	49 《其ノ児—crown》 2008年 アクリルグアッシュ、顔料/紙/ガラス、鉄 170×119×5cm	62 《広場》 2009年 油彩/カンヴァス 100×100cm
43 《水金地火木》 2005年 油彩/カンヴァス 72.5×72.5cm	44-13 《TAXI》 2006-2007年 顔料、岩絵具、グアッシュ/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	50 《此の児—camellia》 2008年 アクリルグアッシュ、顔料/紙/ガラス、鉄 170×119×5cm	63 《湖畔》 2009年 油彩/カンヴァス 100×100cm
44 《遊園》 2004-2007年(23点組のうち21点出品)	44-14 《3m》 2006-2007年 顔料、岩絵具、グアッシュ/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm 個人蔵	51 《機関車の絵・小池君の零戦と立川君の鉄人28号・絵画教室初日の絵・図画の教科書の中のゴッホの絵・母の誕生日に描いたバラの絵・図画の写生の時間に描いた藤棚の絵・女の子の絵》 2008年 クレヨン、水彩、鉛筆、色鉛筆/紙 160×110cm	64 《フェリー、往ったり来たり—宮島》 2009年 油彩/カンヴァス 116.7×116.7cm
44-1 《ハタケククロス》 2005年 岩絵具/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm	44-15 《バグダッド・自家用車・船》 2007年 鉛筆、色鉛筆/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	52 《スカート・破裂》 2008年 油彩/カンヴァス 100×100cm	65 《太郎、泳ぐ—ヤバク川》 2009年 油彩/カンヴァス 116.7×116.7cm
44-2 《カケルコ》 2005年 顔料、岩絵具/紙/ガラス、鉄 171×121×5cm 個人蔵	44-16 《曳航・積載》 2007年 筆、色鉛筆/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	53 《Damm》 2008年 油彩/カンヴァス 72.7×72.7cm ガレリア フィナルテ蔵	66 《君の後ろ—宮島》 2009年 油彩/カンヴァス 100×100cm
44-3 《前略、かいつまんで申し上げます。》 2006年 顔料、鉛筆、岩絵具/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	44-17 《着陸》 2007年 顔料、岩絵具/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	54 《湖畔》 2008年 油彩/カンヴァス 100×100cm	67 《僕の前—宮島》 2009年 油彩/カンヴァス 100×100cm
44-4 《拝啓、ことの子細を申し上げます。》 2006年 顔料、鉛筆、クレヨン、マーカー/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	44-18 《日と金星》 2007年 鉛筆、色鉛筆/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	55 《湖畔》 2008年 油彩/カンヴァス 100×100cm	68 《ハチ鳥、うるさい！—プエノス・アイレス》 2009年 油彩/カンヴァス 33.2×24.2cm 三嶋りつ恵氏蔵
44-5 《台風・体育館》 2006年 顔料、グアッシュ/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	44-19 《日と金星》 2007年 鉛筆、色鉛筆/紙/ガラス、鉄 119×171×5cm	56 《潜水館》 2008年 油彩/カンヴァス 91×91cm	69 《太郎、潜る》 2010年 油彩/カンヴァス 116×116cm
44-6 《明けの明星よ！ あれが、わたしの、家なのです》 2006年 グアッシュ、鉛筆、顔料/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm 個人蔵	44-20 《ミルコ》 2007年 顔料、グアッシュ/紙/ガラス、鉄 171×119×5cm 個人蔵		70 《津波》 2010年 油彩/カンヴァス 116×116cm

71 《食器・金星》 2010年 油彩/カンヴァス 116×116cm	4-6 [06_0707_0011] 2006-2007年(ed. 1/1) フィルムにカラーコピー 41×29cm	5-8 《芍薬》[0526_5958] 2009年 69.3×100cm 作家蔵	5-27 《気泡とモクレン(木蓮)の花より改題、 リュウカデンドロン》[1021_0827] 2008-2009年 65.2×43.5cm 作家蔵
72 《焚き火》 2010年 油彩/カンヴァス 116×116cm	4-7 [06_0707_0012] 2006-2007年(ed. 1/1) フィルムにカラーコピー 41×29cm	5-10 《ギボウシ》[0910_9180] 2009年 68×100cm 作家蔵	5-28 《気泡と月島のビル群》[1105_9949] 2008-2009年 65.2×43.5cm Gallery ARTE蔵
73 《雑木林》 2010年 油彩/カンヴァス 116×116cm *No.12は欠番	4-8 [05_2327] 2006年(ed. 1/1) インクジェットプリント、シルクスク リーン 151×101cm	5-11 《お台場》[1001_9864] 2008-2009年 100×69.3cm 作家蔵	5-29 《つわぶぎ》[1105_9920] 2008-2009年 53.5×35.5cm 作家蔵
齋藤ちさと SAITO Chisato	4-9 [05_2354] 2006年(ed. 1/1) インクジェットプリント、シルクスク リーン 151×101cm	5-12 《リュウカデンドロンのある空間》 [1021_0801] 2008-2009年 100×66.6cm 作家蔵	6 《気泡シリーズのための色見本》 2009-2010年 ラムダプリント 28.5×18.8cm(23点) 作家蔵
1 《気泡研究vol.1：風景》 2005年 アニメーション(ed. 2/3、1分42秒) 作家蔵 制作協力：府中市美術館 協力：M7：MAQUIARTO 7TH FLOOR ART ROOM	4-10 [06_0628_0011] 2006-2007年(ed. 1/1) インクジェットプリント、シルクスク リーン 151×101cm	5-13 《リュウカデンドロンのある空間》 [1021_0804] 2008-2009年 100×66.6cm 作家蔵	7 《気泡球》 2009-2010年 ラムダプリント 12×12cm(約20点) 作家蔵
2 《気泡研究vol.2：泡生活》 2007年 アニメーション(1分39秒) 作家蔵 協力：M7：MAQUIARTO 7TH FLOOR ART ROOM	4-11 [06_0707_0009] 2006-2007年(ed. 1/1) インクジェットプリント、シルクスク リーン 151×101cm	5-14 《クローバーの絵》[0127_1975] 2009年 65.2×43.5cm 作家蔵	*Nos.5-7、5-9、5-16、5-22、5-23、 5-25は欠番
3 《気泡観測》 2010年 DVD 作家蔵 協力：M7：MAQUIARTO 7TH FLOOR ART ROOM	5 《気泡》 2008年-(ed. 1/1) ラムダプリント 5-1~21 協力：M7：MAQUIARTO 7TH FLOOR ART ROOM 5-24~29 協力：気体分子ギャラリー (テキスト：彦坂尚嘉)	5-15 《クローバーの絵》[0128_2072] 2009年 65.2×43.5cm 作家蔵	
4 《泡像》 2005-2007年(ed. 1/1) 作家蔵 制作協力：富士ゼロックス株式会社 ART BY XEROX 協力：M7：MAQUIARTO 7TH FLOOR ART ROOM	5-1 《生け花》[0314_3401] 2009年 151×99cm 作家蔵	5-17 《ヘレボルス》[0313_3312] 2009年 48×72cm 作家蔵	
4-1 [05_2133] 2005年(ed. 1/1) インクジェットプリント 151×101cm	5-2 《自由の女神》[0515_5550] 2009年 150×100cm 作家蔵	5-18 《クローバーの絵》[0420_5472] 2009年 48×72cm 作家蔵	
4-2 [05_23888] 2005年(ed. 1/1) インクジェットプリント 151×101cm	5-3 《レインボーブリッジ》[1105_9929] 2008-2009年 100×150cm 作家蔵	5-19 《芍薬とダリア》[0525_5808] 2009年 68×45.3cm 作家蔵	
4-3 [05_7830] 2005年(ed. 1/1) インクジェットプリント 137×100cm	5-4 《東京タワー》[1119_1151] 2009年 151×100cm 作家蔵	5-20 《芍薬とダリア》[0525_5813] 2009年 68×45.3cm 作家蔵	
4-4 [05_2340] 2005年(ed. 1/1) インクジェットプリント 101×67.3cm	5-5 《ヘレボルス》[0313_3307] 2009年 100×68cm 作家蔵	5-21 《芍薬とダリア》[0525_5970] 2009年 68×45.3cm 作家蔵	
4-5 [06_05_0163] 2006年(ed. 1/1) インクジェットプリント 101×67.3cm	5-6 《レッドクローバーの畑》[0510_5328] 2009年 100×66.6cm 作家蔵	5-22 《高層マンションからの眺め》 [1112_0057] 2009年 68×100cm 作家蔵	
		5-26 《レインボーブリッジ》[1105_9938] 2008-2009年 65.2×43.5cm 作家蔵	

9-7 名簿 The NACT Council and Staff List

評議員名簿 The NACT Council

新井光風	(社)日展理事、謙慎書道会理事長、書家
梅原幸雄	東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻教授、日本画家
奥谷禮子	(株)ザ・アール代表取締役社長
熊倉純子	東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科准教授
小林真理	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
酒井忠康	世田谷美術館長
桜井 武	熊本市現代美術館長
澄川喜一	(社)日本美術家連盟理事、島根県芸術文化センター長、彫刻家
高階秀爾	大原美術館長、西洋美術振興財団理事長
高橋信也	森美術館ジェネラルマネージャー、森ビル株式会社取締役
塗師祥一郎	(社)日展常務理事、日洋会常任委員、洋画家
塙 義一	日産自動車株式会社名誉会長
馬淵明子	日本女子大学人間社会学部文化学科教授
山本 貞	(社)二紀会理事長、(社)日本美術家連盟常任理事、洋画家
横里幸一	(株)NHKプロモーション代表取締役社長
若林 覚	サントリー美術館顧問

平成22(2010)年3月末現在 16名

職員名簿 Staff

館長	林田英樹		
副館長	福永 治		
[庶務課]		[学芸課]	
庶務課長/室長(管理)	水野元洋	学芸課長/企画室長	
係長(庶務)	伊藤 晃	(主任研究員)	南 雄介
一般職員(庶務)	田島秋桜	主任研究員(企画)	長屋光枝
事務補佐員	浅井倫子	主任研究員(企画)	宮島綾子
事務補佐員	白石顕子	研究補佐員	長谷川珠緒
係長(会計)	菅原 章	研究補佐員	加藤 絢
一般職員(会計)	西野敏成	研究補佐員	櫻井聖子
事務補佐員	河野正美	研究補佐員	阿部真弓
事務補佐員	田上麻里	研究補佐員	小林明子
事務補佐員	池田晃佑	研究補佐員	山田由佳子
室長(運営)/係長(事業)	小山寛俊	研究補佐員	工藤弘二
一般職員(事業)	福田武史	事務補佐員	滝沢麻衣
事務補佐員	瀧川真里	事務補佐員	野々下美和
事務補佐員	市川亜木子	事務補佐員	李 夢迪
事務補佐員	渡部 恵		
		教育普及室長(主任研究員)	西野華子
		研究員(教育普及)	本橋弥生
		研究補佐員	吉澤菜摘
		研究補佐員	鳥居 茜
		情報資料室長(主任研究員)	平井章一
		主任研究員(情報資料)	室屋泰三
		研究補佐員	白鳥真理子
		研究補佐員	橘川英規
		研究補佐員	奥村嘉子
		研究補佐員	力丸彩子
		研究補佐員	高橋麻衣子
		研究補佐員	窪内美緒
		研究補佐員	三塚義隆
		情報研究補佐員	尾形泰三
		特任研究員	三木哲夫

平成22(2010)年3月末現在 45名

平成21年度 国立新美術館 活動報告

発行者：林田英樹
発行：国立新美術館
東京都港区六本木7-22-2
電話03-6812-9900

印刷：(株)アイワード
発行日：平成22年5月31日(非売品)

NACT REPORT
April 2009 – March 2010
The National Art Center, Tokyo

Publisher: HAYASHIDA Hideki
Published by: The National Art Center, Tokyo ©2010
7-22-2 Roppongi, Minato-ku, Tokyo, 106-8558, Japan
Printed by: iWORD

新 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO